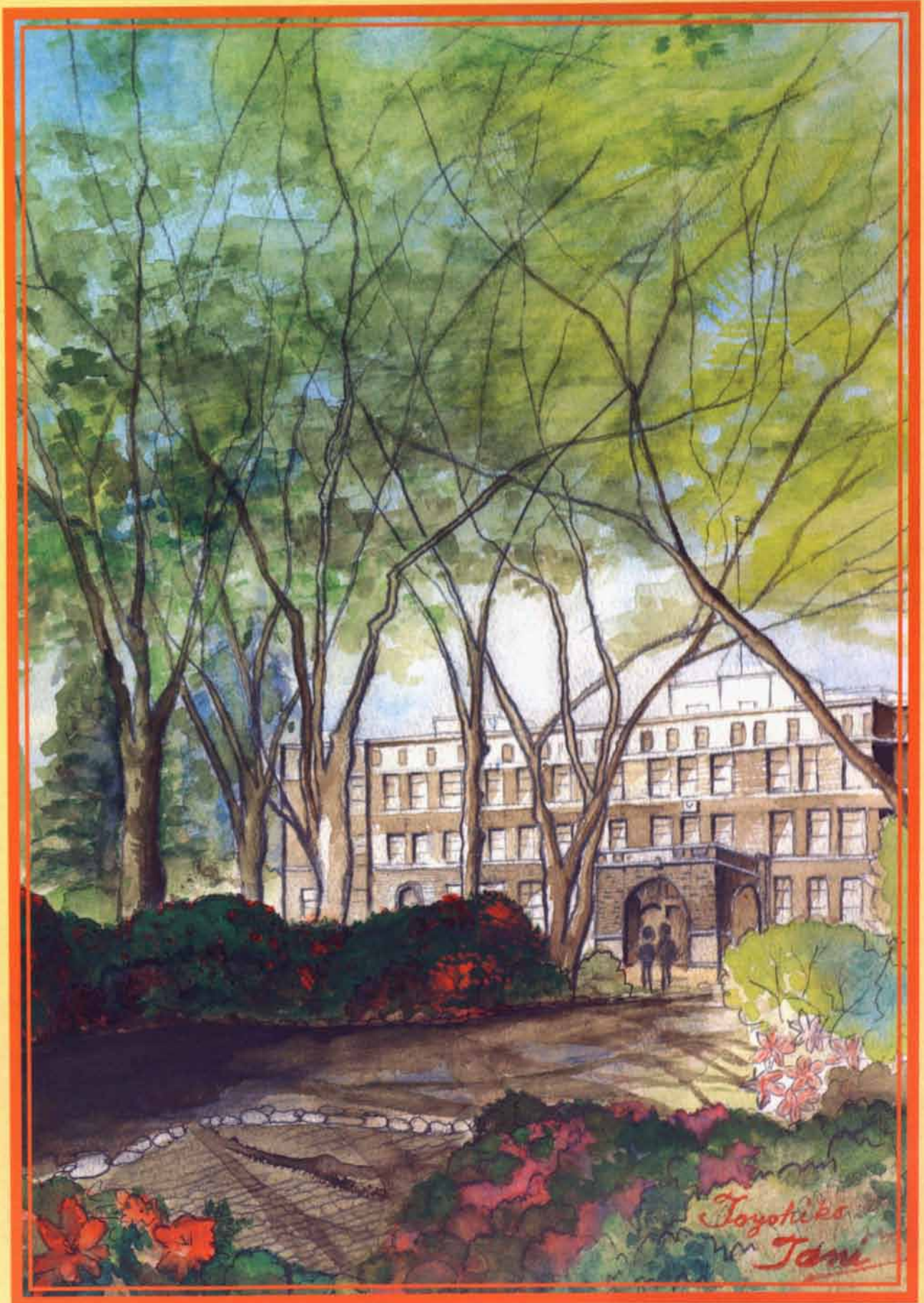


# 成溪會誌





# 第30回 成蹊桜祭



今年も4月第一日曜日にあたる4月1日に第30回成蹊桜祭が開催されました。

当初発表された気象庁の桜開花予想では桜が散ってしまつてからの開催となるはずでしたが、その後の開花予想の修正と3月下旬の花冷えなどで前日の夜の雨にもかかわらず、当日は満開の桜の中での開催となり大勢の来場者で賑わいました。

記念すべき30回目の桜祭は情報図書館が完成してから最初の開催でしたので昨年までと模擬店の出店数も配置も変わりさらにステージも2箇所となって大勢の方々に楽しんでいただくことができました。司会は文学部卒業で元テレビ金沢アナウンサーの田島葉子さんと経済学部卒業で川崎フロンターレ専属レポーターの廣瀬なおみさんのおふたりでしたが、所属事務所が一緒で更にお誕生日まで同じということで息もピッタリでした。

おふたりの司会により本館前のイベント広場では最初に小学校による和太鼓が披露され、続いて桜祭実行委員会の野村委員長から開会の挨拶、第一回桜祭から参加されている藤田氏から当時使用した造花の桜を披露して第30回桜祭についてのお話、成蹊学園岸曉理事長のご挨拶と新任の武藤恭彦経済学部長の紹介が行われました。

桜祭がどうやって開催されたのかについては「成蹊桜祭30回を迎えて」ということで政治経済学部第一回卒業の石坂泰彦氏と同じく第6回卒業の高橋靖氏の両名がパンフレットに当時の見事な桜が満開の前庭では茶道部野点、馬場ではサラブレッドとポニーによる乗馬サービス、本館東側では人気のソーラーカーの試乗が行われ、情報図書館前の子供達に大人気のエアートランポリンにも大勢のお客様が集まり長い列ができるなど整理券を配る場面も見受けられました。

例年になく桜祭としては最良のお天気でしたが、子供を抱いて記念写真を撮るなどサービスマンが着ぐるみの中に入っていた体育会の学生さんは暑くて大変だったようです。

また、情報図書館前で開催されたアイテム協会主催の盲導犬の体験歩行でも体験歩行をしたことよつて盲導犬に対する理解と関心を深めることが出来たと好評でした。デモンストレーション後に木陰でお腹を出して甘えている盲導犬協会の犬の周りにも大勢の子供達が集まっていました。

また、昨年まではトラスコンの中で行われていたお祭り広場も今年は本館東側に移動するなど模擬店は全て屋外になり大勢の来場者で賑わっていました。

さらに、クレープ・おでん・焼きそばなど模擬店の定番商品の販売から手作りの品々・生花・小物などの販売テントにも大勢の方がいらして終了時間前に「売切れ」の看板が出ているお店もあったほどです。また昨年から出店している成蹊中学の入試要項案内テントにも熱心に質問

ことを書いておられますので読まれた方も多いと思います。

その後は左右に並んだステージから交互に旧制高校有志の方々による懐かしいメロディーの寮歌・運動部部歌が披露され、続いては総勢80名にも及ぶOBオーケストラ・コーラスの演奏、更に軽音楽部OBバンドの演奏が行われました。軽快なジャズのあとはウインドオーケストラOB・OGバンドの演奏が行われ続いては現役としては最後の演技となる体育会応援指導部チアリーダーの20名が華やかながらも迫力のある演技を披露してくれました。

さらに続いて今回初登場で創立10周年を迎えたJAMZ(ジャムズ)OBのストリートダンスです。在学中にストリートダンスをするクラブがなかった時代の来場者の方々も多くいらしていたので注目を集めていました。続いて美しいドレス姿で登場したのが競技ダンス部です。華やかで綺麗なながらも競技と名が付くだけに技が決まると盛大な拍手が興っていました。華やかなデモンストレーションが続いてから再びコンバルサウンズOBとベンチヤーズバンドOBのふたつの演奏が披露されました。

この他には各建物の中でグリークラブOBコンサート、軽音楽部OBライブなどの演奏が行われ、史料館では卒業生からの寄贈品の紹介や写真会による写真の展示も行われました。桜祭に併せてOB会やクラス会を開催することが多く幅広い年代の卒業生が来校さ

にいらつしやる方々が目立ちました。成蹊会のテントでは校章入りのネクタイなどの販売も行っていました。

恒例となった母校の現在を知っていたいただくための「キャンパスツアー」は卒業生だけでなくこれから成蹊に通いたいという若い方々の参加もあり人気を集めていました。

このように第30回成蹊桜祭は天気にも恵まれて無事に閉会することができました。

桜募金に協力してくださった方々、桜祭開催に当たりご協力くださいました学園関係の方々をはじめ卒業生や父兄の皆様、さらに準備や後片付けを手伝ってくださった学生の皆様はこの場をお借りして心より感謝し御礼申し上げます。

桜は学校が春休み中に咲くことが多いので構内に桜並木があることを知らない卒業生がまだまだたくさんいるようです。成蹊の仲間と会う機会がありましたら、「4月第一日曜日は雨天決行で桜祭が開催される」ということを是非ともおっしゃっていただければ幸いです。

水本桂子(文・57年)





# 安倍晋三氏「内閣総理大臣就任を

# お祝いする会」が開催されました。



応援指導部によるお祝いのアトラクション



瀧会長発声による乾杯の挨拶



応援指導部による安倍さんへのエール



杯が足りません。心の中で乾杯



安倍さんの返礼挨拶に聞き入る会場



そここになつかしい顔が。安倍さんを祝福する友人達



アーチェリー部同期と「思い出の渚」を熱唱



応援指導部のリードによる全員での校歌斉唱

## 安倍晋三氏内閣総理大臣就任を祝う会 決算報告

開催日時 2006年11月22日(木)  
18時30分より20時30分  
開催場所 赤坂プリンスホテル  
参加者数 1583名(参加申込者数)

【収入の部】	
参加費	一人12,000円×1583名 ¥18,996,000
【支出の部】	
会場費	赤坂プリンスホテル ¥15,255,534
進行経費	音響、プログラム進行関係等 ¥725,527
開催通知関係	印刷・郵送費 ¥697,270
記念品作成費	¥1,814,400
事務関係経費	名札・名札ホルダー等 ¥119,884
開催報告関係	報告書印刷・郵送費、記録 ¥399,164
支出合計	¥19,011,779
収支	¥-15,779

平成18年11月22日 社団法人成蹊会と学校法人成蹊学園では、卒業生の安倍晋三氏（法学部8回卒）が内閣総理大臣に就任されたことをお祝いする会を赤坂プリンスホテルにおいて開催いたしました。当日は1,500名を超える卒業生、学園関係者が一同に集い、安倍氏の首相就任をお祝いするとともに同窓の絆を深めました。



挨拶する安倍さん（法8回卒）



お祝いの挨拶を述べる岸曉成蹊学園理事長（旧高23回卒）



成蹊会瀧会長挨拶（政経9回卒）



司会はフジテレビアナウンサー高島彩さん（法33回卒）



岸理事長の挨拶時の会場



現役アーチェリー部長と小学生からの花束贈呈



カメラ、携帯カメラの砲列



同窓生と握手

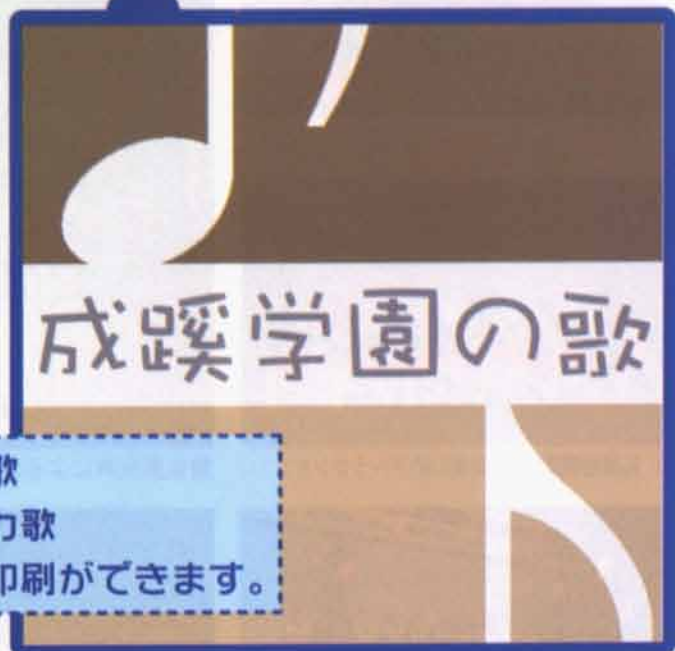


# ホームページのご案内!

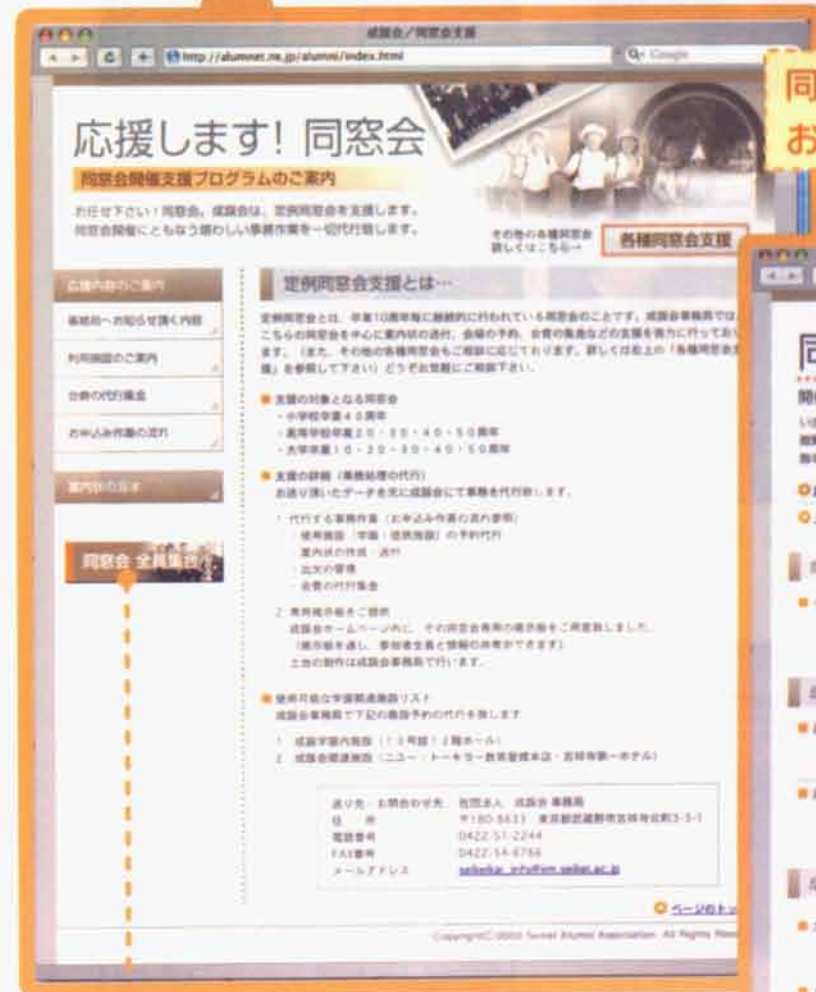
成蹊会ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>



写真館の写真が  
大きくなりました。



校歌  
心力歌  
の印刷ができます。



同窓会開催の  
お手伝いをします。



同窓会 全員集合!

### 第30回成蹊桜祭

安倍晋三氏「内閣総理大臣就任をお祝いする会」が開催されました。

全卒業生参加の同窓会活動を目指して……………瀧 秀彦／2

### 就任挨拶

経済学部長に就任して……………武藤 恭彦／3

### 新同窓会長就任挨拶

高等学校(旧制)同窓会会長……………岩崎洋一郎／4

高等学校(新制)同窓会会長……………相賀 昌宏／4

プレメ同窓会会長……………磯部 茂／4

### 特別寄稿

「安倍教育改革」の行方を読む……………清原 武彦／6

### 随想

カウラと成蹊高校……………松永 義明／10

成蹊のアケボノスギ／5 働く成蹊人／9 表紙絵の言葉／12 叙 勲／43

第84回枯林忌／13 予 告／29 寮歌について／30 成蹊会学術教育助成報告／50 地域同窓会連絡先／47 退職挨拶／48

武甲寮歌祭／32 成蹊学園の地域清掃活動に卒業生も参加しませんか！／32 成蹊会事業報告／60 成蹊会報告／61 成蹊大学オープンキャンパス2007／62 寄付金芳名録／59

成蹊学園建学の日「私の成蹊」エッセイ募集について／33 新聞雑誌コラム／34 表紙の題字は故上條信山先生、絵は品川和彦(政経・44年)

### 同窓のつとめ

学校年次会・ゼミOB会のつとめ／14

高校卒業40周年

小学校卒業40周年

大学卒業20周年

小学校同窓会委員会

中学卒業50周年「てれ馬会」

生誕30周年を祝う会

第十三回清和会

高校卒業50周年

大学卒業10周年

いさお会

桜祭船越会

体育会・文化会・OB会・趣味のつとめ／20

成蹊グリークラブ

高校地理研究部OB会

ESS(英語会)OB会

理工学部硬式庭球部創立45周年

彩蹊会

成蹊ラグークラブ歓送・祝勝会

写蹊会デジタル懇話会

写蹊会写真展

業界・企業のつとめ／23

三菱自動車OB成蹊会

明治安田生命成蹊会

JTB成蹊会

三井住友銀行行政経字部OB会

地域のつとめ／25

オーストラリア・クイーンズランド成蹊会

北海道支部枯林忌の集い

秋田成蹊会

千葉支部事務局長

―酒井四平氏に感謝状

成蹊会千葉支部の近況

渋谷成蹊会

三重成蹊会

兵庫成蹊会

愛媛成蹊会

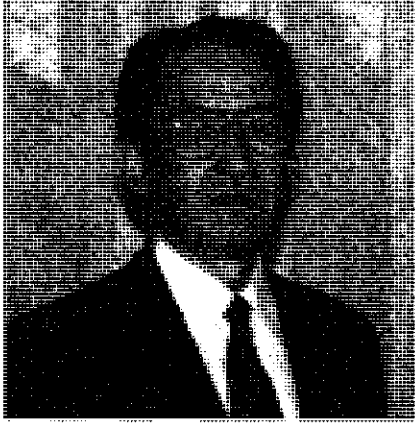
# 全卒業生参加の同窓会活動を目指して

成蹊会会長 瀧 秀彦

本年3月に成蹊高等学校、成蹊大学を卒業されました皆様には、成蹊会へのご入会を心より歓迎いたします。

本年も、高等学校及び大学・大学院の卒業生・修了生およそ二千三百名を成蹊会会員として本会へお迎えし、学園同窓会としての成蹊会も7万7千人を超える規模に発展をしております。ご入会の卒業生の皆様には、学校・学部同窓会はもとより、クラブ、ゼミなど在学习時の繋がりを基礎とした同窓会、そして卒業後、新たな繋がりを持たれる職域や地域の同窓会を通して更なる親睦の機会を増やしていただくことができれば成蹊卒業生としての実感をさらに深められるものと思っております。

さて、去る4月1日に母校キャンパスで開催されました成蹊桜祭は、学園の満



開の桜に包まれ、さらに天候にも恵まれたことから、多くの卒業生、在校生及びご家族、教職員の参加をいただきました。まさに春のオール成蹊の催しとして定着をしております。

その成蹊桜祭も今年で第30回の節目を迎えました。30年前、桜の咲く成蹊キャンパスに卒業生が集い、一日を楽しく過ごそうとの先輩方の思いと努力が結実し、第1回の成蹊桜祭が開催されました。以来、この催しが毎年多くの卒業生に支えられ続けてこられたということは、大変有難いことであり、この日のために1年間かけて準備を続けてこられた関係の方々に心から感謝を申し上げます。

新年度を迎え忙しい時期にある学園には、卒業生の母校での催しに毎年多大なご後援を頂戴しており、さらに大学各団体の学生諸君にも積極的に準備から片付けまで、運営全般に亘る協力をいただいております。また本年から、小学校PTAにも本部企画の「お祭り広場」の運営に参加・協力をいただくことで、活動の輪を広げております。このお祭り広場の売り上げは、当日桜募金として来場者からご協力いただいた寄附と合わせて、学園の100周年記念事業募金として、桜祭実行委員会より寄附をさせていただきます。

このように多くの方々を支えられ、そして多くの方楽しんでいただける桜祭にこそ、成蹊における同窓会本来の姿を見ることができそうです。同窓会の基盤は「友情」と「愛校心」そして「恩師への感謝の心」と考えております。母校成蹊学園に対する愛着、同年次の仲間や先生方を懐かしいと思う気持ちは皆同じです。そして母校がいつまでも良い学園であってほしいとの願いを持っております。このごく自然な感情が同窓会としての成蹊会が存在する基盤であり、成蹊会が「卒業生相互の親睦」と「母校成蹊学園への支援」を二つの大きな柱としているのも、このことに拠っております。この気持ち

を共有する全ての卒業生が何らかの形で同窓会に参加して絆を深められ、そしてその同窓会を成蹊会が側面から支援させていただくことが、成蹊会活動の基本であると考えております。

現在、成蹊会では同窓会として本来の在るべき姿、活動について改めて問い直すべく、成蹊会理事を中心に議論を重ねております。組織人員が年々増加している中で、より多くの同窓生が成蹊会の活動に参加し、それがまた母校の発展に繋がって行く、そのような活動を目標にしたいと考えております。そのため、現成蹊会役員の任期が6月末で終了し、7月から新たな体制がスタートすることを期に、成蹊会の具体的な活動を検討する新たな委員会を立ち上げる予定であります。この委員会では、同窓会活動に対する各

学校・学部同窓会からの意見や母校支援を主な任務とする特別委員会の意見も積極的に取り入れながら、およそ1年半をかけて議論を進めることとしております。この委員会による検討は、今後の成蹊会の活動を定める大変重要な役割を担っております。各同窓会の活性化や母校支援の更なる充実を図り、全ての卒業生のために資する活動とすること、そのような意識を持って取り組んでいくことの必要性を感じております。多くの卒業生の積極的な参加をいただきながら進めていければと、ご協力をお願いしたいと存じます。

さて、平成24年に向けた母校成蹊学園の創立百周年記念事業が進められております。国際教育センターの設立に始まり、情報図書館の開館、そして現在、中学・高等学校及び小学校校舎の建替えが順次行われております。これら一連の事業により成蹊教育の質的向上が図られ、社会有為な人材を育てるという成蹊建学の理念が実践されていくことを切に望んでおります。私共卒業生は、この母校の事業に対する最大の支援者でなければなりません。卒業生一人一人ができる範囲での支援を継続していくことで、母校と共に百周年を迎えることができるのだと思っております。成蹊学園百周年記念事業募金に対する卒業生の皆様の更なるご支援をお願いいたします。

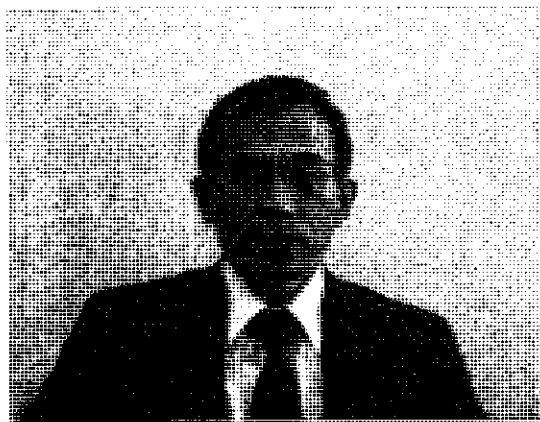
(政経・35年)

# 経済学部長に就任して

武藤 恭彦

経済学部は数年前の大幅な学部改革

により経済・経営の二学科を統合して経済経営学科のみの一学科体制となりました。また、コース制を採用し、学生諸君には経済と政策・金融と会計、社会と環境、企業と戦略、組織と人間の五つのコースのいずれかに所属してもらおうことといたしました。この目的は主として学生諸君の勉学の方向付けを明瞭にしようとするところにありますので、これらのコースには定員を設定せず、自由に所属コースを選ぶことが



できます。

また、このようなコース分けとは別に、国際社会プログラム・情報分析プログラムの2つを設けております。21世紀の学園教育の基本的な方向として国際化・情報化の流れに沿った教育体制の整備が提唱されたのはすでにかなり以前になりますが、これらのプログラムはまさにその流れに即したものであると思います。この二つのプログラムは定員制を採用していますが、いずれのコースに所属する学生であっても履修できるようになっています。

この改正以来しばらくの間、旧カリキュラムと新カリキュラムとの並存状態が続いてまいりましたが、本年度からは学部段階で全ての年次に新カリキュラムが適用されることになりました。また、大学院についても今年度から経済学研究科・経営学研究科を統合して経済経営研究科とし、学部カリキュラムとの連携を重視した教育を進めてまいります。

経済学部としてのカリキュラム改革

は、このような経過をたどって形式的には完成したわけですが、各コースのバランスの取れた運営や二つのプログラムの充実のため、今後とも努力していく必要があります。また、経済学部のみならず大学全体としての重要課題として残されているものに、教養教育のいっそうの充実があります。しかし、学部単位でのカリキュラム改革に比べ、これはかなりの困難を伴います。第一に、現代的な教養教育の理念はいかにあるべきかという基本的な問題についての詰めが必要となります。第二に、学部の分立を基礎にして編成されている大学組織が現に存在している中で、学部を問わず大学生として共通に身につけて行くべき基礎的事項が中心となる教養教育カリキュラムをどう作り上げていくかという問題があります。

私はこれまで三年間にわたり、国際教育センターの所長をつとめて参りました。また、それに先立つ四年間、専務理事補佐として学園業務の一端にかかわって参りました。この間に強く感じたことは、大学全体としての学部間の連携の強化、および学園全体としての縦方向の一貫性が強く必要とされていることでありました。このような観点から、国際理解教育の充実について

小学校・中学高等学校での英語教育や国際交流プログラムの整備には強い関心を持って来ましたが、大学における学部横断的な教育の整備にも同様の関心を持って参りました。このたび、経済学部長に選任されましたが、単に一つの学部の、あるいは大学の一員としての観点からばかりではなく、大学・学園全体の観点を忘れることなく対処して参りたいと考えております。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

## 略歴

1970年4月  
 東京大学経済学部卒業  
 東京大学大学院経済学研究科修士課程、ジ  
 ュネーブ大学国際研究所博士課程（P.D.取  
 得）、日本経済研究センター研究員、東京  
 経済大学助教授を経て  
 1988年4月～現在  
 成蹊大学経済学部教授  
 この間、成蹊学園専務理事補佐  
 (2000～2004)  
 学園国際教育センター所長  
 (2004～2007)  
 を兼任



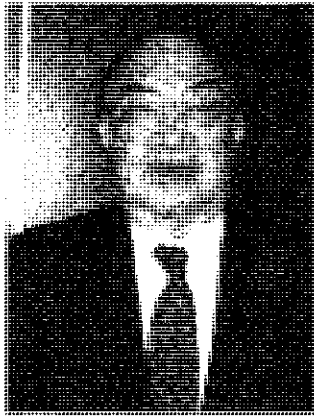
## 高等学校（旧制） 同窓会会長

岩崎洋一郎

この度は、西村先輩の後を継ぎ、囃らずも会長に就任しました。我々二十三回生は、旧制高校に三年間通った最後の学生です。それでも、今や、皆、もう七十歳半ばを過ぎて、老境に入ってしまったました。

旧制高校の創立八十五周年を、三年先に迎えますが、その祝賀の行事を行うように先輩諸氏から言いつかっております。微力ですが精一杯努めますが、成功するためには、皆様の暖かい、そして絶大なサポートが不可欠です。どうかよろしく願います。旧制高校としては、最後の公式行事になる可能性もあり、華やかに行えればと念じております。

成蹊学園には、小学校から旧制高校卒業までの長い期間お世話になりました。伝統ある一貫教育のすばらしい学校と



常々感謝しております。その優れた伝統や校風を、次代に、そして又、その次へと伝える大仕事に、精一杯励みたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。  
(旧高・25年)

## 高等学校（新制） 同窓会会長

相賀昌宏

上原明会長のもとでお手伝いをしていられるうちに、会長を引き継ぐようにとの話になり、固辞したのですが、成り行きから断れずにお引き受けしました。

同窓会のことには正直に言って、卒業してからほとんど意識に登らなかつたのですが、数年前に上原先輩から、同窓会で近辺雑感を話してくれという電話をいただき、その時に初めて顔を出しました。ほとんど直接には知らない方ばかりでしたが、同じ先生を知っているなど、話をしているうちになんとなく懐かしい気持ちになり、出席するようになりました。たまに出て、ひとりで先に帰るときもあれば、ちよつと一緒に飲みに行くときもあるといったように気ままにつきあえるところが気に入っています。ある年齢になり、家庭や仕事も少し落ち着いてきたとか、何かをきっかけに、同窓会に顔を出

## 新同窓会長就任挨拶



そうと思う方のために、これまでと同様に近寄りやすい同窓会を続けていけたらいいと考えています。

会員間でよく話し合われていたように、成蹊の教育理念とその実情に心を配り応援していくという姿勢を、今後とも同窓会として持ち続けたいと思います。多くの方のご参加をお待ちします。  
(高・44年)

## プレメ同窓会会長

磯部 茂

今年四月八日に開催されましたプレメ（政治経済学部医歯学進学課程）同窓会総会で、山内則子先生の後を継ぎ会長に選任されました。浅学非才ではありますがお引受けすることになりました。

プレメ同窓生は成蹊大学には二年間しか在学しませんでしたし、昭和二十四年

に第一回生が入学し昭和三十七年の十四回生の入学をもって終了しましたので会員は減ることはあつても増えません。成蹊会では稀有な存在というわけですが、この短期間でのプレメ時代が人生で最も勉学に励んだ充実した時期であつたと思つております。

成蹊大学でのプレメディカルコースのカリキュラムは他大学でのそれよりも倍以上、実施されました。

特に今はその面影を残しつつも立派な情報図書館となつておりますが、「理化館」の実験室で夜遅くまで学習したことをつい昨日のように覚えております。

プレメ同窓会の皆さんは還暦を過ぎたわけですので時間的余裕ができたことと存じます。

年に一度は成蹊大学の近くにでも集まつて親睦を深めるべく計画を立てますので是非お顔を見せて下さい。会員皆様の御支援と協力をお願い致します。  
(プレメ・29年入)





# 成蹊のアケボノスギ

山岸常夫

昭和五十一年七月成蹊陸上競技部創立五十年記念事業の一つとして、四〇

米グラウンド記念碑の後に、メタセコイヤを植樹して、三十数年が経った。

先年、今は亡き昭和天皇陛下が、御所

吹上御苑内でご覧になった植物名を、メタセコイヤと側近が報道陣に伝えた

処アケボノスギと訂正するよう指示された由、陛下が如何にアケボノスギと

云う和名を大切にされて居られたかが拝されます。新聞によつては誤を正されたと言つた記事を書いているのもありましたが、メタセコイヤが標準名で

アケボノスギが別名ですから、誤を正すのではなくお好みを示されたと云うべきかも知れません。

大阪市立大学の三木茂博士が植物の化石を研究され、昭和十六年新種と認めてメタセコイヤと学名をつけ、昭和

二十年中国四川省で生きた化石植物メタセコイヤが発見され、アメリカ他、各地に拡がり昭和二十四年にカリフォル

ニア大学のチュニー教授が故陛下に実生苗を献上されたのが、この木の日本に入つた最初と云う資料が多いので日本名の命名もこの時ではないかと思ひますが、従つて吹上御所のアケボノスギが日本で一番古いものと云う事になるでしょう。吹上御苑の末裔かも知れぬ成蹊グラウンドのメタセコイヤも三十年余経ち亭々たる大木となりつつあります。

美しい和名アケボノスギの命名者であられるかも知れぬ昭和天皇も崩御され二十年。昭和の御代六十余年を生きて来た者共として色々なことのあつた御代を憶い感慨無量、在りし日の陛下をお偲び申し上げ、成蹊のアケボノスギの尚々の生長を念ずるものである。

昭和六十二年「歌会始」の御題「木」の際詠ませ給える御製

わが国の、たちなほりし年々に  
あけぼのすぎの木はのびにけり  
(政経・27年)



## 成蹊探訪

### 陸上競技部創立50年記念碑

大正14(1925)年に成蹊高等学校(旧制)が開学すると、交友会として「不言会」が組織され、この不言会の運動部・文化部の活動により、旧制高校生の質実剛健の気風が醸成されていきました。

陸上競技部では初めての対外試合を行った昭和2(1927)年7月10日の東京高校戦を部の紀元と定め、昭和51(1976)年の同日、400mグラウンドのバックストレッチ側の土手において創立50年記念碑の除幕と植樹が行われました。

御影石の記念碑には「敗れて流す涙あらば 練習の苦しさに泣け」と刻まれており、碑文は厳しい練習に明け暮れた歴代部員の心の中にあつた共通の言葉でした。揮毫は日本書道美術院理事で書家の川越敬楓女史によるものです。

植樹されたメタセコイヤは、秋に紅葉し、落葉した冬空には綺麗な円錐形の樹形が映えます。生きる化石植物といわれ長い歴史を経た種であり、大学・高校の部員を末永く見守り続けてほしいとの卒業生(成蹊陸友会)の思いが感じられます。

旧制高校時代はインターハイを目標に黄金時代が築かれましたが、昭和24(1949)年の大学開学と同時に大学陸上競技部が創部すると、昭和27(1952)年1月開催の第28回大学箱根駅伝への出場を果たしました。チーム編成ではラグビー部員の協力も得ながら、初代主将の山岸常夫氏が第1区の重責を担い箱根往路を駆け抜けました。成蹊大学は14校中14位の成績ながら完走を果たし、大学の陸上競技部としての新たな歴史を刻みました。【文：成蹊会 高橋章建】



ZELKOVA No47 (2006年)より転載



# 「安倍教育改革」の行方を読む

きよはら たけひこ  
清原 武彦

本稿は平成19年2月19日窓ト  
開催の政治経済学部ニュー  
会委員（於ラ・ステラ）  
会委員ヨ一ラ・演を抄録し  
で行われた講演を抄録し  
たものです。

今日は、成蹊学園の岸理事長をはじめ、そうそうたる方々がご出席の中お招きをいただきまして、光栄に存じますとともに大変恐縮いたしております。

実は、成蹊会長の瀧秀彦さんとは、中学・高校が同学年という誼もございまして、本日の講演のお誘いを受けました。何度も固辞したのですが、会長あの柔らかい物腰で頼まれますと、ついつい断り切れなかつたのと、なにより成蹊出身の安倍晋三さんが内閣総理大臣にご就任になり、その安倍総理の最大の政治課題が教育改革であることにも心を動かされ、教育問題をテーマに講演をお引き受けすることになった次第であります。

その安倍さんは、目下、苦戦気味でございます。自民党の総裁選では独走状態にあり、総理就任直後には大変高い支持率の下に内閣はスタートしたわけでございますが、ここへ来て支持率が下がってきていることは、皆さまもご存じのところだと思います。日本の教育改革の行方は、まさに安倍内閣の今後にかかっていると一言しても過言ではないだけに、先行きが大変注目されるところであります。

支持率が落ちた原因として、この内

閣は不始末ばかりだったかというところ、決してそうではありません。総理大臣

就任早々に、電撃的に中国、韓国を訪問、タカ派の安倍政権になったら、小泉さん以上に日中関係は悪くなるのではないかという危惧をよそに、安倍総理は両国首脳とにこやかに会談し、一応、中国、韓国、東アジア外交に展望を切り開いた。さらに、国内にあつては防衛庁を防衛省に昇格させたほか、今日の本題であります教育基本法の改正にも着手いたしました。

実は防衛省昇格も教育基本法の改正も、歴代内閣の懸案事項でありました。ところが野党の反対が強い上、与党の公明党も、本心はこの二つの政治課題には反対でした。しかし、安倍さんはこの二大政治課題に果敢に取り組んだのです。これだけでも大きな成果であります。

それなのになぜ支持率が下がってきたのか、理由は分からないわけでもありません。というのも、拉致問題等で見せたあの毅然たる姿など、本来の安倍さんのキリツとしたところがいまひとつ見えてこなかった。恐らく安倍さんの頭の中には参院選のことがあり、それまではあまり角を立てずという

こともあるのでしようが、そうした中で、政治家の事務所費問題やら、政府税調会長の辞任など、スキヤンダルの連鎖、あるいは大臣による失言がいろいろ飛び出しました。内閣のタガが緩んでいるんじゃないかという印象を国民に与え、マスコミの攻撃材料にさらされておりますことも、支持率に大きく影響しています。

しかし、私は安倍さんにはやはり頑張ってもらいたいと思います。というのは教育、外交、安全保障といった国の根幹にかかわることではつきりと、「日本の国家像はこうあるべきだ」という信念を持つている政治家は、今バツジをつけている方では安倍さんであろうと思うからです。小泉さんは華々しく郵政改革を実現し、大変な国民的人気をかち得ましたけれども、どちらかといえば教育問題とか憲法とか、国家的な重要な課題については、先送りをしたというところがありました。まさに今、外交、教育問題について、安倍内閣は歴史的使命を負っているというのが私の認識であります。これはぜひ安倍さんに、初志貫徹をしてもらいたいと思います。

なぜ、今、教育改革が必要なのか、安倍さんにその改革を期待しているのかというところ、答えは明白であります。日本の現況を見ますと、あらゆる面でモラルの荒廃が目につきます。凶悪犯罪の続出、企業犯罪、政治経済の腐敗、家庭崩壊、学級崩壊。一つ一つ事例を挙げるまでもなく、日々のテレビ、新

聞で報道されておりますので、皆さまもご存じのところと思います。これを正すのはやはり教育しかない。このモラルの崩壊の元は、戦後の日本のいびつな教育にあったというのが私の認識であります。私は、いろいろ物事を考える多感な時代に、中学校・高校を成蹊という大変規律正しい学校で過ごせたということを幸せに思っておりますし、皆さまも同じ思いだろうと察しますけれども、多くの国民が私たちのように恵まれていたわけではありません。戦後まもなく、日本の教育から修身を排除したのは占領軍でありました。

占領軍が終戦直後に出しました「日本降伏後における米軍の初期対日方針」を今読みますと、そこには、「日本国が再び米国の脅威となり、または世界の安全の脅威とならざるを確実にすること」と書かれております。端的に言えば、日本弱体化政策にはかなりまかせん。

当時、日本の精神的武装解除は物理的解除よりも困難が予想されるところを、バーンズ米国务務長官も述べております。精神的武装解除とは随分はつきり言ったものでありますけれども、それだけに日本の教育や思想・文化への介入が徹底的に行われた。憲法もまさに然りということでありました。

この占領軍政策に、日教組や戦後民主主義を標榜する人たちが、一部マスコミが同調いたしました。もちろん、日本は過去に侵略戦争をしたことなど反省すべきは当然ですけれども、例えば





会 蹊 成 法 人 団 社

従軍慰安婦記述など、あまりにも自虐的、暗い面ばかりが強調されてきました。その後道徳教育は、復活こそしておりますが、ひどくなおざりに行われております。学校や教師側が道徳教育を嫌々行っているという事例が、透けて見えるのです。

一体、戦前の日本の教育は、占領軍が考えたように、そんなに非民主的なものだったのでしょうか。実は占領軍によって真つ先にやり玉に上げられ、昭和二十三年の衆議院で排除決議された教育勅語を見ますと、「父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友相信じ、博愛衆に及ぼし、進んで公益を廣め」とあります。まさに今の世にこそ、こうした考え方を拳拳服膺すべきであろうと思います。もちろん「朕惟うに」

うんぬん、天皇陛下を主語にするというところは改めなければなりません。教育勅語は、今日そのまま通用するものではないか。決して、口にするのはばかられるような内容のものではなかったと思います。

安倍総理は、今年一月二十六日の施政方針演説で「教育再生が内閣の最重要課題である」と、位置付けられた。その中で、公共の精神や自立の精神、自分たちが生まれ育った地域や国に対する愛着感情、道徳心、そういった価値観を今までもおろそかにしてきたのではないかと、強調されております。古くから日本にありながら、忘れ去られていた日本の伝統的価値観に対する安倍さんの思いが、伝わってくる演説でございました。

ここで、安倍政権が進めようとしている教育改革の内容について、教育基本法改正案と、民間の有識者によって構成されております教育再生会議の一次報告書を、内容に沿って見てみたいと思います。

現在の教育基本法は、わが国の教育の基本原理として、教育勅語に代わるものとして昭和二十二年に施行されたものであります。連合軍司令部の指導等もあり、抽象的な理念はうたわれておりますが、道徳心だけではなく、家族や郷土、あるいは歴史、伝統、愛国心といった本来どの国でも教えるべき事柄が欠けております。

私は以前、アメリカの学習指導要領を調べてみたことがあります。その中

でいかに愛国心の教育が必要であるかを懇々と指導、説明しておりました。アメリカというのはご存じのように多民族国家で、いろいろな民族が集まった人種のるつぼといわれる国であります。ですからまさにこうした国では、愛国心を軸にみんなが団結する。国旗だとか国歌に対する国民の態度、接し方が日本とは全く違います。

これは昔聞いた話でして、私自身、いまもってちよっとマユツバかなと思っておりますけれども、フットボールだかアイスホッケーだかの試合で、両軍の選手の乱闘が始まった。途端に国歌が鳴り響くや、みんなパッと直立不動気をつけになって、乱闘が収まったというのです。

私自身の経験でも、印象的なことがございました。シンシナティというところで音楽のコンサートに行きましたら、指揮者が最初に舞台上上がってきた、さつと手を振って数小節音が流れたら、周りにいた人がみんなパツと立ち上がったんですね。これはアメリカの国歌だと分かったので、私も慌てて立ち上がったのですけれども、もちろんプログラムの演奏曲目にはありません。普通のクラシックのコンサートで最初に国歌が演奏されたのもびっくりしたんですけれども、聴衆の反応の素早さについて、日本ではなかなかあはいかないと思つたものでした。

ほかにも、九・一一の例のテロの一年後、私はワシントン、ニューヨークへ出張する機会がございましたけれど

も、このときは民家に全部星条旗が立っておりまして。街を走るバスもみんな星条旗を立てて走っていました。困難のときにこそ団結する。そのシンボルが国旗（星条旗）であるという状況を、目の当たりにした思いでござい

ます。そうした伝統、あるいは国を愛する内容が抜け落ちた日本の教育基本法の下で、現実の教育がどういふふうに変わってきたかを、一つの例として申し上げると、教科書から偉人の記述が姿を消してしまつたことでもあります。いわゆる偉い人のエピソードは、昔はいろいろありました。野口英世とか、渋沢栄一、本居宣長や、外国人にしても、コロンブスだとかナイチンゲールなど、昔の教科書には載っていたように思いますけれども、こうした記述は今、全くなくなつてしまつた。果たして日本の子供で野口英世の名前を知っているのは、どのぐらいいるのだろうかと思

います。こうして問題が残る日本の教科書ですが、さらに教科書を選択する教育委員会も、組合の批判の強い教科書、中国や韓国から名指して批判される教科書、あるいは朝日新聞等で非難される内容のものは後難を恐れて取り上げない傾向がありまして、例の「新しい教科書をつくる会」がつくつた教科書は、ほとんどの地区で採用されませんでした。

その教育基本法が制定されてから六十年、制定より後に生まれた総理大臣



によつて法改正が国会に上程されました。愛国心という直接的な表現は、公明党の反対等もありまして入りませんでした。『国を愛する態度を養う』というような表現でその精神がうたわれております。また、これも公明党その他の反対で宗教的情操の涵養といった言葉は盛り込まれませんでしたけれども、『宗教に関する一般的教養の尊重』という文言が加わりました。

中でも今回の基本法改正で一番大きなポイントが、これまでの「教育は不当な支配に服するところなく」という文言を修正したということです。この部分が新基本法では、「教育は不当な支配に服するところなく」というところまでは同じですけれども、「この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものである」というふうな、後段の部分が付け加えられました。法律に従うというのは、当たり前のことを書いたにすぎないと思われるかもしれませんが、誰が行う不当行為なのかという主体にかかわってくる点を明確にしたことでもあります。

長い間、左派系の教員組合は、この不当の支配うんぬんの語句を引用いたしまして、これは文科省や教育委員会が教育内容に関して不当な支配をしてくる、これには断固闘わなければいけない、そういうことで闘争を進めてきたわけでありまして。これに対して改正法は、法律順守が前提であるということとをうたうことによりまして、法律を破つて特定のイデオロギーを押しつけ

る、そういう一部の教職員組合や民間団体こそが不当な支配を行うというふうな、法の趣旨を明快にしたわけでありまして。

いずれにしましても、まだ内容に不満があるものの、戦後教育の問題点はどこにあるのか、基本的なところを押さえた上で改正に踏み切った点は、評価したいと思っております。

次に、教育再生会議の一次報告についてですが、ポイントを絞つて申し上げます。第一に学力の回復です。今の日本の中学、高校生の学力低下は深刻でありまして、新聞等にもOECDの各国児童の学力比較調査等が報じられておりますように、日本が劣っていることは歴然としております。読み書き、数学など基本的なところで劣っている。これは、授業時間を一割目標で増やすことで対処しようということでありまして。

第二に、学校に規律をもたらすというところ。ルール違反には毅然と対応する。このことは、今大きな社会問題になつていゝ「いじめ」対策にもつながるろうかと思ひます。

第三に、日教組教育からの脱却。これは校長の下に副校長と主幹教員を置く、これによつて組織的な学校運営を行おうということ。組合支配の学校にはさせない。

第四に、これは今の話とも関係ありますが、教育委員会の改革により、教育委員会への国の指導が行き届くようにしようということがあります。具体

的に申し上げますと例えば山梨県で、学校の先生が民主党への政治カンパをしたわけ。先生が公然と一党への応援をするというのはどうでしょうということ。国がやめさせようとしたのですが、県の教育委員会は動こうとしませんでした。これは組合が怖いからです。こうした状態を変えていこうということがあります。

ただ、この教育委員会の見直しについては早くも各方面から議論が百出してあります。全国の知事会や市長会が、地方分権の観点から問題があると抗議をした。今後、中教審などで審議されていくわけですが、安倍総理は最後は私が判断すると明言してありますので、結論は総理の指導力にかかってくるだろうと思ひます。

第五に、ダメ教員の排除です。教員の免許更新制度を設けるということ。今までは、例えば無断欠勤など、明らかに問題があるという先生も辞めさせられなかった。一度免許を取つてしまえば怖いものなしという状況でしたが、これからはそうはいかないという制度であります。

これらもろもろの制度改革、その内容が教育関連三法案（地方教育行政法、教員免許法、学校教育法）に盛り込んで国会で審議されております。参議院選を控えまして与野党の攻防が激化するであります。審議中断、審議ストップが既に現れておりますけれども、教育改革はまさに国の根幹にかかわる大事業でありますので、ぜひ、これら

の法案を本国会で成立させてもらいたいと願つております。

以上、いろいろと述べてまいりましたけれども、結論的に申し上げると、戦後、長く手つかずに来た教育改革ですが、安倍政権によつてよい方向に向かつて進められています。これらの諸改革の大部分が実施に移されるなら、日本の教育は確実によくなると私は確信しております。

その改革の成否を握る安倍総理は、年頭の記者会見で、「今年は私の政策を一直線に進めていく」と言つておられました。内閣発足直後、各方面に気兼ねをして種々の政策であいまい路線をとつた事を反省し、教育問題、安全保障政策では初心に立ち帰つてわが道を進むという決意を披瀝したものだと思ひます。事実、その後の総理の発言、行動にそうした一種、開き直りの姿勢がみられます。

安倍さんの座右の銘は「桃李不言下自成蹊」。まさに成蹊学園の由来をなすことばです。桃やスモモは物を言わないが、その下には自然に小道ができる。徳のある人のもとには自然と人が集まってくる。

政治家が何も物を言わないのは困りますが、世間の機嫌を取るためにチャラチャラすることはありません。総理が自らの信ずる道を一直線に進んでいけば、おのずと道は開けるはず。僭越ながら、このことを予言いたします。私の話を終えさせていただきます。

# 人蹊成働く

## 音楽という手段

市原 ひかり



平成元年に成蹊小学校に入学し、私がトランペットをはじめたのは中学へ進学し部活動がはじまった時でした。中高一貫の吹奏楽部『成蹊ウインドオーケストラ』に入部。そして中学3年の冬、トランペッター・エリック宮城氏のライブを観てトランペッターという職業を目指すことを決意しました。父がプロドラマーという事もありミュージシャンとい

う職業に抵抗や不安はありませんでした。

早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラの一員として『山野ビッグバンドジャズコンテスト』に出場。

優秀ソリスト賞受賞をきっかけに大学卒業とほぼ同時にポニーキャニオンからリーダーアルバムを発売させていたことができました。音楽をジャンルで分けるのはあまり好きではないのですが、私の音楽はジャズというジャンルに分類されます。『プロ』、『アマチュア』という言葉の概念は私にはありませんが、周囲の方々からしてみればメジャーレベルからのリーダーアルバムリリースは、プロ活動を開始したことになります。お金を払っていたり、ライブを観ていただいていたのですから、

いちエンターテイナーとして『意味のある時間』を提供しなければならぬ事をいつも意識しています。

音楽というのは、スポーツや学生時代のテストのように順位がありません。その分評価は様々で、自分が

良いと思う事は必ずしも全ての方に認められるとは限りません。その中で私は自分のサウンドを追求しつつなるべく多くの方に楽しんで頂ける、自己満足に終わらない音楽を演奏して行きたいと日頃から思っています。研究と様々な音楽を聴くことで私の音楽は日々変化していますが、現在は多くの方がご存知であろう楽曲を私なりの解釈でアレンジ（編曲）し演奏する事で、自分なりのエンターテイメントを確立させようとしています。

ジャズはミュージシャン同士の人間関係や、個々の意識も色濃く反映する音楽だと思うので、ライブを行う上でバンドのリーダーとしていかかにミュージシャンの方々に気持ちよく演奏してもらうか、という事も意

識します。ステージで我々が楽しみながら演奏する事でそれが聴いて下さる方に伝わり、さらに良い時間を過ごして頂けるのではないかと思います。それが私の考えです。

そのために、音楽の技術のみならず人間性も磨き改善させなければなりません。

私は両親から『ひかり』という名前をいただきましたが、音楽で、聴いて下さる方の歩く道を照らす『ひかり』になりたいと思っています。悲しいときに一緒に悲しんであげられたり、辛い時に励ましてあげられたり、嬉しい時に一緒に喜んであげられたりする音楽を演奏したいのです。日々様々な問題にぶつかり様々な事で思い悩んだりしますし、未熟者ではありますが、私がなぜ音楽をつづけるか、という事を忘れずこれからも精進していきたく思っています。

ジャズトランペッター（高・平13年）



# 随想

成蹊会誌用箋

## カウラと成蹊高校

まつながよしあき  
松永義明

カウラという街

『日本つてオーストラリアと戦争したの?』なんて素っ頓狂な質問が出る昨今、カウラなどという街を知っている人は少ないかも知れませんが、最近でこそ『カウラの風(土屋康夫著、KTC中央出版)』などの著書で多少は知られるようになってきたかもしれないが、日本からの観光客が多いシドニーとはいえカウラまで足を伸ばしたところのある人はほとんどないと思います。しかも、そこにあるカウラ高校と成蹊との関係に、我が同期(高校33年卒)

の久保基君(元ギリシャ大使)が深く関わっておられたということも。

カウラという街はシドニーから350キロ離れた内陸の小さな街。久保君が関わりをもたれた1970年当時の人口は3000人、街に交通信号一基も無かったところでした。今でこそ人口も1万人、交通信号もふえました。が、特筆すべき産業も無く、若い人にとっては生活の術にも欠ける典型的な地方都市です。

15、16年前頃までは羊毛産業が主たる産業で、日本のカネボウ、日商岩井などが出資したラクラン・インダスト

リーという羊毛のトップینگ工場(従業員300名を擁するカウラ最大の企業)があり日本人家族も3世帯住んで居ました。

然るに羊毛産業が労賃の安い中国に押されて衰退、日本の各大手商社も羊毛ビジネスから撤退したためラクラン・インダストリーも閉鎖のやむ無きに陥り、現在は地平線の彼方まで広がる菜種畑から採取されるサラダオイル、日本への牛肉輸出、ワイン(これは名酒と認定されています)、そして海外ではおおよそ目にする事が出来ない程本格的な日本庭園をはじめとする観光産業が主な収入源です。現在日本人家族としては果樹園と民宿(B&B Guest Farm)を経営されている堀部さんという方(ご子息が成蹊卒)が居られるだけです。

カウラと日本との関係

そもそも戦前には汽車しか交通手段が無く、シドニーまで出るのに12時間も掛かったというカウラと日本との関係は何だったのでしょうか。

太平洋戦争中、オーストラリアの表玄関、ラバウル、ガダルカナル、珊瑚礁海域、パプアニューギニア、そしてダーウィンやタウンズビルなどオース

トラリア北部地区は日本海軍機の猛爆撃に曝されました。そのダーウィン爆撃で撃墜された日本海軍飛行兵やニューギニア戦線、南太平洋諸島での海戦、更にはクワイ河マーチで有名な泰緬鉄道をめぐる戦線で捕虜となった日本軍将兵1100名余が収容された捕虜収容所がカウラに出来たのです。

このカウラ収容所には、日独伊3か国の捕虜以外にも、南太平洋諸島に住んで居た民間人や、木曜島に居た大勢の日本人ダイバーなども強制収容されていました。当初主たる捕虜が海軍将兵だった頃は、収容所内で野球をやったりして非常に自由あふれるのどかな収容所だったので、戦況が厳しくなった18年以降陸軍将兵の捕虜が増えるにしたがい、『生きて虜囚の辱めを受けるべからず』との戦陣訓に凝り固まった陸軍下士官クラスが、脱走すれば殺されること覚悟の上で、終戦の1年前、1944年8月5日深夜に集団脱走、231名が殺害される(オーストラリア兵も4名が死亡)という事件が起こりました。

地平線まで見えるという原野、武器も持たない捕虜が脱走しても逃げられる筈がないのですが、旧日本軍の戦陣訓で教育された捕虜とすれば、捕虜に



裏千家今日庵千女室大宗匠（15世家元）と私共夫婦

なったことが日本の家族に知れると迷惑が掛かるとの思いもあって脱走したといわれています。この事情は現在墓地の墓標を見ても、無名の墓が多いことから分かりますが、収容所内でも黙秘を続けた、あるいは偽名を使った事例が多かった証しだと思います。

死亡した日本兵はカウラ戦没者霊園に埋葬され、この死を悼んだカウラ市の復員軍人連盟の手により手厚く葬られ、墓地も綺麗に維持管理され、1963年には日本人戦没者墓地としてオーストラリア政府から日本政府に割譲（よつてこの墓地のある土地は法的には日本唯一の海外領土、治外法権にな

っています）され、翌1964年には日本政府とカウラ市共同で在豪民間人収容所で亡くなった日本人の戦没者と合祀し、合計491名の遺骨が埋葬されています。

日本人戦没者墓地が造営された当時は、まだ対日感情が芳しくない時代でした。特にオーストラリア兵が大勢亡くなった泰緬鉄道建設での苦役、ニューギニア、シンガポールでの犠牲者の多さ、更には南太平洋諸島での残虐行為などに對する反日感情が強かった時代です。このような背景があったからこそ、東京裁判におけるウェップ裁判長（オーストラリア人）の態度が、キーン首席検事（アメリカ人）より厳しかったのではないかとされる所以。その中でカウラ市は日本人戦没者を手厚く葬り、墓地の手入れを整然としてきたのです。

1978年には日本人庭園設計家（中島健氏）による本格的な日本庭園（規模、美しさにおいて間違いなく一級品。海外でこのような日本庭園を見たこと無し）が建設され、同庭園と日本人戦没者墓地とをつなぐ道に100本の桜を植え、立派な桜並木が完成しています。

2年前の事件発生60周年記念の日蒙

合同慰霊祭には両国から多数の関係者が列席、盛大な慰霊祭になりました。特に当時のオーストラリア駐在の大島賢三大使（現在国連大使）の小学校時代の恩師がカウラ事件の生き残り証人として列席され、半世紀ぶりに劇的再開をされたことに大変な縁を感じました。

また、昨年9月には茶道裏千家の千女室大宗匠（先代15世家元）が来豪され、日蒙戦没者慰霊の献茶式を催されました。千女室は俳優の故西村晃氏と共に海軍特攻隊の生き残りであるため、ことのほか彼の大戦での犠牲者への想いが深く、カウラの戦没者墓地にも大変立派な祈禱台を寄進しておられ、日本人戦没者の霊を手厚く葬り、墓地を整然と維持管理してきたオーストラリア国民に甚大なる謝意と尊敬の念を表明されてきました。写真はその時のものです。

#### カウラ高校との交換留学プログラム

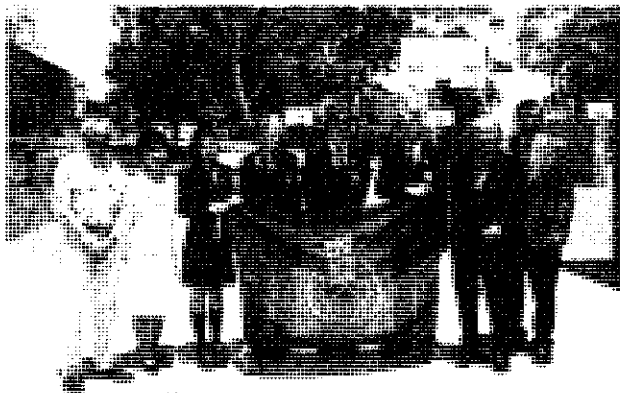
このようなカウラ市に在るカウラ高校と成蹊は1970年に交換留学プログラムを発足させたのです。これには当時オーストラリア大使館に書記官として駐在されていた我が同期生大久保基君が関わり、成蹊会の常務理事で

あった故谷岡喜久蔵さんをカウラまでご案内したり、当時のカウラ市長であったオリバー氏との仲介の労をとられプログラムの作成に多大の貢献をされたのです。

以来36年間に70余名の交換留学生が相互の国で勉強、異文化の理解と国際親善の増進を果たしてきています。我々の高校在学時代には成蹊の交換留学先は大久保君が行かれたアメリカのセントポール高校しかありませんでしたが、1970年を機にカウラ高校との関係が出来、今日まで続いています。この交換プログラムはオーストラリアの高校としては最も長い歴史をもつプログラムといわれ、非常に高い評価を受けています。当時の成蹊の校長は、栗原美能留先生で、中を取り持たれた大久保君の功績ともども大変な慧眼であったと今更ながらに敬意を表する次第です。

私自身、オーストラリアでの生活も17年目になりますが、来ました当初はカウラの何たるかを全く承知せず、専らビジネス上の理由から何度かカウラに通ううちに、カウラの歴史を知るに及び、当時日本人会の役員を拝命していた頃より、『オーストラリアに住む日本人は必ずカウラを訪れるべし』と





筆者、右から2人目。右端、MR.BOB GRIFFITHS (カウラ留学生プログラムコミッティー会長)

お預かりし、カウラ高校に贈呈していただきました。写真はその際に同校の生徒会長、副会長などと一緒に写したものです。カウラ高校の講堂には過去第1回から現在に至るまでの成蹊からの留学生の写真が掲げられており、今回寄贈した校旗も同じく掲げられることになっています。

人口一万人、カウラ中高あわせて700余名の生徒、交通信号が3基しかない街、およそ娯楽施設皆無の街、そこから来るカウラ校からの留学生は、まず吉祥寺の人混みに驚き、駅前の商店の多さ、成蹊の規模の大きさにカルチュアル・ショックを受けること必至と思われまふ。どうか成蹊関係者で温かく受け入れてやって欲しいと思うことしきりです。そして今後シドニーにお見えになれる成蹊関係者には是非ともカウラまで足をお運び願いたく思っています。

大久保君が手掛けたプログラムが立派に成長し、成蹊—カウラ両校が将来共に発展させていこうとしている本制度の運用に多少なりともお世話が出来たように感じた縁を嬉しく思っています。過日、所用で東京に参りました際に成蹊を訪れる機会を得、その際、成蹊学園橋本専務理事から成蹊の校旗を

カウラは日本では北海道でしか見られない地平線の彼方まで連なる広大な農場(最近では菜種から採取するサラダオイルが主流。またアスパラガスの特産地でもある)や牧場(人口よりはるかに多い羊や肉牛)、そして連綿と連なるブドウ畑からの白ワイン(特にシ

ヤルドネー)など、ワイン党にとつても垂涎の地です。

夜には南十字星を頭上に満天の星空の下、野外での超特大のステーキのバーベキューに舌鼓をうち、そして何よりも友情あふれる素朴で陽気なディンキーダイ(本物のオーストラリア人という意味)のホスピタリティーに触れて感激されることでしょう。

毎年9月には『桜まつり』が開催され、市を挙げて日本色に染まります。日本庭園では茶会、盆栽展、古武術のデモンストレーションなどが行われ、多くの観光客を魅了しています。

スポーツを好まれる方には近くの湖での水上スキー、清流での虹鱒釣り、そして乗馬、勿論ゴルフ場も街の中心から5分もかからない所にあり、メンバーコースでありながら特段の予約がなくてもプレイ出来るという、まさに屋外スポーツの天国といったところで、事前にご連絡いただければ道案内は致します。

(政経・37年)



表紙絵の言葉

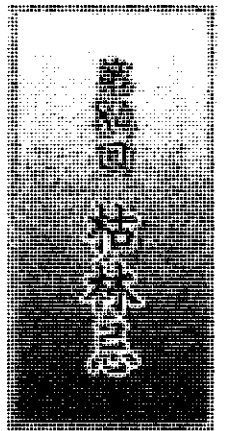
成蹊人のふろこ

中・高(昭和34~40年)の6年間、友と通った樺のトンネルの下道を通ると、自由に楽しかった、また、試験や部活で苦戦した、ほろ苦い思い出の詰まった青春の日々が懐かしくタイム・スリップしてくる。

当時は、プールのそばにアトリエがあった。中学の美術の時間には、ときどき、このアトリエを使うことがあったが、私のお気に入りのスケッチ・ポイントには、アトリエから見た樺と本館をのぞむ構図であった。

今回、五日市街道から正門を通り、ふと気がつくと、当時と同じ場所に足が向いていた。重厚な赤レンガの本館と美しく生命力に溢れる樺の木は、当時とまったく変わらない、まさに、成蹊の真髄ともいえるアットホームで自由な空気につつまれた情景であった。集まりそして散る我々成蹊人を、今後も変わりなく暖かく見守ってくれることだろう。

谷 豊彦(高・40年)

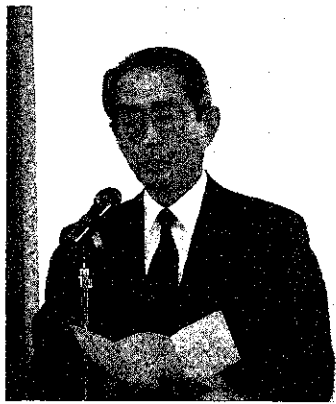


創立者 枯林忌

学園創立者中村春二先生のご命日  
(枯林忌) は2月21日です。第84回枯  
林忌は、2月17日に開催されました。

参加者が染井霊園にある中村先生のお  
墓にお参りした後、三菱養和会集鴨ス  
ポーツセンターの会議室で追悼会を開  
催いたしました。心の力第一章を唱え  
た後、岸曉学園理事長、瀧秀彦成蹊会  
会長の挨拶、橋本竹夫専務理事の学園  
の近況報告後、物故者に黙禱を捧げま  
した。その後卒業生の西村洋氏(旧高  
19回)、相川一成氏(政経11回)、佐治邦  
彦氏(工2回) から在校時の思い出も  
含めたお話をいただきました。追悼歌  
の後、最後に前中学・高等学校長の横  
地孝先生の後に続いて参加者全員で心  
の力第六章を唱和して閉会となり、坂  
井屋謹製の枯林忌饅頭を手に散会しま  
した。

次回第85回枯林忌は平成20年2月16  
日に開催いたします。



以下、瀧会長の挨拶文を掲載させて  
いただきます。

成蹊会の瀧でございます。

本日は枯林忌追悼会に多くの皆様方  
にご参加いただき、誠に有難うござい  
ました。

枯林忌は、中村春二先生に直接薫陶  
を受けられました。池袋同窓会をはじめ  
めとする諸先輩が、中村先生ご逝去の  
後、墓参りと追悼を続けてこられ、今日に  
至っております。

今回が第84回となりますが、第60回  
枯林忌からは学園と成蹊会との共催と  
なり、現在では、中村先生と共に、物  
故された成蹊関係者を追悼する会とし  
て続いております。

枯林忌を通じて成蹊教育や建学の精  
神に触れ、学園創立者に対する思慕と  
感謝の念を表す機会を得ることは、私  
どもも私学成蹊学園の卒業生として大変  
貴重な場であると思っております。この様  
な形で支えてこられた諸先輩並びに関  
係の皆様には心から感謝し御礼を申し  
上げたいと存じます。

本日の枯林忌にご参加の方の中で、  
残念ながらその殆どが、中村先生から  
直接の薫陶を受けてはおりません。し  
かし、そうであればこそ、在校生はも  
とより、学園を支える多くの教職員・  
卒業生にとっても中村精神、成蹊精神  
に触れる機会を、より多く持つことが  
大切になってくるのではないかとと思っ  
ております。

枯林忌では、特に毎回「心の力」を  
参加者全員で唱えておりますが、この  
枯林忌で初めて「心の力」を唱えられ

た方も多いのではないかと思います。

「心の力」は池袋時代からの成蹊教育  
に直接触れることができる、まさに成  
蹊教育にとって大切にしていかなけれ  
ばならないものであります。

本日配付されておりますように、「心  
の力」は常に携帯することができるよう  
う、ポケットに入る大きさになってお  
ります。在校生は毎日頃これを携帯し、  
日常の教育の中でこの「心の力」に触  
れる機会をもつことで、その後の人生  
において必ず心の支えになるとの学園  
側のお考えと推察いたしております。

小学生には少し難しいかもしれませんが  
しょう。そうであっても、これを語ん  
じ、唱えることで、その意味するところ  
が発達段階によって浸透し、精神力  
の高揚に役立つものと思えます。成蹊  
学園60年史にも「成蹊学園の各校の全  
学生徒及び全職員はこの心力歌全章を  
暗誦し、毎日一章ないし全章を空で詠  
唱した。小学生は小学生なりに、中学  
生は中学生なりに、専門生は専門生な  
りにこれを消化吸収し、言わず語らず  
のうちに心の糧とした。そして卒業生



は大かれ少なかれ、その影響を受け人  
生の指針としたといえよう」とござい  
ます。現在の成蹊教育にも、この「心  
の力」が教育の中に位置付けられ、活  
かされているものと存じます。この  
「心の力」が成蹊教育を受けられた方  
の共通の証となるよう切に願っており  
ます。

さて最後になりますが、現在進行し  
ております学園の100周年記念事業  
につきましては、成蹊会としても全面  
的なご協力をさせていただいております。  
会員の皆様にはお声掛けいただき、  
より多くの会員が、今回の100周年  
事業への直接的なご支援をいただける  
ようご協力をいただければと存じま  
す。

また、今年の成蹊校祭は4月1日に  
開催致します。皆様にはお誘い合わせ  
の上、是非お越しいただければと存じ  
ております。  
簡単ではございますが、挨拶とさせ  
ていただきます。



# 学校・年次会・ゼミ OB会のついで

## 高校卒業40周年

昭和41年高校第17回卒業生は卒業40周年を迎えるにあたり、平成18年10月28日に記念同窓会を大学10号館12階ホールで開催卒業生389人の内185人が出席しました。

また当時各クラス担任の寺尾豊太郎、横手長治、近藤正二郎、高橋俊昭、窪田恒治先生方、成蹊会からは会長の瀧秀彦様に出席いただきました。

当日は4時に開会、幹事代表の開会の辞に引き続き同窓生でもある成蹊学園専務理事の橋本竹夫君の挨拶、成蹊会会長の瀧秀彦様、クラス担任を代表して横手長治先生よりお祝辞をいただき、寺尾豊太郎先生の乾杯の

音頭でパーティーに移りました。話が盛り上がったところで、われわれ同窓生で結成されている軽音楽部メジャーシックスのJAZZ演奏、フォーセイソツ・オリジナルメンパーによる「小さな日記」の演奏や当時流行したカレτζジ・ポップスなど昔懐かしい音楽のアトラクションで会場はさらに盛り上がりま

した。2時間ほどの楽しい時があったとゆうまに過ぎて行き、同窓会



事務局長畑田君の挨拶で、会費の残額を成蹊学園100周年事業に寄付させていただくことをご了承いただき中締めとなりました。

佐藤 隆(高・41年)

## 小学校卒業 40周年

2006年11月11日、17時より、赤坂プリンスホテルにて、昭和41年度(第51回)卒業生による、成蹊小学校卒業40周年同窓会を開催致しました。東京オリンピックの年に小学校5年生という世代のオジサン、オバサンの同窓生が90名集まり、盛会となりました。

何より、担任をして頂いた先生方、89才の野村純三先生、85才の山形為次先生、82才の星野慶治先生の3人に、揃ってお元気に出席して頂けたことが、大

変な事なことでした。

又、成蹊小学校の現校長の金納善明先生、教頭の大場繁先生にもご出席頂き、「成蹊愛」で一杯の1日となりました。

更に、直前に同窓生の安倍晋三君が、総理大臣に就任するという、ビッグなおまげが付きました。先生方も一層お喜びの様子でした。安倍総理が、40人近いSPや、マスコミに囲まれて到着した瞬間は、少々緊張しましたが、会場内では、すぐに一同窓生の顔となって皆の輪の中に溶け込んでしまい、時折、SPが総理大臣の姿を確認するためにキョロキョロしている場面すらあったほどでした。

会は、残念なことに既に亡くなった5人の同窓生への想いも込めて、全員で凝念をして始まり、金納校長のご挨拶と乾杯の後には3人の担任の先生から、懐かしいスピーチを頂きました。会が最も盛り上がったのは、やはり同窓生の馬場康夫監督(ホイチョイプロダクション)の協力で作成した、懐かしのスライドショーが上映された時でした。箱根寮のお風呂、乗風台、赤フン姿の夏の学校、当時の校舎や音楽教室等々、今では見る



ことの出来ない懐かしい映像を見て、思わず歓声をあげたり、大笑いしたり、そして時々ジーンとしながら、すっかりタイムスリップしてしまいました。

先生方への記念品贈呈の後、全員でこれも又懐かしい、夏の学校の歌を大合唱し、最後に、大場教頭先生の音頭で、高らかに校歌を歌って会はお開きとなりました。40年前の成蹊小学校、現在の成蹊小学校、そして成蹊と自分達の40年の歴史を感じて、今も屈託なく集まれる友達や先生との絆を育んでくれた成蹊に、心から感謝した本当に幸せなひと時でした。

最後に、又次の機会に皆で集まることのできる日まで、3人の担任の先生方のご健康を、心からお祈りしております。

堀内みさ子(小・42年)

# 大学卒業20周年



昭和61年3月卒業生の大学卒業20周年4学部合同の同窓会が11月18日、母校成蹊大学10号館12階ホールで開催されました。

同窓会には、ご来賓として橋本竹夫学園専務理事、栗田忠輔学長並びに成蹊会から瀧秀彦会長をお迎えしました。幹事の金井俊明君（経済学部）開会の挨拶の後、岸理事長並びに瀧会長からご挨拶を頂戴し、栗田学長



経済学部

の乾杯で会を開きました。当日は、130名の同窓生が集いました。大学を卒業してから卒業周年行事は初めてで、20年ぶりに顔を合わせた仲間も多く、久しぶりに懐かしい面々との再会に、乾杯の後には、それぞれが話し込む姿が多くみられ、20年間の時間を一気に縮めることができた楽しい会となりました。

最後は今回の代表幹事を務めた木所充君（法学部）より挨拶をいただいた後、校歌を高らかに歌って会を締めくくりました。法学部同窓会の年次委員としてお手伝いしている経緯もあり、今回の幹事をさせていただきま



工学部

した。連絡先がわからなくなっている方も数多く、案内状の発



法学部



文学部

送先を調べることから始めました。専用のホームページを設けることで、口コミによる告知が有効だったと感じます。準備の期間が少なかったこともあり、充分な連絡が行渡ったとはいえませんが、手ごたえは感じました。

今回は卒業30周年ですが、今回参加が叶わなかった卒業生には次回は是非参加をお願いいたします。

同期同窓会URL:

[http://www.geocities.jp/seikei1986\\_douki/main.html](http://www.geocities.jp/seikei1986_douki/main.html)

山須晋也（法・61年）

## 小学校同窓会委員会



12月5日、ニュートキーヨーにおいて、小学校同窓会委員会が開催された。相川同窓会会長から、挨拶と学園、成蹊会の近況報告があった後、金納善明小学校長より、校長就任249日としての講演をいただいた。金納先生は校長になって、校歌は2番の「昨日の吾を越えし輝き

尊し……」を歌って去年の自分を越えたいすばらしさを生徒たちに体感してもらおうと思っていると中村春二先生の教えを先生たちに継承してもらおうと思っているといわれていた。また、来年は35年ぶりに校舎を建て替えるあるいは時節柄の学年ごとの焼き芋大会の行事の話をしていたとき、卒業生は耳をそばだてて聞いていた。卒業生からも男女14名ずつの28名学級のことやいじめの問題への対処など、校長への質問も司会者が後の懇親会でも願っていたというほど、相次いだ。

その後、今年と同窓会である安倍晋三さんが総理に就任したこともあり、安倍さんと小学校同級生の第51回（昭和42年）卒業の八木真佐雄さん、堀内みさ子さんからはこの同窓会委員会に先立つこと一月ほど前に小学校卒業40周年パーティを行い、卒業時担任の星野廣治先生、野村純三先生、山形為次先生もお元気でご出席いただいたこと、卒業生135名中90名の出席を見たことなど大変盛会であったことなど、安倍同期生の小学校時代の懐かしい話をされていた。その後、金納校長にも、ご出



席いただき場所を隣室に移し、懇親会を行い、あちらこちらで話に花が咲いていた。

## 中学卒業50周年 「てれ馬会」

おーい。小学校は「プラタナス会」。高校は「京極会」「辰己会」。なんで中学のクラス会が無いんだろうね。成蹊会の名簿にも中学は載ってないもんね。それは、中高一環教育だからかな。そんなら中学のクラス会をやろうよ。正田先生も望んでいるかもしれないよ。

これが「てれ馬会」の始まりでした。誰がクラスメイトだったかも忘れてしまったし名簿もない。中学の事務長さんにお願

いすれば手に入るかもしれないと聞き連絡をとり頂きに上がりました。卒業時のクラスだけでなく、入学時のクラスも一緒に開こうという意見で1年D組(44名)・3年C組(43名)の合同クラス会の立ち上げです。

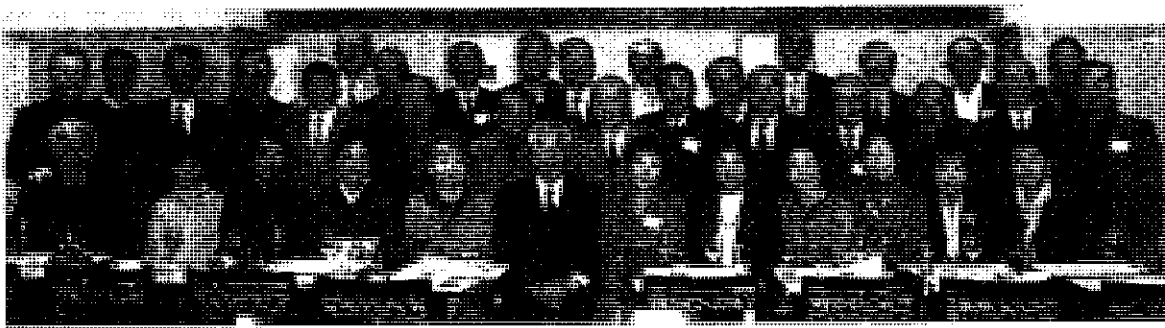
世話人は、豊原・中山・一宮・江口・横川・松村。

物故者10名。不明者10名。海外居住者2名。D・C組重複者11名。残り54名。

1月26日(金)吉祥寺第一ホテル午前11時30分と決定。タイトルは「正田啓吉先生喜寿のお祝い・中学卒業50周年」

当日、出席頂いた生徒は37名。出席率はなんと69%。福岡(藤井伊知子)秋田(山本建郎)津(宇佐美宏子)と遠方の3名も駆け付けてくれ、正田先生も生徒に会うのを楽しみになさっておられ早めにお出まし。懐かしい顔・顔・顔が揃いました。先生の顔艶の良いこと。若い・若い。我々も65歳を過ぎたけれどもまだまだ元気。これから何回も出来る。今だから言える。先

生に褒められた事なんかはない。俺じゃないのに教員室に呼び付けられた。誰と誰が仲良しだった。



た。誰々さんが好きだった。あの時代の内緒話がどンドン飛び出してきた。みんな大笑い。あとと言う間の2時間。

二次会は焼鳥の伊勢屋。欠席予定だった高橋紀代子が参加。第一ホテルに引き続き近況報告をし、歓談し、3時30分に散会。ほんとうに楽しい一時でした。先生にもお目に掛れたし、久しぶりに旧友に会え、なにか体が若がえった感じがしました。皆様、有り難うございました。

松村 坦(中・31年)

## 生誕30周年を 祝う会

2006年度、私たちは三十路へと足を踏み入れました。これを記念して「生誕30周年を祝う会」を2007年2月3日に成蹊大学10号館12階ホールをお借りしまして盛大に行いました。

この会は全クラス合同の同窓会だったのですが通常の同窓会とは一風違って、当時お世話になった先生方全員にお声掛けをし、それだけではなく父兄や伴

侶も参加OKという、他には聞いた事のない同窓会となりました。

実はこういった会は今回で2回目、前回は「生誕四半世紀を祝う会」という大袈裟なタイトルで5年前に開催しました。父兄や伴侶も参加OKというこの同窓会を企画した経緯についてお話しします。

今から5年前の私が25歳になった年に、ある仲の良い小学校からの友人と「久しぶりに同窓会したいね」という話になりました。その友達とは南組で同じクラスだったのですが、思い出す仲の良い友達他他のクラスにも多くいる事に気付きました。小学・中学・高校・大学と成蹊に通った方であれば、こういった事がありだと思えます。

という訳で、全クラス集めてやってしまおう!という事になり、それではそこの居酒屋ではなく少しきれいな所でやろう、と会場を探し始めました。

しかしなかなか良い会場が見つからなく、インターネットで成蹊の同窓会を閲覧していると、学園内が良い場所がある事が書かれていました。それが10号館12階ホールだったので。成





蹊会に問い合わせをした所、普通の同窓会ではその会場は借りられなく、「卒業〇〇周年」などの大きな節目となる時でないとならぬという事で、はじめは断られてしまいました。

しかし、その会場を一度見た私はどうしても10号館12階ホールでやりたいと、何か良いアイデアはないかと考えました。「卒業してから何年?」「〇〇先生は今何歳?」いろいろ考えましたが節目となることはありませんでした。

せんでした。

そんな時思いついたのが「今僕らって25歳だよ。生誕四半世紀だよ」と、とても大袈裟な節目を思いついたのです。

同窓会の準備を進めている間、お母様方から「親も参加できないの? 亀村先生にお会いしたいわ」という声もチラホラあり、当然はじめはお断りしていたのですが、こういった「生誕四半世紀を祝う会」という大袈裟なタイトルをつけて会場をお借りしたので、この際当時お世話になった方々みんな呼んでしまおう、という事になりこのような盛大な会が開催されたのでした。

今回は前回よりも30人程多く集まり、伴侶や子供連れも多く見られました。生徒が欠席なのに親だけで出席して下さった方もいました。うれしい限りです。

各クラスに担当幹事をおき、私を含め計8人で準備・運営をしたのですが、受付・クローク・会計など、当日はドタバタと過ぎてしまいました。ゆつくりとお話する事ができなかったのですが、出席いただいた皆さんは楽しんでいただけました。

でしょうか? 私は久しぶりに会う友人とたくさん再会する事ができたのが何よりのよさなごびでした。その後の2次会・3次会では朝までご苦労様。まだまだ「お兄さん、お姉さん」と呼ばれるように若々しくいたいものです。

今後成蹊の「繋がり」を大切に、この会を守っていきましょう。良いと思います。

※掲載の写真は、プロの写真家となった同窓生が撮影したものです。

渡邊綱大(小・平1年)

## 第十三回 清和会総会

二月二十四日(土) 学園十号館十二階ホールにて、中村清一ゼミナールの同窓会(清和会)が二年ぶり開催された。学園内開催でもあり、遠隔地からも多くの方々に参加し、当日参加者はゼミナール同窓生三百二十五名中の九十七名の出席があった。司会進行を齋藤悠さん(第十七回)が行い、伊藤和行会長

(第一回)の挨拶、そして今回会長を市川徹さん(第四回)に禅譲され、新会長市川さんの挨拶と続いた。中村清一先生の没後三十五年にして、「想い出中村清一ゼミナール」を発刊、同窓生が如何に文章を書くのになれていないかといった編集時の苦労話を朝比奈孝一さん(第六回)が語り、来賓として成蹊会会長の瀧秀彦さん(第九回)から学園の現状をお話しいただいた。その後、中村先生との二年間に亡くなられたゼミ仲間(黙禱の後、岩崎健三さん(第四回)の乾杯の発声で懇談に入った。



ではないゼミだった」とか、しばし昔話に花が咲いていた。

その後、会員数名が近況を話し、成蹊校歌を一番、二番、三番とすべて歌った。

清田新幹事長(第七回)が閉会を宣言し、次回の再会を誓い、お開きとなった。

三々五々、卒業年次ごとに懐かしき夜の吉祥寺へと繰り出していった。

田上尚道(政経・43年)



## 高校卒業50周年

駆け足で訪れた春の気配が漂う3月3日(土)の昼下がりに、高等学校第8回卒業の50周年記念同窓会が、89名の参加を得て母校で盛大に催されました。

成蹊会の瀧秀彦会長のご祝辞の後、ご招待申し上げた中学・高校時代の恩師、土方敏夫先生、平田博則先生、横手長治先生が壇上で一言ずつご挨拶くださり、続いて土方先生のご発声により乾杯して会は始まりました。

乾杯のご挨拶の中で「高度成長期を経て大きな発展を遂げた日本を支えたのは諸君である。」というお言葉がありました。戦後の復興期を終え、高度成長期に突入して間もない昭和32年に高校を卒業し、今や殆どが社会の第一線を退いて第二の人生を歩んでいる参加者一同、このお言葉を感慨深く拝聴しました。

また当時は、1〜2年前話題になった映画「Always三丁目の夕日」にも描かれているよう

に、ほどよい貧しさの中にあつて活気に充ち満ちた時代でした。お互いの懇談の中でその頃を振り返り、懐かしむ声も多かった

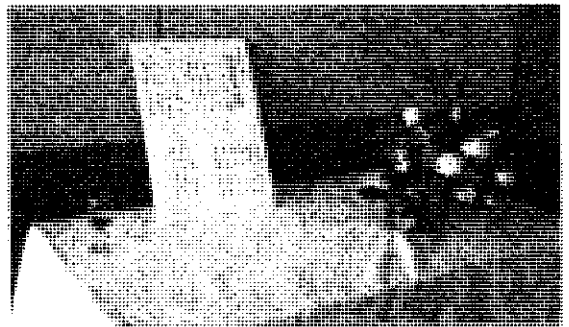


ようです。

一方、この50年の間に世界された方もおられました。恩師6名、卒業生20名の物故者のお名前が書かれたプレートの前には白い花を供え、出席者がその前で思い出に耽り乍ら語り合う様子も印象深いものでした。

10年前の40周年記念同窓会には仕事等の都合で参加できず、今回数十年振りになり顔を合わせる参加者も多いので、盃を傾け乍ら語り合う時間をたつぷりとろうという趣旨で会は進められましたが、あつという間に予定の時間が過ぎてしまいました。恒例により全員で校歌を高らかに歌った後「10年後にまた元気で会いましょう。」という閉会に当たりの力強い挨拶があり、記念撮影をしてお開きとなりました。

今回の記念同窓会は、多くの参加を得て盛会裡に執り行われましたが、案内状の発送、集計に始まり当日の細々した手配に至るまで成蹊会事務局の支援に負うところ大でした。他校では



例を見ない事務局のバックアップは、長い学園の伝統の中で培われたものであると言つても過言ではないでしょう。末筆ながら茲に深く感謝申し上げる次第です。

清水信明(高・32年)

## 大学卒業10周年



卒業から10年経った今年、ホームカミング!

3月10日(土) 大学10号館12階ホールにて卒業10周年記念同

窓会が開催されました。春の陽射しのもと構内を歩くと、様々な思い出がよみがえり懐かしい気持ちになりつつも、昨年開館した情報図書館などの新しい一面に、大学の更なる進化も感じました。

同窓会は、卒業生と学園関係者を含め約130名の参加による盛大な会となりました。文学部卒木村直美さん司会のもと工学部卒新井宏明さんの開会の挨拶に始まり、成蹊学園理事長岸曉様、成蹊会会長瀧秀彦様にご挨拶をいただき、また、成蹊学園広報課長伊藤昌弘様からは、学園の近況についてのご紹介がありました。

そして、成蹊大学長栗田恵輔様の乾杯により歓談がスタート。食事を楽しみながら、名刺交換をする男性の姿や、昔話に花を咲かせつつも母親の一面を見せる子連れ参加の女性の姿もあり、卒業から10年という時間の経過をあらためて実感させられました。

歓談の時間が終わると、久々の校歌斉唱のち工学部卒大貫徳之さんの閉会の言葉によりお開き。そして最後に全員で集合写真を撮り、また10年後の開催



成蹊大学卒業10周年4年層合同同窓会

### いさお会

好天で温暖な日よりに恵まれた成蹊桜祭の日にも本年も政治経済学部佐藤ゼミ(憲法)の同窓会である『いさお会』年次会合を盛大に開催した。

佐藤ゼミは40年前に消滅したため『いさお会』は選賢、古希喜寿を迎えた年齢層の熟年集団である。

当会は一昨年の会創立50周年記念祝賀会を最後に公式会合を取り止め、昨年から桜祭時に母校で簡素な年次会合を行う事となった。

最後に、この会を企画し開催の費用等を負担していただいた学園に深くお礼を申し上げます。しかし、実際のところは年会費の納入状況が思わしくないとのこと。今後の同窓会の存続および成蹊会発展のためにも、皆様への年会費納入を呼びかけて、以上報告とさせていただきます。

松井達也(経・平9年)

当会は熟年集団であるため会員総数180名中残念ながら20

名余りの物故者が存在するが平均余命が長くなる昨今、同じ佐藤ゼミで学んだ絆をいつまでも維持したいと会員誰もが念願している次第で可能な限り末ながく存続致したいと思う。

城戸崎靖(政経・31年)

### 桜祭船越会

満開の桜から華やかに舞う花吹雪の下、今年もまた逝った仲間への追悼からは始まりました。そんな雰囲気と和やかにしたのは、船越先生はお元気で食欲も旺盛という、直前にお目にかかっていたきた幹事の伝えた先生のご様子でした。

酒を酌み交わし話も一巡したところで、城戸毅・本城邦彦・寺田明の3先輩からの近況報告がありました。常勤は退いたがまた新しいことへの挑戦を続けているというチャレンジ精神と後輩への思いやりあふれたお言葉をいただき、我々も老いている場合ではないと大いに元気づけられました。



この間会場の学生会館302

号和室には、鈴木昭郎・登内正身・小林誠・有馬大造・藤本純子など、先輩同輩後輩が顔を揃えてくれました。桜祭船越会がますます学年縦断的横断的形相を呈してきたことは、10数年前に単なるクラス会からの転進を図った幹事たちのもくろみは成功しつつある、と思わずにはいられません。

屋外に出て桜の木の前で集合写真を撮ると会は解散となりました。桜に始まり桜に終わった桜祭船越会でした。来年もまた必ず開催します。桜祭船越会は永遠に不滅です。

木野修造(高・36年)

### 成蹊の風景





# 体育会・文化会OB会 趣味のつどい

## 成蹊 グリークラブ

第六回東京男声合唱フェスティバルに出演

1956年に発足した成蹊大学グリークラブは爾来40年以上に亘り男声合唱芸術を追求してきましたが、時代の流れには抗し切れず今から約10年前の1997年に成蹊のキャンパスから男声合唱の若々しい歌声が消えてしまいました。現役のクラブ活動としては暫時お休みとなつてしまつた訳です。

しかしながら一旦男声合唱の魅力にはまった男達は、大学卒業後も折に触れてOB会で懇親を深め、合唱を語り合う過程で、もう一度現役の男声合唱を復活してもらいたい、そのために役

にたつことがあれば喜んでお手伝いしたい、また我々も男声合唱を愛するものたちとして、ステージに立つて我々の歌を聞いてもらうチャンスを持ちたいという機運が高まり、2006年度の成蹊桜祭で卒業以来、初めてのミニコンサートを実現する事が出来ました。

ミニコンサートの演奏内容は必ずしも満足の行くものではありませんでしたが、その後の練習で磨きをかけてゆく過程で、東京男声合唱フェスティバルに出してみようという事になり出演が実現しました。

東京男声合唱フェスティバルは東京都合唱連盟及び朝日新聞社の主催で毎年11月に行われており今年で第6回になります。

出演団体が例年40から50団体あり、一団体当たりの時間の割り振りがわずかに7分に絞られる厳しさの中、成蹊は斎藤太郎先輩(政経33年)のアレンジに

よる、さくら(森山直太郎作曲)と、「いちご白書」をもう一度(荒井由美作曲)を柏陽一さん(法55年)の指揮でスマートに演奏し会場の大喝采を博しました。

現在活動している成蹊グリークラブは現役が活動を休止してしまつた為、かつて成蹊大学グリークラブで歌っていたOBを中心に、男声合唱に興味がある学園関係者有志で構成されています。

2007年4月1日の成蹊桜祭のミニコンサートに向けて月に2回(第1月曜日及び第3水曜日)に麴町の日テレ学院(日テレ麹町ビル地階)で夜7時から9時まで練習をしていますの



でご興味のある方は気軽に覗いてみてください。大歓迎しますから。(連絡先・・・〒112-0011 文京区千石4-7-12 七海隆彦)

七海隆彦(政経・38年)

## 高校地理研究部 OB会



2006年11月12日(日)に開催した。本年は旧高校地理研究部にとって創立60周年であり、桜の紅葉が始まつた学園内に会場を設定した。吉崎先生、内田先生は高齢のためご欠席だったが、集まつたのは21名とやや寂しかったが、小島明氏(高2回)から、山田勉氏(高39回)まで幅の広い旧部員が集合し、大変楽しく過ごすことができた。

第一線を退いた人たちでも、ヨーロッパをレンタカーで3000km走つたとか、国内を車で走り回つていたりとか、コーラス三昧に浸つていたりとか、結構景気のいい話も多く、体調を崩しておられる方には申し訳ないが元気者の集まりだった。



在職中のOBにしても、推理作家になつてしまつたとか、リモートセンシングの仕事に携わつていたりとか、時刻表の読み方が大いに役立つっていると、参議院の交通問題で活躍しているとか、交通運輸の仕事に従事しているとか、次世代エンジンの開発に現を抜かしているとか、JR全線乗車2周目がそろそろ終わるとか、相変わらず「地理」が何らかの形で関係している人が多い。

創立者の石田稜一氏(旧高21回)は那覇で健在なので、全



昨年11月25日(土)の樺祭に恒例になりました第3回E.S.S(英語会)OB総会を構内第二

# E.S.S.(英語会)OB会

員で色紙に寄せ書きしてお送りした。石田氏には数年前に山田勉氏が沖縄でお会いする機会があったとの事で、報告があった。なお、文集作成及び旅行のご提案があり、幹事で検討してみたいが、アイデアあればお知らせ頂きたい。

小笠原光聡(高・28年)

学生食堂で開催し、今回の総会には、遠方海外は(アメリカ)ロサンジェルズ、国内では九州熊本等から約70名の卒業生の方々に賑々しく参加して戴きました。

今回で2004年から計3回目の開催になりましたが、E.S.S卒業生約700名以上の方々の消息が徐々に分かってきており、毎回々が温故知新という過去の歴史を紡いで繋ぐという正に幹事冥利に尽きるといっても過言ではありません。

まだまだOB総会も著についた段階です、連絡が取れていない諸先輩後輩や参加していただけない方々も多数おられますが毎年の開催に当たり、幹事一同が精一杯がんばりOB会員同士の繋がりの輪を拡げ、今後益々多くの方々に参加して頂きおおいに盛会にしたいと考えております。今年も第4回総会を11月樺祭の時期に開催の予定ですので宜しく願います。

三浦 隆(法・49年)



## 理工学部 硬式庭球部 創部45周年

過日12月9日(土)体育会理工学部硬式庭球部は、大学10号館12Fにて創部45周年の記念式典を開催した。

当部は創部以来、現役並びにOB相互の交流を現在まで継続していることを誇りにしており、今回も創立者の初代主将・中村暢男氏から、今年度入部の現役部員まで約150名が一堂に会した。

砂川OB会長の挨拶に続き、秋季リーグで2部昇格優勝会も兼ねた四斗樽の鏡開きが行われ、前次顧問教授の乾杯音頭により盛大な開宴となった。式典はOB会から記念品の贈呈、現役主将からの活動報告等々の進行の中、懐かしい創部当時から現在までの活動の光景がスライド、ムービーがスクリーン上に再現され、各世代が当時を想いだしながら和やかに進行し、予定時間の2時間半はあっという間に経過した。

最後は校歌の心力を合唱し、5年後の50周年での再会を誓いながら力強いエールと三本締めにてお開きとなった。今回は初めての学内開催であったが、近代的に変身したキャンパスを一望し45年の歴史を実感しながらのパーティーは大成功であった。記念式典実行委員会



去る1月15日から23日まで、毎年恒例に開かれている銀座8丁目地球堂での成蹊学園OB、OGによる絵画展、今年も無事盛大なうちに終了する事が出来ました。期間中、いつもながら岸理事長はじめ、齋藤成蹊会常務理事、一般の方、成蹊学園を出られた方など数多くおいでいただきました。旧制高校卒業の方などで、小学校をともにした方がたの旧交を会場で交歓するほほえましい状況も散見されました。年々会員の熟練度も上がってきておりますが、腕の程は兎に角、より多くの少しでもご

趣味をお持ちの方がたのご入会を歓迎いたしております。ご連絡をお待ちしております。小山忠男 Tel.03-3269-5356 小山忠男(政経・31年)



## 成蹊ラグビークラブ 歓送・祝勝会

平成19年3月11日、学園の大学10号館12階ホールにおいて、成蹊ラグビー部の、中学、高校、大学の現役選手、OB、父母の会の方々、合計で260名ほど



が集り行われた。

これは、この春、卒業するメンバーの歓送と大学チームが、関東大学対抗戦Bグループにおいて、武蔵、一橋、上智、学習院、東大、成城、明治学院大を相手に7戦全勝、見事優勝し、更に早稲田、慶応、明治、筑波大など8校のチームよりなる、同Aグループで昨シーズン8位であった立教を13対8のスコアで破り、長年の宿願であった「Aへの昇格」を果たしたお祝いをおこなったのである。

会は、大学チーム主務、相澤景大君（経済4年）の司会で進められ、父母の会の代表の方からの卒業生へ贈る祝いの言葉で始まった。続いて、ラグークラ

ブ高島信之会長（旧高20回）より、同じく祝いの言葉とともに、今後とも、成蹊ラグビーの伝統であるフェアプレーの精神に徹し、先輩は、常に後輩が後に続いていることを念頭におき、良く面倒を見て成蹊のラグビーを盛りたててほしいとの挨拶があった。

関東ラグビー協会の副会長である貴島健治氏（政経12回）より、祝いと激励の言葉。続いて、中学高校チーム監督である土屋嘉彦先生から、卒業生に、ラグビーで培った気力、体力で進んでほしいとの励ましの言葉が述べられた。

前高校チーム監督の渡辺一郎先生の音頭で一同乾杯し、交歓交流の場となった。

大学チーム池田智監督（高校33回）より、チームのメンバー各人の活躍により、昇格の栄誉を勝ちとることが出来たと、その健闘ぶりを称え、感謝の気持ちが述べられた。

ラグークラブ現役強化委員長小田切賢太郎氏（経17回）より、平成18年12月10日、熊谷での立教との入替戦での勝利に至った主な要因としては、池田監督の優れた采配ぶり、前年、花園で

の全国高校大会に出場し、活躍したメンバー数名が加わりチームの戦力が強化されたこと、又より良きコーチ陣の指導等によるものとの挨拶があった。

今回卒業するメンバーたちからお世話になった監督、コーチ、両親、OBへ感謝の言葉が述べられたあと、送る側から記念品の贈呈と続いた。

今シーズンから新たに戦力として加わる大学新入部員の紹介のあと、大学チームの新しく主将となった土井内竜君（文4年）のリードにより一同で、部歌を合唱し、盛会のうちに終了した。

原 一郎（政経・28年）

## 写蹊会 デジカメ懇話会

2月24日（土） 11:30~15:00

第二学生食堂にて会員各位の自発的な協力で、会場造りも順調に捗り25名の方々を迎え、恙無く開会致しました。今や写真業界は携帯電話に組み込まれる程急速に浸透したデジカメに

より写真人口は増加の一途を辿る傍ら、市場構成の変遷に大きな影響を及ぼしております。これを受けて写蹊会はデジカメに関する問題を解決する為に懇話会を企画、末端小売業を代表し小出カメラ小出会長、メーカー側は富士フィルムイメージングより清水講師、撮影と画像イメージの評価に創造写真家APAC H E氏をお招きして講演と質疑を中心を実施しました。従来のフィルムカメラの映像処理は、フィルムに光学的収画を行い印刷紙に焼き付けるもので、デジカメは映像を電子的に処理記憶しそれを映像に再現するもので、作動の仕組みや機器製造のプロセスが異なりその画期性に対応するには、エレクトロニクスに

関わる技術革新と生産体制の急速な完備が不可欠で、立ち遅れ撤退する製造業者も続出する傍ら電産業者の参入もあり、市場でも家電業者や廉売業者がパソコンと関りあるデジカメ・プリンター・関連機器に至る迄販売しております。この様な背景で我々写真愛好者、販売業者、写真機器製造業者、は如何に対応すべきかを各々の立場から見解を伺い質疑応答を行いました。



デジカメの指摘される欠点、例えばシャッターのタイムラグ等問題点は改善されつつあり、近い将来フィルムカメラを一掃すると思われ、増大しつつある写真愛好者にはパソコンやプリンターを介して楽しむ人が居るにせよ、大衆は短時間で美しく仕上がりが、簡便で経済性のある大手写真店に依存していることも事実です。この市場は写真機器の専売や廉売を自玉とする販売業者の圏外で、消費者の代行を行うプリント業者が顧客と意思疎通、信頼関係を深め栄存する場であります。一方製造業者は機器の欠点解消、性能向上、ユーザーの要望を反映する機器造



りや、写真店をバックアップする機器とノウハウの開発と提供が重要であることを確認しました。結論として専門家の見解「性能が優秀で簡便になり万人

が良い写真造りの機会に恵まれるが、心を持つ作品造りは、機器の性能や技術より撮影者の感性と心情が先行する」ことを再認識しました。今回は激しい質疑応答の寸暇に、実際に提供された5台の機器を用いデジタル

未経験者を交え体験撮影し、即パソコン画面で優れた性能を確認しましたが、プリントアウトの対応残が出たことが悔やまれます。かくてデジカメの知識

業界の変遷と将来の展望等を確認、「京都の竹の子弁当も休憩時のおやつも楽しめたし、今後の機器活用に意欲が湧いてきた」とのご感想を頂きました。

写蹊会世話人一同

### 写蹊会写真展

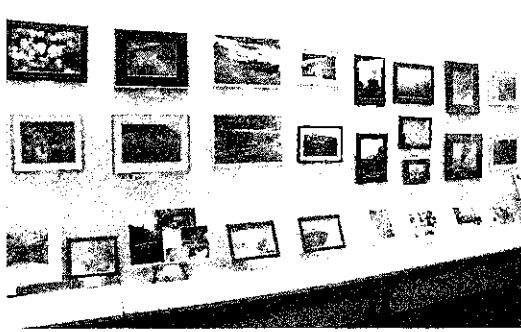
成蹊桜祭まで満開を維持できるか懸念されましたが、この思

いが天に届いたか陽気の足踏みは当日の桜日和を招き、成蹊の庭は押し寄せる人の波に桜吹雪が舞っておりました。

学園側のご好意により今年も学園史料館二階ロビーを拝借し開催されましたが、9年前からの記録を上回る92点の出版を頂き、述べ300人を遙に上回る

方々が来訪、鑑賞されました。今年はいよいよ多くのお客様に楽しんで頂く為、閲覧しやすく作品の特徴を引き出せる陳列を

指し、世話人のプロ写真家による指揮に基づき過去展示作品の分類・データ分析を参考にして展開したところ、「整然とし見やすく疲れないうえ、次の場面に



れる」と好評を得ました。

また一昨年から始めたご一家でお越しになった方のスナップ写真の提供も喜ばれ、たまたま学園創立者中村春二先生のご一族の方が来訪され、学園の発展と充実した教育設備、優れた重要史料の保存管理状況に感服される

と共に、お願いして要望に応じて頂き、同じご一族の出版されたお孫さんの写真の前で記念撮影を致しましたが、成蹊ならではのシーンである事も申し上げなくてはなりません。

一方出版作品の傾向として昨年に引き続き或る情景の中での動物描写が増加していること、家畜の写真が一枚も無く、変わりに鳥類や蛙・昆虫に至る幅広い動物が選択され、最たる新機軸は海中のイルカを実写したものであります。

新機軸はこれに留まらず、渡邊華山の直筆の模写図、カナダの教会をモノクロにコンバートし掛軸状に加工

東洋的赴きを漂わせるもの、美女の口元に溢れる趣きを艶やかで且つ象徴的に表現したもの等

個性的で感性溢れる作品が寄せられました。また、今年も去年に引き続き大学写真部の出版を頂きましたが、この様な機会を

積み重ねより交流を深めたく思う次第です。

今回は会員数に対する出版者率が70%弱に及び、これも過去最高値となりましたが、来年も



## 業界・企業のつどい

これを上回る優れた内容を目指し、より高度な写真造りに励みたいと思います。

写蹊会世話人一同

月 確実に定期会合を開催し、和気藹々交流しております。

毎回20名位が集まり、成蹊中学・高等学校の谷正紀校長も常連の仲間であります。

メンバーの殆どが年金生活者であり、リーズナブル会費のためか、年毎に常連が増えてお陰で盛況です。

不幸な事に出身会社が数年前未曾有な不祥事を起こしましたが、我々の絆は固く、出身会社に対する精神的な再生支援と成蹊出身者としての伝統的な連帯感で更なるシニアの親交を深めております。

当会には今年から団塊世代後輩の大量入会が予想されますが、

### 三菱自動車 OB成蹊会

在職時代は元成蹊会会長故丹治道生さんを中心に企業内成蹊会として長年活動致しましたが、退職後も成蹊と職場のダブルの絆を何時までも維持したいとの願望で6年前に有志により当会は発足致しました。

発足時は丹治さんも存命でしたが、現在は元成蹊会理事・財務委員長関野和夫さん(旧高23)を中心に毎年2回(5、11

収納人員に限度がある定例会場を如何にやり繰りするか嬉しい悲鳴に思案しております。

城戸崎靖 (政経・31年)

## 明治安田生命 成蹊会

去る1月18日、明治安田生命

成蹊会定時総会が、赤坂プリ



スホテルにて盛大に執り行われました。当日は首都圏在勤の30名の会員が久方振りに参集し、4名の来年度入社内定者も交えて、和氣藹々の賑やかな集まりとなりました。恒例の校歌を斉唱、エールにて、締めくくり散会となりました。当会も内定者が入社する4月1日には、会員数は153名になる見込みで、引き続き、会員相互の親睦・交流を深めて参る所存です。

工藤洋平 (法・平15年)

## JTB成蹊会

JTB成蹊会(会長・加藤不二男氏)〔株〕JTBビジネスストラベルソリューションズ代表取締役社長〕会員数73名は、2月22日(木)19時半よりURAKU青山にて、今年度総会を開催しました。

会員相互のコミュニケーションを図つていこうと、2004年6月に同じURAKU青山で開催して以来、凡そ2年半振りの総会と懇親会になりました。



今回は、名誉会長である吉岡

光昭氏(元株)ジェイティービー取締役を中心に23名の社員とOBが集まり、加藤会長の自由闊達なコミュニケーションを図り、互いに協力し合おうという挨拶があり、若手代表として公務営業東京支店内倉信彦氏の司会進行で懇親を深めました。学園生活の思い出を語り合ったり初めて会う者同志で名刺交換したりと終始和やかな雰囲気の中で、今抱えている仕事のテーマなど熱い意見交換の一幕も見られました。最後に校歌を斉唱し、樽に囲まれた学び舎を築立ち、其々の場で活躍する同門の有志が集うこの場の意義を感じ、盛会裏のうちには散会しました。

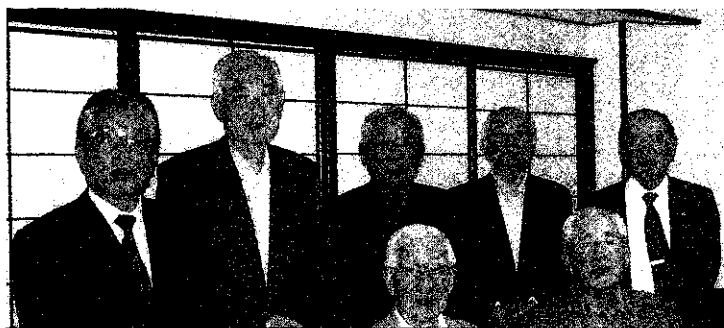
JTB成蹊会 連絡先...  
JTB東日本国際交流センター  
所長 鶴田雄次郎  
電話03-5355-10181  
鶴田雄次郎 (法・60年)

## 三井住友銀行 政経学部OB会

二〇〇七年三月二十日(火)

午後一時より、成蹊大学政治経済学部出身者の三井住友銀行OB会をニュートキョー数寄屋橋本店の八階「高尾」にて、三年ぶりに開催しました。

現在全員で十六名(死亡者二名を除く)ですが、体調不良や病気で自宅療養の方々が多くなり元気な方は十名程度になってしまいました。このため出席者は下記七名(三名は所用で欠席)―大脇、本間、大坪の各氏)でしたが、第一回卒業の伊藤功氏の首頭で乾杯し、久しぶりで賑やかな会合を持つことが出来ました。出席された方々も大半の方は何らかの持病をかかえており、銀行に入行して管理職になりバ



リバリ働いていた頃を思うとまさに隔世の感がしました。いくら自分はまだ若いと思っけていても、気持ちと身体はマッチングしないのが現実で残念ながら氣力の衰えは否めないようです。せめて母校の開学百周年(二〇一二年=平成二十四年)までは、お互いに元気で居たいものだと言う話になり、元気の度合いを確かめ合い情報交換等を行うため、これからは毎年会合を開いたら如何ということで散開した次第です。

今後は、経済学部や法学部等の卒業生でOB（六十歳以上）になられた方々にも声をかけることを検討したいと思っております。



# 地域のしごい

母校の益々の発展を祈ります。  
（注）出席者……伊藤、高田、朝倉、臼井、林田、佐野、宮坂 佐野忠司（政経・33年）

## オーストラリア クイーンズランド 成蹊会

第23回QLD成蹊会を2007年1月29日（月）13時にゴールドコースト市内の中華料理店（シャークスフィン）で飲茶の昼食で半年振りに開催いたしました。

例年、北海道日高牧場の下河辺俊行（S40政経）さん夫妻の参加がありました。ご都合で来豪できず今回、会の発足後では初めてとなる不参加となりました。

した。東京から避暑（オーストラリアは夏）にいられた宮坂剛一（S40政経）さん夫妻とお孫さん、臼井三代治（S39政経）さん夫妻（初参加）、ご親戚、ご友人の参加をいただきました。宮坂さんは1996年12月30日の新年会に、高校で同期の杉浦重男（S39政経）さんと参加していただいていた10年ぶりでした。皆さん観光とゴルフ三昧の休暇を楽しんでおられました。



Junko Van Dorenさん（旧姓高橋淳子）S54文学部英米文学科）は富山の実家から2日前にゴールドコーストに帰られたばかりでした。そして幹事役の

素子 Donoghueさん（S44政経）はロイヤルパインリゾート代表の秘書・通訳を昨年末に退職されて今回は時間的にも余裕を持って参加されました。素子さんが勤めておられたロイヤルパインリゾート内のゴルフ場では世界女子マスターズが今年も日本の女子プロが参加して2月初旬から開催されます。昨年同様1月から成蹊・州立グリフィス大学交換留学生が何名か来られているはずですがいまは新学期2月からの授業開始の準備で多忙と思います。8月予定の成蹊会にぜひ参加していただき留学生生活についてお話が聞けると思います。

オーストラリアは昨年以來建国（1788年）以来の大半で農作物に大きな影響ができています。農家が廃業するなどの深刻な影響を与え、これらが原因で世界的な穀物価格の高騰が始まっているようです。当地クイーンズランド州でも庭の植木の水やり、芝生のスプリンクラーや洗車などの大幅規制に入っています。水がなくては生きていけないといには下水道を浄化して飲み水など生活用水に使用することが真剣に検討されています。今年も「水ごい」の年になりそうです。

なお当会では学園（小中高校大学）の卒業生に限らず広くご家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。今年のゴールドコーストの夏（日本の冬）は前半涼しくて順調でしたが後半は暑くなりそうです。皆様もゴールドコーストに来られるときには遠慮なく一報下さい。  
e-mail:samishijima@hotmail.com  
Tel:07-55947585  
Mobile:0418763717  
西嶋 勇（政経・40年）

北海道支部主催の枯林忌の集いを、2月21日（水）札幌プリンスホテルにて、本部より田上 常務理事をお迎えし、総勢29名にて開催いたしました。本年は役員改選が行われ、2期4年会長を務められた小林敬明先輩（S32政経6期）に替わり、新会長島津裕之先輩（S36政経10期）、新幹事長村木重天先輩（S46工6期）が選出されましたことを報告いたします。



定期総会終了後、お待ちかねの懇親会が真正武顧問（S25旧高23期）の乾杯のご発声により和気藹々とした雰囲気の中、開宴されました。本年も昨年引き続き、日本テレビ放映「おもいっきりテレビ」の中で放送された中村春二先生の功績を伝えるDVD（本部より借用）を視聴しながら、暫し感慨に浸ることができました。宴の後半からは、恒例の出席者による近況報告が行われましたが、皆さん





かかりつつある状況です。今回は新しく6名の方々のご出席をいただきました。

他の支部同様、北海道支部も大変活発な支部会員交流と4大学交流（年2回の大学対抗ゴルフ、合同大忘年会）が行われておりますので、他の支部で北海道へ転勤等の会員情報がありましたら、北海道支部事務局までご一報いただきますようお願い申し上げます。

大岩 勝（工・57年）

## 秋田成蹊会

11月17日（金）秋田キャッスルホテルにて平成18年度の秋田成蹊会を開催しました。成蹊会本部から高橋事務局長をお迎えして総勢27名により盛大に行われました。

高橋基新会長（工43年）の挨拶に始まり、学生時代の思い出話を酒の肴にしながら会はなごやかに進み、毎年恒例の参加者一人一人による近況報告では学生時代は素敵!?に過ごさせてい

のユーモアたっぷりのお話の陰で宴が大変盛り上がり、多くの皆様に2次会へのご出席をいただきました。宴の最後に混声合唱部出身矢部玲子さん（S57文14期）のリードで校歌斉唱が行われ、最後に、島津新会長の「成蹊学園出身者としての誇りを持って、それぞれの立場で頑張らしましょう」とのメロのご挨拶で平成19年度栞林忌の集いが終了しましたことをご報告いたします。

最後に、北海道支部にとっては大変うれしいニュースですが、昨年後半より、ここ数年問題となっていた会員の転勤による道外への流出によりやく歯止めが



## 千葉支部

### 事務局長

#### — 酒井四平氏に感謝状

平成18年11月18日千葉支部役員会が、安田敬一支部長（政経2）、深澤勝彦副支部長（政経7）、津田英彦副支部長（高5）、園田信行幹事（政経4）はじめ総勢14名の参加により、ホテル・ポルトタワー千葉で開催された。役員会に引き続き、35年の永きにわたり、千葉支部を支えてきた酒井四平事務局長（政経2）に安田敬一支部長より感謝状が贈られた。謝辞の後、酒井氏差し入れのポジョレ・ヌーボーで深澤副支部長の音頭により祝宴が開かれた。続いて酒井氏への感謝と励ましの言葉が参加役員全員から述べられ大変楽しく、和やかな祝宴となった。締めは大塚克彦幹事（政経17）の千葉締めにて終了。

今まで運営にご尽力頂いた大先輩と若手幹事とのバトンタッ

チと、心のコンタクトが今後の千葉支部に素晴らしい形となって実現することを実感した。酒井氏曰く「来し方を思い、感激で涙が出そうになったよ。いい日に感謝！」

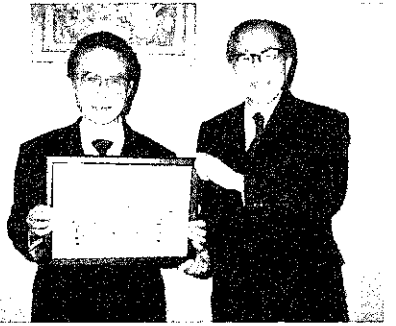
片山正樹（工・44年）

### 謝辞

この度は、年末のご繁忙の中を小職のためにかくも大勢の役員各位により事務局担当の労をねぎらって頂き心より深謝申し上げます。

政治経済学部同窓会の万年幹事長を兼ねていた頃の思いと重ねて、素晴らしいライフワークを賜り大きな生き甲斐の一つとなっております。これは成蹊学





園に学んだご縁であり、恩師・中村草田男先生をはじめとした、良き諸先輩・学友・後輩との邂逅の賜です。これからも、このご縁を大切に生きていきたいと思ひます。

役員各位のご愛念に対し深甚なる謝意を表しますと共に皆様のご健祥を切に祈念申し上げます。感謝

平成18年11月18日

酒井四平 (政経・28年)

## 成蹊会 千葉支部の近況

南総里見八犬伝の地を訪ねる

さる3月25日、例年実施して

きた成蹊会千葉支部のイベントを南房総市の地をウォーキングとコンサートを聞くことを目的として実施した。

当日は交通機関に遅れがでる生憎の天候であったが南房総市岩井の道の駅富楽里とみやまに10名の会員が集まった。海の幸を主とした昼食の後、

メイン会場である富山公民館に移動し、南房総市、千葉県青少年女性協会(会長は千葉支部長の安田敬一氏)共催の『房総発見伝とコンサート絆』に参列。

『南総里見八犬伝・伏姫と八房』の語りを聞き、千葉県警察音楽隊の演奏をきいた。

その後も天候が回復せずウォーキングは中止とし、全員で再



度『道の駅富楽里とみやま』に戻り房総の肴で小宴会をもち楽しい時間を共有した。

南房総市岩井は小、中学校の夏の合宿所として成蹊にもなじみのある地である。

鈴木茂樹 (文・44年)

## 渋谷成蹊会

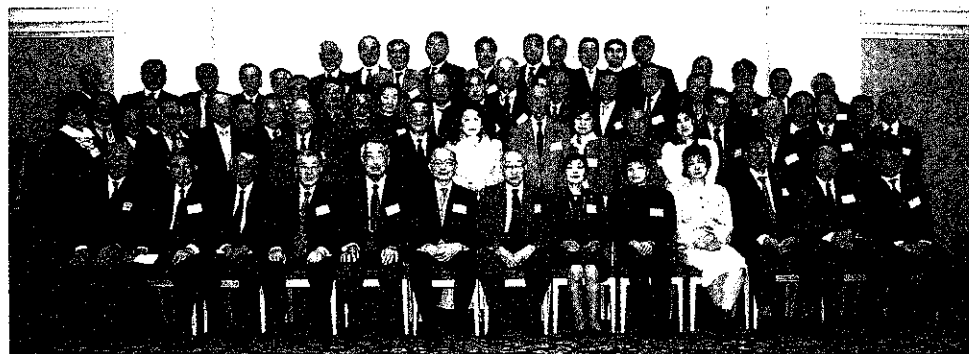
2月9日18時半より第39回渋谷成蹊会を「青山ダイヤモンドホール」で開催致し成蹊学園岸理事長や2月に成蹊会常務理事に就任された田上尚道君(S43政経)にも参加頂き、新入会員9名を迎え76名の参加者が有りました。

乾杯のご発声は参会者中の最長老をお願いしておりますが、今回も昭和27年大学第1回卒の赤石先輩にお願いし開会致しました。ご挨拶は何時も初参加の方だけにして懇談の時間を長く取るようにしております。

初参加の方々も直ぐ会話の輪に溶け込めるのも他の学校のようには校舎が各所に離れているの

ではなく同じ「吉祥寺」で学園生活を過ごした共通の楽しい思い出が有るからだと思ひます。初参加の方々から次回も参加したいと言われることがお世話役としては嬉しいことです。

閉会に先立恒例の校歌はグリークラブOB米倉君を中心に羽



鳥君、市川君、高橋千善君の4人で1番2番3番を高唱し、学園に対するエールをヨット部OB丹羽君が行い1次会は終了しました。2次会はそれぞれのグループ毎に雨の表参道に散って行きましたが何故か毎回雨が降るのは不思議なことです。

今回で4度目ですが、会費の内から一人1千円づつ「成蹊学園創立100周年記念事業」に寄付する事とし、合計8万円を寄付させて頂きました。

次回は7月14日(土)に第40回の会を開催致します。新たに参加ご希望の方は渋谷成蹊会事務局(電話・FAX03-3463-5593)までご連絡下さい。

池原正夫 (政経・36年)

## 三重成蹊会

去る12月1日(金)18時30分より津市内の「プラザ洞津」に於きまして第26回「三重成蹊会」が開催されました。当日は、成蹊会本部より吉野副会長をお迎え



り、「三重成蹊会」として寄付金を吉野副会長にお渡しすると共に、より一層の記念事業への参加が呼びかけられました。

続いて、梅林三重成蹊会副会長（S27高）のご発声により乾杯となり、懇親会に入りました。

懇談の中で、吉野副会長にご持参いただきました「みのもんたの午後は〇〇おもしろいテレビ」で紹介された中村春二先生の生きざまのVTRをプロジェクトを使って放映し、成蹊学園の卒業生であることの自信と誇りを改めて感じたことでした。

し、総勢27名と人数ではいささか淋しい集りとなりましたが、「安倍内閣」誕生というニュースもあり、大いに盛り上ったことでした。

ホンダオート三重社長の林口朋一氏（S40政経）の司会で進行し、平井拓造三重成蹊会会長の挨拶に続き、吉野成蹊会副会長の成蹊学園及び成蹊会の現況報告があり、学生当時に想い馳せながら聞き入ったことでした。その後、加藤聡さん（S31政経・当日欠席）から「学園周年記念事業募金」への「三重成蹊会」としての参加のご提案があ

記念撮影の後、全員で校歌を斉唱し散会となりました。

毎年行われる集いですが、今年一つ参加者が少なく、企画にも工夫が必要だと痛感しております。

又、翌12月2日(土)にグランジエロゴルフクラブに於きまして、親睦ゴルフコンペを行い12名の方々に参加いただき、大変なごやかな雰囲気の中で行われ、相模昌宏氏（S56工・東ソ）が栄えある優勝をされました。プレー後のパーティーの中で、「三重成蹊会」の参加者を増やし、盛り上げる為にも「ゴルフコンペを単独で年2〜3回開催しようではないか」とのご意見が多数あったことを付け加えさせていただきます。

次回の「三重成蹊会」には、多数ご参加いただけますようお願いいたします。

三重に転居、転勤などなされた方は、左記世話人までご連絡下さいますようお願いいたします。

（株）ホンダオート三重 林口朋一  
059-225-7018  
お待ちいたしております。

村田正明（政経・34年）

## 兵庫成蹊会



今年度の兵庫成蹊会は、4月14日（土）12時30分より、好天のもと満開の桜が少々散り始めるも春爛漫の大甲山麓（神戸市東灘区）、（株）渡辺農園「ブルーミンメドロー（Blooming Meadows）」（75年文学部卒、渡辺倫子氏経営）で開かれた。

参集したメンバーは、花と緑に囲まれ手入れの行き届いた、庭園とログハウスにまず満足し、早速庭園で全員の記念撮影をした。その後、参加者36名がログハウス内の会場に着席、成蹊会・田上尚道常務理事、成蹊学園・伊藤昌弘担当部長のご挨拶に引き続き、長老・橋本氏の乾杯のご発声で懇親会は始まった。成蹊会への年会費の納付、100周年事業に対する寄付のお願いがあつたが、成蹊大学ラグビー部の関東リーグAクラス入りは一貫教育の成果としてなんと嬉しいお話しであった。料理はプツフェスタイルの上品な味

付け、赤白ワインなど飲み放題のサービスに皆さま早々に上機嫌の様子。なつかしい思い出話や成蹊学園の今昔談義に花咲かせ、15時、校歌斉唱し名残を惜しみながらの散会となった。

今回出席された中で、ご長老組は両宮啓介氏（53年政経学部卒）、橋本氏（54年政経学部卒）、森田文蔵氏（55年高校卒）。これに対して若手の平成卒業組は石井由紀さん（91年文学部卒）、上村雄二郎氏（97年経済学部卒）、藤田亜紗子さん（02年工学部卒）であった。年齢を超えて先輩と心おきなくお





話していただけるのは成蹊会の上下隔たりのないすばらしいところ。今後、地域における成蹊人の「和と輪」を大切に、この地域ネットワークをさらに広げて行ければと思う。

来年度は4月12日(土) 11時にJ.R三宮を出発、バスで海を渡り洲本の淡路島観光ホテル(上村雄二郎氏経営、三宮から送迎バスで80分、日帰りでの会費8000円)での開催を計画している。皆さま是非ご参加ください。そしてまた成蹊会でお会いしましょう。

なお、大阪・奈良・和歌山成蹊会は9月15日(土) 13時より大阪・梅田「バンダリア」で開催の予定です。こちらにも是非ご出席ください。

古川博康(高・41年)

## 愛媛成蹊会



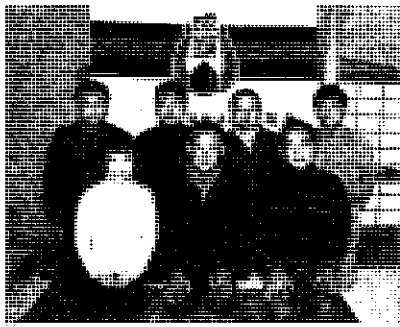
愛媛成蹊会第5回忘年会を、日18年11月23日(木)に国際ホテル吉長にて、開催を致しました。この日は7名の方が出席を

されました。

今回は、開催場所を変更して和食料理の吉長で開催しました。愛媛成蹊会も設立して早5年目を迎えました。愛媛成蹊会の設立者である、吉田昌史顧問には大変お世話になりました。感謝申し上げます。この度、吉田顧問は神奈川県茅ヶ崎の自宅の方に戻られるということになりましたが、愛媛成蹊会には名誉顧問として、残って頂くことになりました。

また、先日行われた安倍晋三内閣総理大臣の就任をお祝いする会には3名が出席しました。懐石料理を食事しながら、楽しく懇親会を過ごす事ができました。

転勤で愛媛にいない方、又は愛媛が地元で県外に転勤されている方で、愛媛成蹊会に参加しよ



うと思う方がいましたら、是非ご参加下さい。

問い合わせ先 愛媛県松山市大町可賀2-3-17

TEL 089-952-1111

担当 福崎太郎

右記の方ご連絡下さい。宜しくお願いいたします。

福崎太郎(法・平7年)

### 予 告

・会費 10,000円(女性8,000円)

・事務局 財団法人 安田教育振興会内

(酒井・片山・丸山・鈴木・溝藤)

千葉市中央区登戸4-2-12

TEL 043(247)9541

FAX 043(247)6947

#### ■工学部同窓会

今年も例年の通り十一月の樺祭期間中の日曜日に、工学部同窓会の総会を開きます。お誘い合わせのうえご参加いただきますようお願い申し上げます。

・日時 平成十九年十一月二十五日(日)午後一時〜三時

●参考 樺祭期間 二十四(土)〜二十五(日)

・場所 十四号館四階大会議室(予定)

・会費 二、〇〇〇円

・懇親会 レストラン・ピープル

午後5時〜7時 同ビル9階

電話 043-222-3140

#### ・懇親会

午後5時〜7時 同ビル9階

電話 043-222-3140

・演題 「俳句随感：成蹊人との邂逅いろいろ」(約40分)

レストラン・ピープル

#### ・懇親会

午後5時〜7時 同ビル9階

電話 043-222-3140

・講演 講師 酒井四平様(成蹊会千葉支部事務局長/旧高24政経2回)

榊博報堂にて出版営業部長・人事部長・秘書役・博報財団常務理事他歴任

・講 演 講師 酒井四平様(成蹊会千葉支部事務局長/旧高24政経2回)

榊博報堂にて出版営業部長・人事部長・秘書役・博報財団常務理事他歴任

・場 所 千葉市商工会議所14階・第1ホール

(千葉中央ツインビル2号館)

・日 時 7月7日(土) 午後3時〜7時

(受付開始午後2時30分)

・日 時 7月7日(土) 午後3時〜7時

(受付開始午後2時30分)

・場 所 千葉市中央区中央2-15-1(JR千葉駅、京成千葉駅より徒歩11分)

千葉市中央区中央2-15-1(JR千葉駅、京成千葉駅より徒歩11分)

・日 時 7月7日(土) 午後3時〜7時

(受付開始午後2時30分)

・場 所 千葉市商工会議所14階・第1ホール

(千葉中央ツインビル2号館)

・日 時 7月7日(土) 午後3時〜7時

(受付開始午後2時30分)

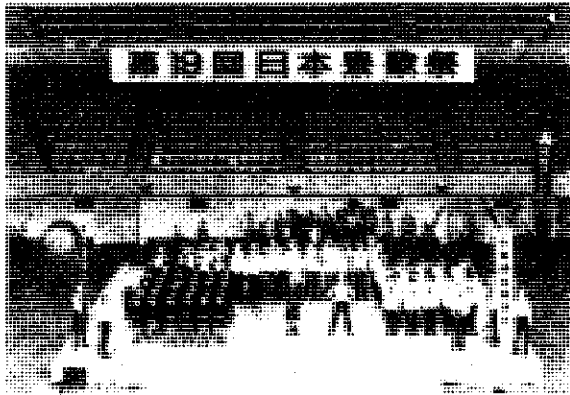
# 寮歌について

## 寮歌祭への成蹊の参加

西村 洋

日本寮歌祭は1961年（昭和36年）文京公会堂にて21校が参加し第1回日本寮歌祭が開催された。成蹊高等学校は第5回1965年（昭和40年10月23日）日比谷公会堂へ参加し小学生から大先輩までの大合唱で虹芝寮寮歌を歌う。リーダーは谷岡喜久蔵氏であった。

その後一時中断したが、1978年（昭和53年10月23日）日本武道館における日本寮歌祭に参加し、膚を濡らす、及び校歌を高く唱じた。この寮歌は旧制高等学校13回の霜山徳弥作詞、清水瀧雄作曲として学園より昭和14年1月に明正学寮生に配布されたものである。当時の経緯については同じ13回の三好栄氏が旧制成蹊高等学校創立八十周年記念誌に詳細を記述している。



第19回 1979.10.20. 日本武道館  
小学生、グリークラブをバックにした大舞台。中央に心力歌に使用する鐘を置き久我太郎氏が心力歌を歌う。



第5回 1965.10.23. 日比谷公会堂  
小学生から大先輩まで参加した大合唱団

事後今日2006年（平成18年10月9日）、新宿NSビルの日本寮歌祭まで欠かさず参加している。現在の参加校は56校であり、それぞれ日本寮歌祭への参加以外に各地寮歌祭を開催しており成蹊もこれら各地寮歌祭にも参加している。

1978年第18回日本寮歌祭に参加して以来欠かさず参加している蔭の世話人は山本亨介君（旧制23回理）であり、司会並びに音頭取りは藤田暉夫君（政治経済学部3回）である。又島尾和男君（旧制19回理）は日本寮歌振興会及び武蔵野寮歌祭の事務処理を一人で消化しており余人に代え難い人となっている。

成蹊のメンバーの中心は約15名の19回卒であるが、旧制のメンバーを動員したのは故長谷川博和君（19回理）であった。

## 日本寮歌祭及び各地寮歌祭への参加史 （平成14年12月編纂）史料館に保管

平成12年10月19日島尾和男以下有志（13名）が集まり井川舜喬君（新制高等学校第1回）を事務局とし成蹊会の事業として参加史を編纂した。主な内容は、日本寮歌祭及び各地寮歌祭参加の写真集・随想・檄文・座談会・その他関係資料多数収録して平成14年12月に完成した。

## 旧制高等学校の学生生活と寮歌

成蹊及び2、3の高等学校は別として、各高

等学校は全寮制で3年間は寮で生活した。大東亜戦末期は2・5年や2年もあった。その間の教育理念は自由と自立の人間教育であり、その中から寮歌が生まれた。山形高等学校の神津康男氏（日本寮歌振興会会長）によると新入寮生には先ずストームがかけられ、寮歌を歌わされ教育されたものである。

寮歌の発祥は明治35年『嗚呼玉杯に花受けて』第一高等学校寮歌・明治40年『南下軍の歌』第四高等学校寮歌・明治45年『都ぞ弥生』北海道帝国大学予科寮歌・昭和14年『膚を濡らす』成蹊高等学校寮歌等々明治から今日までに作られた寮歌は、1500を超えると推定されている。その中の代表寮歌は格調が高く一般の方々には難解な所が多い。

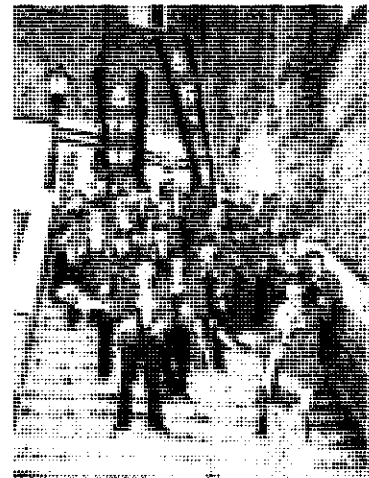
これらの寮歌が、破れた白線帽、マント、汚れた手拭を下げ、柏の下駄を履きながら高唱された。如何にも野蛮に見えたことから、寮生以外の人達がこれを忌み嫌うことが多かった。根は青春パワーの発露である。

### 社会人としての活躍

旧制高等学校への進学率は当時1%に満たず、尚、家庭的にも経済力のある子弟が全寮制の高等学校へ入学したエリート集団であった。戦後日本の復興に中心的役割を果たしたと自負している。10年前から日本寮歌振興会が事務局となり、『日本の教育改革を進める会』を設立した。



第40回 2000.10.7.  
日比谷公会堂最後の寮歌祭。



第39回 1999.12.4.  
日比谷公会堂階段にて打上げの合唱。

前東北大学総長西澤潤一氏を会長とし、日本寮歌振興会会長神津康雄氏を専務理事として発足した。中曽根前総理を顧問とし各界の著名人のご意見を元に教育改革の提言をまとめ町村前文部大臣との会談をしばしば行つて来た。著名人では小田村四郎（拓殖大学総長）・亀井正夫（住友電工相談役）・宇沢弘文（東京大学名誉教授）・楠川洵一（東京都立大学総長）・山口康助（文部省教科調査官）、等々約30名の方々である。本会は会員数1400名を有し、会報（啐啄）が年3回発行される。我々が参加する寮歌祭は年12回程度である。その他『日本の教育改革を進める会』の会合、日本寮歌学会の会合等でお付き合いの仲間も多い。

### 武蔵野寮歌祭

（旧制）第四高等学校昭和17年卒の市川定三氏が昭和57年に発足した練馬寮歌祭が平成10年4月第1回武蔵野寮歌祭として武蔵大学で行われるようになった。事後年2回春秋に開催、成蹊、武蔵、成城、学習院、の4校で場所を提供して開催している。参加人員は39校で約2000名程度である。何れも当番校の理事長、大学長、同窓会長、等の挨拶と祝辞があり、午後一時寮歌を高唱し各高等学校の親睦を図っている。平成19年9月15日は成蹊学園第一学生食堂で正午より嘯風武蔵野寮歌祭を開催いたします。

（旧高・20年）



## 武甲寮歌祭

武甲寮歌祭は都会を離れた山あいの鄙びた宿を舞台とする小規模な催しだがここならではの特色を少なからず持っている。

その一つは、プログラムの中に、本家本元の秩父音頭のおはやしと唄が盛り込まれていること。これは世話役の片山誠二郎氏（秩父市在住・山形高OB）が秩父音頭保存会に深くかかわっていることによる。いま一つは「ファイヤーストームを実施している寮歌祭は全国でも蔵王とこだけ」と自画自讃している通り、第2部として玄関先の広場で旧制高校とは切っても切れないファイヤーストームが演じられることである。



さらに幹事役の齋藤国彦氏（秩父市在住、浦和高校OB）が往復の西武鉄道特急券を確保し、一泊後の翌日は紅葉の秩父路バス観光まで準備してくれる等行き届いた手配をとるといってもこの寮歌祭の特色となっている。

惜しむらくは会場の柳屋旅館が小規模のため参加人員に制約があり今回の第9回（11月12日開催）も成蹊からの出場は、西村洋（19回理乙）と赤石定次（23回文甲）の二人となった。

ファイヤーストームのさなか、消防自動車が出現して、火事と間違えられたか？と緊張したが、サイレンは鳴らさず鐘だけで、届け出は済んでいるので確かめにきた程度と思われた。

19時50分、迎いのバスがきて日帰り組17人は乗車して帰京、宿泊の20余人はさらにストームを継続した。

前日が荒れ気味の長雨のためその翌日の晴天という好条件に恵まれ、都心部では絶対見られぬ星座群が頭上にきらめき、中でも白鳥座の十字型とカシオペア座のW型がひとときわ印象に残った。

赤石定次（旧高・25年）

## 一成蹊学園の地域清掃活動に卒業生も参加しませんか！

母校成蹊学園では「建学の日」を含む年4回、学生・教職員・卒業生が「地域清掃活動」を行っています。学生をリーダーとする班を編成して、学園近隣から吉祥寺駅周辺に至る市街地を清掃します。

本年は年4回の地域清掃活動を予定していますので、是非卒業生の皆様もご参加ください。



地域清掃活動日 平成19年度 6月22日（金）・10月23日（火）  
12月21日（金）・3月23日（日）

詳細は成蹊会事務局までお問い合わせ下さい。

# 成蹊学園建学の日「私の成蹊」 エッセイ募集について

## ◎成蹊学園「建学の日」

母校成蹊学園では、一昨年より3月23日を「建学の日」と決めました。

成蹊最初の学校となる成蹊実務学校が明治45年、池袋の地に開校されましたが、開校10日前の3月23日には隣の豊島師範学校の火災類焼により新校舎が全焼しました。

急遽仮校舎での開校式となった中村春二先生は「教育は建物ではなく精神である。教える者と学ぶ者との心さえ通えば、たとえ野原に立っていても教育はできる。仮校舎はみすぼらしいが、ここは桃李の里である。桃李物言わずといえども、下自ら蹊となす」という言葉を味わって欲しい。自分を磨いて美しい人格をつくれれば、その人はたとえ何も言わなくとも、自ら世間に認められるようになる」と「成蹊」の名の由来を引用して話されました。

この火災は成蹊関係者、とりわけこれから教育の理想に向かつて踏み出し始めた中村先生にとつては大きな試練でした。しかし中村先生は「この火災は今から考えると我々のために却って祝福すべきものである。我々は火事のために物質的には多大の損失を被つたが、精神的には却って大いに利益を得た訳である。この意味に於いて火災記念日を一種の祝日としてかくの如く祝うのである」と述べ、この試練

を通して教育への信念を確固たるものとしたのです。母校、成蹊学園では、この日は中村先生が教育に対する不退転の決意をされた日であり、建学の理念を継承するに最も相応しい日として「建学の日」と決めました。

## ◎「建学の日」関連の催し

3月23日の建学の日には、本館講堂で教職員・在校生・卒業生が集まり、凝念を行い、心力歌を唱え、また吉祥寺を中心とした地域清掃活動も併せて行っています。また3月～4月にかけては、学園史料館において建学の日にちなんだ特別展示を開催し、さらに大学卒業10周年の卒業生をホームカミングとして招いて同窓会を行うなど、成蹊建学の精神の発揚を図る催しの充実を図っています。

## ◎建学の日「私の成蹊」エッセイ募集について

本年度の建学の日（平成20年3月23日）に向け、学園では「私の成蹊」と題したエッセイの募集をしています。（募集期間平成19年4月23日（月）～10月31日（水））

卒業生も募集対象として応募を受け付けておりますので、ご投稿をお願いいたします。

エッセイのテーマ	「私の成蹊」 中村春二先生に関する事、成蹊教育に関する事、成蹊での思い出などあなたらしいエッセイを募集します。
募集対象	成蹊中学・高等学校生徒、成蹊大学生・大学院生、教職員、成蹊卒業生、桃友会員
募集期間	平成19年4月23日（月）～10月31日（水） 17:00 ※郵便消印有効、メールでの応募も可能
応募について	必要事項をご明記の上、電子メール添付または郵送にて下記までご応募ください。 ・電子メールでの応募：ワード入力「原稿用紙」ウィザードのA4版 400字詰め（2,000文字以内） ・郵送での応募：「原稿用紙」B4版400字詰め（2,000文字以内）
必要事項	成蹊会会員番号・氏名
応募あて先	soumu@jim.seikei.ac.jp 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 成蹊学園総務部総務課 (中学・高等学校生徒は手書きの場合のみ中・高事務室にご提出ください。)
エッセイ優秀作品の選考	応募頂いた作品は選考委員会により選考し優秀作品は表彰しホームページ上に公開いたします。
「建学の日」当日の優秀作品発表	日時：2008年3月23日（日） 場所：大学4号館ホール 時間：13:30～16:00

## 安倍首相も学んだ 吉祥寺の成蹊学園。

新しく首相となった安倍晋三氏が小学校から大学まで過ごした学舎として、海外メディアからも取材が相次ぐなど注目を集める「成蹊学園」。吉祥寺駅から徒歩十五分、学園の象徴ともいえるケヤキ並木は、中央線の車窓からも認めることができる。

学園の創設者である中村春二は、一八七七年、宮内省御歌所寄人も務めた歌人・国文学者を父に東京神田に生まれた。東京帝国大学在学中に教育に目覚めた彼は、一九〇六年、本郷西片町

に私塾を開く。翌年、名を「成蹊園」と改めたこの塾が、学園の前身となる。

学園の歩みを語る上で欠かせない存在が、春二の高等師範学校付属学校尋常中学校での同窓生で、生涯の友だった二人の実業家、岩崎小彌太と今村繁三である。三菱二代目社長・彌之助の長男として生まれ、三菱の四代目総帥となった小彌太、今村銀行の頭取を務めた繁三とも、春二の教育理念に賛同し、終生援助を惜しまなかった。二人の賛助を得て、一九二二年、春

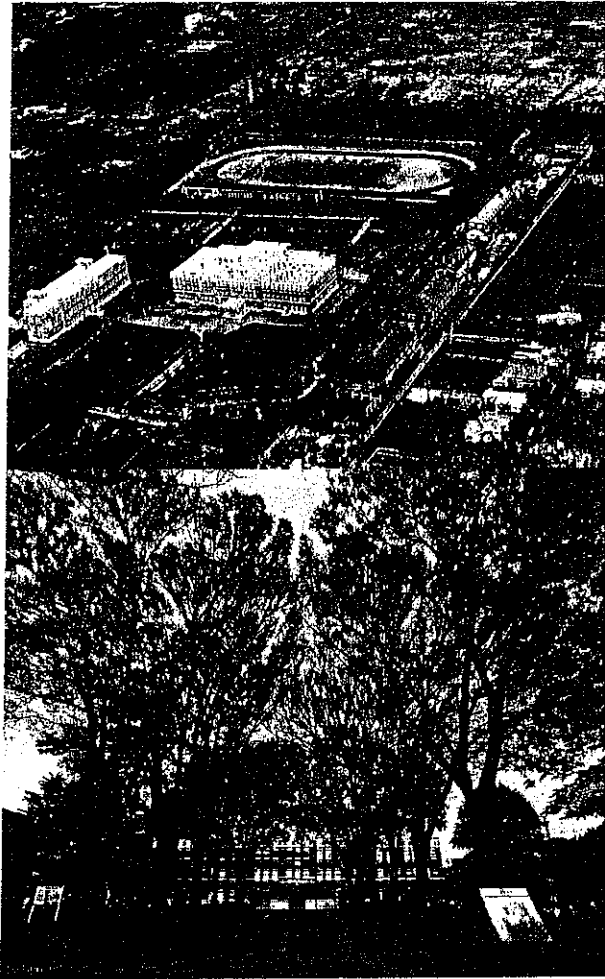
二は池袋に「成蹊実務学校」を創立。池袋駅西口、現在のホテル・メトロポリタン付近にはその後、中学校、小学校、実業専門学校が相次いで開かれ、手狭となったことから、一九二四年三月、前月の春二の早すぎる死を乗り越え、学園は八万坪の敷地の吉祥寺の地へと移転する。生徒数だけで当時の武蔵野村の人口の約一割に相当、父兄の中には通学の便を考え一家で学園近くに引っ越す者もあったという。移転にあたり、今も現役で使われている鉄筋コンクリート造・レンガ張りの本館や、アメリカ・トラスコン社より輸入の鋼材が使用されたことから、トラスコンの愛称で親しまれた体育館（現在はカフェテリア）などが建てられた。

正門から本館へと続くケヤキ並木や、学園東側の桜並木等の樹木が植えられたのもこのときで、緑の多いキャンパスの中、ひととき高く鬱蒼と生い茂った様が、二〇一二年に創立百周年を迎える学園の歴史を今にしのばせる。戦後は新学制に基づく六・三・三制となり、一九四九年には大学が誕生。大正期からあった高等女学校も加わり現在に至る。

「個性を持った自立的な人間の創造」を目指した春二の教育理念は、独自の瞑想法、凝念、や、修養の手段として日々唱える、心力歌、などに今も残されている。ちなみに「成蹊」の名は、「史記」の一節、「桃李の言はざれども、下おのづから蹊を成す」――「桃や李はものを言うわけではないが、花や実に自然と人が集まり、そこに蹊ができる。すなわち、徳のある人には、その徳を慕い自然と人が集まってくる――から採られている。

成蹊時代の同級生との交流ぶりが週刊誌などで報じられる安倍氏だが、今年の四月初め、毎年恒例の「成蹊桜祭」に顔を見せた。満開の桜の下、小学生の子供たちをはじめ、大勢の人々に取り囲まれ、握手を求められるなど大変な人気だったが、そのとき彼の顔には、政治の場ではついぞ見せることのないような笑顔が浮かんでいたという。

(藤本真由)



上・1929年頃。本館および、旧体育施設。まだ周囲は野原だ。  
下・現在の本館とケヤキ並木

藤本真由氏 (高・平2年)

東京人 DECEMBER 2006より

成蹊中学・高等学校

朝日新聞

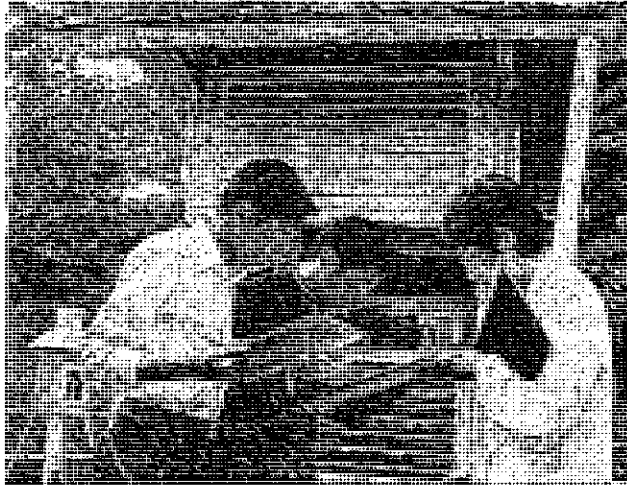
2006年(平成18年)11月30日付より

## 成蹊中・高の観測所

# 気象読み取り80年

### 教員に生徒も手助け

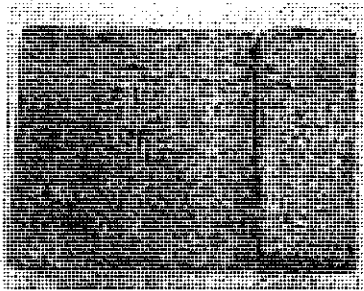
1926年から教員らが1日も欠かさず気象観測を続けてきた成蹊中・高等学校の観測所(武蔵野市)が、80周年を迎えた。戦後、中断していた生徒による観測も、復活して10年になった。まとめられた「80年観測」からは、気温が上がったが、富士山の見える日数は増えたことなど、武蔵野の気象の移り変わりが読み取れる。



武蔵野市の観測所(左)で記録をとり続ける松山さん(右)と、加藤先生(中)が観測所を覗き込む様子

## 武蔵野の1日も欠かさず

夏休みも正月も、戦時中も、天候、気温、気圧などを加藤先生と生徒らが記録した。むら半紙に鉛筆書きされた「野帳」(フィールドノート)には、終戦の日の最高気温が31.9度だった、との記録が残った。



戦後、昭和30年ごろから生徒による記録は途絶えたが、教員らによって観測が続けられた。現在の地学部の山下敦教諭(46)と実験助手の松山由香さん(20)が、交代で毎朝、時前後に観測。屋根みでは中学1年生を指導して商業種の温度計などから記録を取っている。コンピュータはあり、80年の歴史データを開きあわせれば、さまざまなグラフが描き出せる。松山さんは、仕事が忙しくても朝6時に起きて生活リズムを崩さないようにしているという。

中断せず続行

観測には、新しいデジタル機器と昔ながらのアナログ機器を併用している。富士山や東京タワー、筑波山などが校舎の屋上から自撮りできる。冬場に張った氷の厚さなど、「人間ならではの」観測記録も積み重ねられている。

調査にも貢献

日々、淡々と記録しているデータは、風や気温なども使われている。数年前、「盗罪事件を担当している」という弁護士がやってきた。武蔵野市近くで起きた事件に関連して「雨が降っていた」という被告人の供述を確かめるためだった。逆に、事件の捜査で刑事が訪れることもある。

気温1.4度上昇

「下水道管の直径を決める参考にするので、集中豪雨の記録を知りたい」と、役所の担当者の訪問を受けることもあった。「観測結果が社会の役に立っている」と山下教諭は話す。

意外なのは、東京タワーが見えた日数。1996年3年には41日だったのが、昨年は20日となった。自動車や工場の排ガス規制が進んだほか、ヒートアイランド現象の影響で温度が下がっていることも背景にある。単純には喜べないという。

80年間の記録はCD-ROMにして提供している。問い合わせは成蹊学園広報課(042222・37・3007)まで。



成蹊大学

## 進路考える 修学旅行

### 訪問先に企業・団体・大学 増える

きょうい  
@  
東京

今年3日に訪れたのは高知県立中村高の2年生38人。教員など教育関係の進路を自指すグループだ。宮崎勇太さん(17)

途上国へ関心 国際協力機構(JICA)がこの4月、発展途上国の人々への連帯感をはぐくむ場として設けた「JICA地球ひろば」(渋谷区広尾4丁目)。その展示スペースに、制服姿の中高生が目立つ。やせ細った子どもの写真に目を奪われたり、鮮やかな民族衣装に袖を通したり。

東京への修学旅行の訪問先として、浅草寺や東京タワー、お台場などの名所に加え、企業や団体、大学を選ぶケースが中学、高校とも増えている。関心のある仕事や進路先に触れることで、将来の進路を考えるのがねらいだ。  
(片山健志)

世界紛争マップ(手前)に見入る修学旅行生たち。渋谷区広尾の「JICA地球ひろば」で



は、青年海外協力隊員としてバヌアツで小学校教員を務めた池上志歩さんの体験談に耳を傾けた。40冊の教科書を全校の500人で大事に使う話に、「行きたくなった」と感動した様子だ。「僕

の幸せは柔道部の試合で勝った時とか、おいしいものを食べた時とか。平和過ぎて申し訳ない」JICA地球ひろばによると、修学旅行は「ひよると、開設前から受け入るは」開設前から受け入れ、年々増えているとい

う。今年度の訪問客約1万2400人のうち、団体の約4300人の大半が修学旅行生だ。生徒自らが申し込みの電話をかけてきて、「途上国の病気のことを知りたい」と具体的に要望するケースもある。「国際協力を進路の一つとして真剣に考えてくれている」と池上さんは言う。

### 行き先50カ所

進路を考える修学旅行では、生徒の関心にしたがって訪問先が多岐に分かれる。中村高ではこの翌日、さらに小さな356人の班に分かれて回った。行き先は、大手レコード会社のエイベックス・グループ・ホールディングスに化粧品メーカーのコーセー、気象庁、警視庁、早稲田大……。計約50カ所に上った。ケヤキ並木で知られ、最近では安倍首相の出身校として注目される成蹊大(武蔵野市)に、修学旅行生が訪れるようになったのは十数年前から。キャンパスを見て回った後、最近の入試の傾向を質問する。質疑後に担当者のおそばに来て模試の結果を伝え、「大丈夫でしょうか」と心配そうに聞く高校生もいる。昨年度、見学を受け入れた地方の高校は約20校。うち修学旅行は5校ほどで、それ以外は近県からの大学見学とみられるという。ただ「数字に表れるのはバスで先生が引率してくる大口だけ。少人数のグループはもつと来ている」と伊藤昌弘・成蹊学園広報課長。「大学としても、ここに入りたいという学生がほしい。しっかり見てイメージをつかんでもらいたい」と修学旅行生の訪問を歓迎している。

朝日新聞 2006年(平成18年)10月20日付より

榎原 稔氏 (旧高・25年)

## 私の苦笑い

三菱商事相談役  
榎原 稔氏



まきはら・みのる 1954年米ハーバード大政治学部卒、56年三菱商事入社。92年社長、98年会長、2004年から相談役。

ストレートな言動、異質性失わず

失敗訓 ロンドン生まれで高校・大学と米国へ留学。榎原さんのストレートな言動は騒動は異質のトップに対する社内の戸惑いを示す象徴的な出来事だった。「エイリアン」のあだ名は本人には本意なかったようだが、挫折にひるまず、たまたま異質性を失わなかった。その異質性を失った人あから処理や総屋との決別、カンパニー制導入など早くも改革が実現した。しかも一社より5年以上早くこの伏線は勝つ。昨今の三菱商事はこれら勝つ。 (編集委員 安西巧)

### 英語の社内公用語化が挫折

## それでもひるまず改革

社長就任後に「社内公用語を英語に」という方針を打ち出した。真のグローバルカンパニーになるには必要なことだと考えたからだ。海外支店などの外国人スタッフを交えた会議をいちいち日本語でやっているのは、彼らから積極的な意見が出るわけではない。「なぜ英語なのか」という疑問に対しては「ちゃんと回答を用意していた。それ

は、ビジネスに最も向いている言葉ということだ。私が三十代半ばのころ、水産関係の商談で旧南イエメンの首都アデンに出張し、そこでベトナムとフランスの財閥の経営者と親しくなった。母国のフランス語はもちろん、英語、アラビア語、中国語に堪能な人だ。そのベッセ氏に「仕事で重要な決断をするときにあなたは何語で考えるのか」と尋ねたことがある。

「もちろん英語だよ」というのが彼の答え。「適度な言語で、契約書を仏文にすると細部の文言にこだわってなかなかまとまらない」という。日本語は文学的に優れた言葉だが、フランス語は緻密(ちみつ)な言語で、契約書を仏文にすると細部の文言にこだわってなかなかまとまらないという。日本語は文学的に優れた言葉だが、フランス語は緻密(ちみつ)な言語で、契約書を仏文にすると細部の文言にこだわってなかなかまとまらないという。日本語は文学的に優れた言葉だが、フランス語は緻密(ちみつ)な言語で、契約書を仏文にすると細部の文言にこだわってなかなかまとまらないという。

ス語とは逆にあいまいで交渉が陰謀(あいろ)に迷い込むこともない。外圍暮らしが長い私自身が慣れ親しんだ言葉だから、といふ緩めたりすることはない。不平不満があってもやるべきときにはやってみるべきときにはやってみる。そうした社内でのやりとりや結束力に対する信頼は揺るがなかった。同じころ、巨額の含み損を抱えた特金・ファントラの処理問題に直面していた。社長就任初年度の一九九三年三月初めに六百六十億円の特別損失を計上したが、正直言って、社内から注文や不協和音が出てくるのではと気にしていた。担当には「市況が回復すれば損失を挽回(ばんかい)できるの」との不満があったが、それ以外の人は先着OBも含めて「社長の方針を支持する」と言っていた。結束力を信じればこそ決断できた。時代は移り変わり、最近海外支店などに行くと会議を英語でやっている。一番遅れているのは東京の本社じゃないかな。中国やインドの企業との競争に負けないかと、それがやや気掛かりではある。(談)

日本経済新聞 2006年(平成18年) 11月20日付より

危機を乗り越える 佐々淳行さんに聞く

危機は突然起る。そしてチャンスがどんどん進行してしまふ。逃げることはできない

「経営のリスク管理は、やがて損失を減らし利幅を大きくする」といふ話。うまくいかなければ中止することもできる。でも危機管理はやめられないんです。ここが経営リスク管理と決定的に違う」

「地震や火事、ハイジャック事件、テロ。放置すれば死傷者や延焼、がけ崩れなど被害は容赦なく拡大する。『早急に取り組んで損失を少しでも防がねばなりません。可処分時間が限られてい

るのに、危機はその都度異なり、前例はあまり役に立たない。指揮官が一人で難題に挑み、決断し対応するしかない」



1930年東京生まれ。54年東大卒、警察庁を内閣安全保障室長に就任。連合赤軍あさま山荘事件などで豊富な実践を積み「危機管理」という用語を作った。「危機管理の施設庁長官を歴任。86年初代の

心の動揺、顔に出すな

「指揮官（親）が悲観的にならたら部下（子供）は動揺します。人間に運、不運はつきもの。忘れてならないのは不運のときに沈まないこと」

「得意淡然、失意泰然。勝海舟の言葉です。うまくいったときは淡淡とし、失敗したときは平気だよという顔をす

る。心で動揺しても顔に出してはいけない。皆が指揮官を見ており全軍の士気に影響します。表情の統制もリーダー

の大事な修業。残念ながら多くの人が「得意満面、失意憔悴」です。失敗してしよんば

りしてはリーターは務まりません。自ら指揮官を務めた佐々さん、リーダーの心得については厳しい。

「社長から営業所長までトップは平時は部下にまかせていていい。でも有事となった自分を率先して一番嫌なことをやらなければならぬ。欠陥商品や不祥事が発生したとき、『オレはいい』と言った子供には『誰かに悪いね』でも君はいつも字がきれいだったねえ。オレは小中学生のころ、こんな字は書けなかったな』と、解決策を示す。それがマ

イナスを最小化する場業業が

あり続けることはない。『あなた、そんなはずはないですよ』と言いたいですね」

「ミスをしたがトップにいらまれたりして降格や左遷をされること、周囲が関係者を引き連れて孤独になる。親しい同僚や友達も思っていた人もいなくなる。でも少数の人が近くに残って心配し、何かと支援してくれる。その人々が本気の友達です」

「佐々さんはベトナム戦争下の一九六八年にサイゴン（現ホーチミン）に出張中、ベトナム（南ベトナム解放民族戦線）のテロ攻撃で日本大使館に閉じ込められた。いつ武装勢力が大使館に突入して来るかわからない。沈む夕日を眺めて「明日の日は見られるだろう」と思いつづいてる。二十四日間、米軍の攻撃で苦境を脱した。『苦しいけど必ず転機は来ると楽観的に構えることだ』」（編集委員 井本信吉）

苦しいときこそ楽観的に

楽観的に準備して悲観的に対処するのが最悪

準備を怠った者に限って危機にさらされるともいうためだ。とすべからぬが、だが、有事でこそ楽観的発想が不可欠だ。とすべからぬが、だが、有事でこそ楽観的発想が不可欠だ。とすべからぬが、

「コップの水が半分になった場合に例える。平時はもう半分しかない」と悲観的発想の。『さあ、有事では』

「『が起るんです。心に地獄を焼きもしくして……』と最悪の事態を予想して準備した者のみが被害を最小限に抑えることが出来る」

必要があるという。『まずは家屋から始まり、地盤が起つたり、家の長は速やかに家族を避難させなければなりません。危機に前例はない。これも痛えは必要です。家族全員の水食糧、医薬品、日用品を常備用とする。』

「避難場所を〇〇公園と漠然と決めていてはダメです。現場は被災者でいっぱい。たまたま「とを奪え」「公園の噴水の脇」などと取り込み、日ごろから家族に徹底させる。家族がはぐれぬようにも想定し、その場合

佐々淳行氏（旧高・25年）

日本経済新聞 夕刊 2007年（平成19年）3月15日付より

伊藤 滋氏 (旧高・24年)

## 景観を再生

### 伊藤滋さんに聞く

損なわれた景観 私たちにも責任がある

冬の装いの東京・代々木公園を見下ろしながら、伊藤さんはうれしそうに話した。「私が少年時代に住んでいた東京の千野、杉並の話を聞いた田中の先生の物語『が、ある書評誌で若者向けに推薦したい本として紹介されたのだよ。』」



いとう・しげる 1931年東京慶応大教授を経て現在、早稲田大特命教授。日本都市計画協会会長などを務める。父は作家伊藤整。著書に『提言・都市創造』『市民参加の都市計画』など。

# 都市も農村も待ったなし

欧米を旅行し、歴史の蓄積ある街の景観に感服した人々が帰国後、すぐに感じるのが日本のおまわりにも複雑な街並み。「しかし、せっかくなので欧米での教訓や感動が少しも生かされることなく、美しくない街へへりへり身を委ねてきた」。こうした景観破壊の現実に向き合ったのは2004年12月の景観法が、景観三法」の施行だった。

「もはや景観破壊に黙ってはいられない」と、照明デザイナーの石井幹子さんと十二人で「美しい景観を創る会」

景観法は「国土の美しさを保ち、景観を創る」という趣旨で制定された。景観法は「国土の美しさを保ち、景観を創る」という趣旨で制定された。景観法は「国土の美しさを保ち、景観を創る」という趣旨で制定された。

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

## 美しい地域こそ誇り

「オランダの都市では、街の景観を損なうような建物があっても、その撤去について地域で話し合いながら、行政が買い上げて広場などにしている。こうした手法を学んでほしいと思います。」

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

「景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。景観法は行政の指導力と市民の自覚が大切だ。」

日本経済新聞夕刊 2007年(平成19年) 1月4日付より



## 生老病死の旅

● 吉田 敦彦さん

よしだ・あつひ 神話学者・学習院大学名誉教授  
1934年、東京生まれ。東京大大学院修士課程修了後、フランス政府給費留学生として盛岡、フランス国立科学研究所研究員を経て、成蹊大学、学習院大学教授を歴任。著書に『ギリシア神話入門』『日本の神話』『鬼と悪魔の神話学』など。

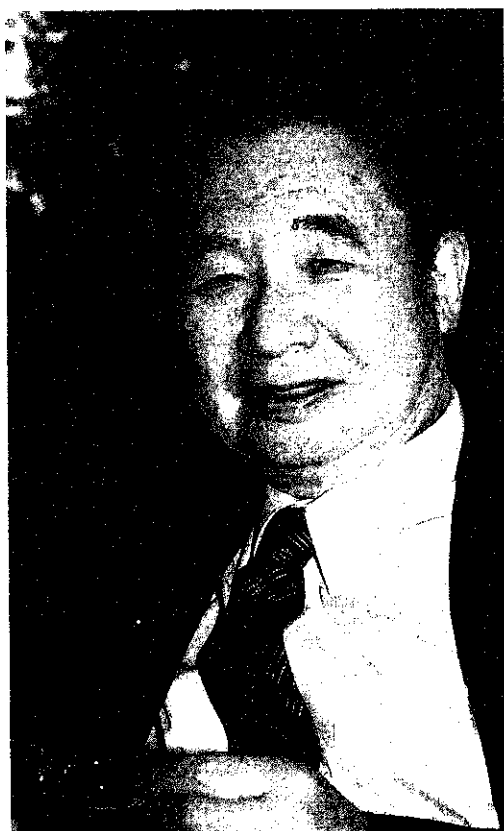
聞き手・時田英之

人にはそれぞれ持って生まれた本分がある、というのが神話などに現れるギリシア的な考え方です。その本分を「ピュシス」と言います。今でいうアイデンティティですね。人間は必ず死ぬ。でもその条件の中で、何とか自分のピュシスを表現しようとするところに人を差のする人たらしめる本来の生き方がある。

例えばホメロスの叙事詩の主人公、オデュッセウスは、遍歴中に美しい女神、カリプソに足止めされ、「夫になれば不老不死にしてやる」と言われる。でも彼は拒む。なぜなら「故郷イタカの王女、貞淑な妻ペネロペの夫」というのが彼のアイデンティティ。それを失って不老不死になっても仕方ないからさ。この考えは心を打たれた。僕はまた子供で、幼稚園児のころから死ぬことが怖かった。でも今はいい死んでもいい。そう思うのは、僕が神話研究で自らのピュシスを見いだしてしまっただけで、その本分を全うしてきただけなんだ。

「死」といえば、僕の恩師の新約聖書学者、前田謙郎先生の「くぐりながら強く印象に残っています。「風邪気味だから」と早めに床に入られた先生は、夜遅く奥様が様子を覗に行かれたと、目を睨みながら「あなたの足音で目が覚めたんじゃないから」と優しくおっしゃったんですよ。その翌朝、先生は苦しまれた様子もなく本堂で安らかに「くぐりながら」逝かれた。最近病

## 「神話」に見る人間の原点



「人生の瞬間瞬間を自分にとって意味ある時にすることこそ大事なのです」（東京・吉祥寺の事務場で）＝時田英之撮影

院で人道的に命を引き延ばされた末に死ぬ人も多い。でも前田先生のように、なすべきことをなしく、休むべき時が来たら自然に死んでいくのが理想的な人生の暮らしかた、と風吹ひのす。

ピュシスという言葉を引きましたが、僕が神話研究を自分の本分としてこれまで続けてくることができた背景には、いろいろなお助けがありました。僕は西洋古典学を志して東京の大学院に行ったのですが、そこで神話研究を勧めたのが、先づ神話に出た前田先生。小学生のころから神話が好きで、インド、パルマ、ギリシャ、片っ端から読んできたはずなのに、初めて「神話が学問の対象になる」と

教えられた。それからフランス留学中、神話学の権威であるジョルジュ・デュメシルという大先生がいると知り、いきなりパリに行ってお宅に電話したら「どうも来い」と言われた。そこで単入りを許されたが、あとで聞けば先生は弟子をほとんど取らない。見知りすの日本人をなせ弟子にしたか、今もわからない。

最初に話したように、神話にはいかに生き、死ぬべきかという問題と密接に関係しています。言い換えるれば、人間は神話がないと生きられない存在なのです。なぜなら、あらゆる生物が本能の通り生きていく中で、人間だけが導く。なぜ自分たちは何と生き方を

するのか、納得できない文化は保てない。大部分の人はそう意識してないけれど、そこで人々を納得させるのが実は神話なのです。例えば日本神話。素戔嗚尊は高天原で願いをして追い出されますが、妹は嫁にされた。そのあと、草薙剣を天照大神に献上するほど大きな働きをする。排除しなかったから素戔嗚尊の価値が生きたのです。日本社会も同じで、役に立たないと思える人がいても、排除しない何とかなその人の価値を生かす。これがその世界を考える時、敵とも共存し、自然と共生していく日本神話の知恵から我々は多くを学べるので、よくと善とてい

### 「競争主義」考えるカギにも

「帰国したころ、『日本神話は天皇支配を正当化するイデオロギーだから神話ではない』という、ある大家の発言を聞

いてあきれた。神話はそんな単純なものじゃない」。その言葉通り、一時期までとかく不毛な議論に陥りがちだった日本神話論に一石を投じたのが吉田さん。発言の端々には「生きる知恵を与えてくれ

る神話への愛」が感じられた。そしてこの知恵はおそらく今も有効だ。例えば日本で進む「競争主義」の是非を考える時、吉田さんの言葉には多くの学ぶべきものがあるに違いない。

吉田敦彦氏（政経・32年）

読者新聞 夕刊 2006年（平成18年）11月21日付より

石田 穰一氏(旧高・22年)

## 法服を脱ぎ南の島へ ①

ヒヒキエマ

ゆたか はじめさん



石田 穰一氏(旧高・22年) 法服を脱ぎ南の島へ ①

ヒヒスクラシフル

### 人間見聞

#### 法律がケンカの道具に 寂しさを感じる

と、いふのも過言ではない。法律はケンカの道具に、寂しさを感じる。法律はケンカの道具に、寂しさを感じる。法律はケンカの道具に、寂しさを感じる。

#### 東京高裁長官で退官 法曹界と縁切り沖縄に移住

東京高裁長官で退官 法曹界と縁切り沖縄に移住。東京高裁長官で退官 法曹界と縁切り沖縄に移住。東京高裁長官で退官 法曹界と縁切り沖縄に移住。



父は法律家になった。母は主婦になった。子供は法律家になった。父は法律家になった。母は主婦になった。子供は法律家になった。

## 法服を脱ぎ南の島へ ②

ヒヒキエマ

ゆたか はじめさん

### 人間見聞

裁判官の家で、お茶を飲んでいた。お茶を飲んでいた。お茶を飲んでいた。お茶を飲んでいた。お茶を飲んでいた。

#### ■気が弱くいじめられていた幼少時代

気が弱くいじめられていた幼少時代。気が弱くいじめられていた幼少時代。気が弱くいじめられていた幼少時代。

#### ■長崎で家族が被爆 戦後、「平和」の言葉に感動

長崎で家族が被爆 戦後、「平和」の言葉に感動。長崎で家族が被爆 戦後、「平和」の言葉に感動。長崎で家族が被爆 戦後、「平和」の言葉に感動。

日本経済新聞夕刊 2006年(平成18年) 12月24日/25日付より

ヒヤヒヤ

ゆたか はじめさん



石田穰一氏(旧高・22年)

法服を脱ぎ南の島へ

半、法服を脱ぎ南の島へ... 石田穰一氏は、法服を脱ぎ南の島へ移住した。...

2度目の司法試験で合格 型破りの弁護士と出会う

2度目の司法試験で合格... 型破りの弁護士と出会う。石田穰一氏は、2度目の司法試験で合格し、型破りの弁護士と出会う。...



地裁裁判長時代に南大東島へ 大きな感銘を受ける

地裁裁判長時代に南大東島へ... 大きな感銘を受ける。石田穰一氏は、地裁裁判長時代に南大東島へ移住し、大きな感銘を受けた。...

ヒヤヒヤ

ゆたか はじめさん



石田穰一氏(旧高・22年)

法服を脱ぎ南の島へ

法服を脱ぎ南の島へ... 石田穰一氏は、法服を脱ぎ南の島へ移住した。...

国鉄全線2万1000\* 完全乗車 那覇に赴任、肌で知った沖縄

国鉄全線2万1000\* 完全乗車... 那覇に赴任、肌で知った沖縄。石田穰一氏は、国鉄全線2万1000\*を完全乗車し、那覇に赴任し、肌で知った沖縄。...



東京に戻り法廷の演出意欲 率直に喜怒哀楽を表す

東京に戻り法廷の演出意欲... 率直に喜怒哀楽を表す。石田穰一氏は、東京に戻り法廷の演出意欲を示し、率直に喜怒哀楽を表す。...

石田穰一氏(旧高・22年)

日本経済新聞夕刊 2006年(平成18年) 12月26日/27日付より





天坊昭彦氏(高・33年)

同族経営に新風

出光興産社長 天坊 昭彦さん



創業者 出光佐三の遺志、出光イズムに引継ぎ、大企業主義が今、くみあせし、ですが、も色濃く残る出光興産、三洋電機、パロマ、不二家など、同族経営の企業がこの、法政部へ入学して、この相次ぎ、中々、昨年十月に東京証券取引所に上場を果たし、同族経営の新たな展開を示した。新風を吹き込んだのは出光興産自身、手付きでいた、佐三の遺志、天坊昭彦(57)だ。

人間見聞

運命のいたずら 「自由で変わった会社」に入社

かつて日本興業銀行(現みずほコーポレート銀行)の「落ちてくても恥ずかしくないだろう」という理由で試験を受けました。面接も数回パスして、人事部長面接というところまでいきました。ところが、その面接の日、約束の時間に行っていないと、人事部長の都合が感々となり、数時間待たされたことになりました。

出光イズムに得心 神格化の動きには反発も

採用で余った出光社員、あつた入社前に一度、店主に会ってみようと思っていた。何の約束もないまま会社を訪問した。不在で受話機で話した叔父は「確かに変わった会社だが、案外おまえにあっていなくてもいいから、出光はそんなことを許さないうえを保持した。それで入社が決まりました。出光について何も知らないわけではなかった。大学のゼミ論文が「民族系石油会社の投資行動」。借入金依存の民族系石油会社の体質は理解していた。偏見が、当時から「文を」として出光を客観的に眺めていた。入社前に会社から店主に謝する本がどつき送られてきました。私は出光イズムについては白紙状態でした。冷静に読みました。これが本当に自分の心をついた。かたがと、願をこめて

同族経営に新風

出光興産社長 天坊 昭彦さん



出光に入社したのは一九六四年。日本は池田内閣が掲げた「所得倍増」計画のもと、高度成長路線をひた走り、石油産業は伸び盛りの時期を迎えていた。六五年から七〇年の五年間にガソリン消費が二倍増えたほどだった。入社後は福岡に駐在しました。最初は出光重油のガソリンスタンド勤務です。車が入ったコンクリートの床面を、ペンで塗り替えて、なかの車庫で、地元採用の店員の人たちとスタンドを回ると、出光について何も知らないわけではなかった。大学のゼミ論文が「民族系石油会社の投資行動」。借入金依存の民族系石油会社の体質は理解していた。偏見が、当時から「文を」として出光を客観的に眺めていた。入社前に会社から店主に謝する本がどつき送られてきました。私は出光イズムについては白紙状態でした。冷静に読みました。これが本当に自分の心をついた。かたがと、願をこめて

人間見聞

型破りなコスト削減案 採用されて仕事に夢中

出光興産に入社したのは一九六四年。日本は池田内閣が掲げた「所得倍増」計画のもと、高度成長路線をひた走り、石油産業は伸び盛りの時期を迎えていた。六五年から七〇年の五年間にガソリン消費が二倍増えたほどだった。入社後は福岡に駐在しました。最初は出光重油のガソリンスタンド勤務です。車が入ったコンクリートの床面を、ペンで塗り替えて、なかの車庫で、地元採用の店員の人たちとスタンドを回ると、出光について何も知らないわけではなかった。大学のゼミ論文が「民族系石油会社の投資行動」。借入金依存の民族系石油会社の体質は理解していた。偏見が、当時から「文を」として出光を客観的に眺めていた。入社前に会社から店主に謝する本がどつき送られてきました。私は出光イズムについては白紙状態でした。冷静に読みました。これが本当に自分の心をついた。かたがと、願をこめて

トップの心得、知らず知らずのうちに学ぶ

出光興産に入社したのは一九六四年。日本は池田内閣が掲げた「所得倍増」計画のもと、高度成長路線をひた走り、石油産業は伸び盛りの時期を迎えていた。六五年から七〇年の五年間にガソリン消費が二倍増えたほどだった。入社後は福岡に駐在しました。最初は出光重油のガソリンスタンド勤務です。車が入ったコンクリートの床面を、ペンで塗り替えて、なかの車庫で、地元採用の店員の人たちとスタンドを回ると、出光について何も知らないわけではなかった。大学のゼミ論文が「民族系石油会社の投資行動」。借入金依存の民族系石油会社の体質は理解していた。偏見が、当時から「文を」として出光を客観的に眺めていた。入社前に会社から店主に謝する本がどつき送られてきました。私は出光イズムについては白紙状態でした。冷静に読みました。これが本当に自分の心をついた。かたがと、願をこめて

日本経済新聞 2007年(平成19年) 2月19日/20日付より



天坊昭彦氏(高・33年)

日本経済新聞 2007年(平成19年)2月23日付より



▲(Copyright © 2007 by Akira Terada)

## 同族経営に新風

出光興産社長  
天坊 昭彦さん

東証一部で立て続けに買収花が起き、入札の競争が激化する。ロイヤリティの世界の情勢変化を前にして、出光興産は社内の動きを一新し、同族経営に新風を吹かせた。一九九六年六月に編成した「日本出光興産」が、出光興産の経営を担うことになった。出光興産は、社内に「出光興産」の組織を一新し、同族経営に新風を吹かせた。一九九六年六月に編成した「日本出光興産」が、出光興産の経営を担うことになった。出光興産は、社内に「出光興産」の組織を一新し、同族経営に新風を吹かせた。

### ■パブルに浮かれた2兆円投資計画 半分以下に圧縮

出光興産は、東証一部で立て続けに買収花が起き、入札の競争が激化する。ロイヤリティの世界の情勢変化を前にして、出光興産は社内の動きを一新し、同族経営に新風を吹かせた。一九九六年六月に編成した「日本出光興産」が、出光興産の経営を担うことになった。出光興産は、社内に「出光興産」の組織を一新し、同族経営に新風を吹かせた。

### ■社内の反対論抑え、東証一部上場を実現

出光興産は、東証一部で立て続けに買収花が起き、入札の競争が激化する。ロイヤリティの世界の情勢変化を前にして、出光興産は社内の動きを一新し、同族経営に新風を吹かせた。一九九六年六月に編成した「日本出光興産」が、出光興産の経営を担うことになった。出光興産は、社内に「出光興産」の組織を一新し、同族経営に新風を吹かせた。



があり、その先は慎重もします。重く決断責任があるのです。

次回は築地魚市場社長の鈴木敏一さん

長江洋一氏(工・50年)

建設工業新聞 2007年(平成19年)2月19日付より



(ながえ・よいち) 77年成蹊大工学部機械工学科修士課程修了、ホンダ入社。87年Seagate Technology、89年Conner Peripherals、92年六興電気に入社し、00年社長、03年取締役兼代表執行役社長。54歳。

### 落雷予測の研究で工学博士号取得

工学博士号の取得を目標し、本格的な研究を始めてから足かけ8年。3月16日、東京都内で開かれた芝浦工業大学の学位授与式に出席し、学位の重みをかみしめた。

六興電気社長  
長江 洋一氏

生位置の予測が難しい落雷だが、過去の状況も参照して新しい予測方法「平面パターン比較法」を独自に開発し、この原理を利用して落雷位置予測プログラムを開発に成功した。1949年に創業した電気設備工事会社の社長

### 会社・業界の地位向上へ決意

を務める傍らで、落雷研究を進めるための時間づくりに苦心する日々が続いた。建設業界は変革のとき。官公庁から民間へと社業の中心を大きく転換させる時期とも重なった。博士号の取得に必要となる学会への投稿論文をなかなかまとめられなかった。

# 退職挨拶

経済学部 高木新太郎

1972年4月に経済学部へ着任して以来、35年間お世話になりました。様々な事があつた中で感慨深いのは、学部改革の運営と評価です。

経済学部では2004年度に、創設以来の2学科制を廃し5コース制に改革しました。キャッチ・フレーズは「自立した職業人」の育成で、教育に対する供給（教師側）より需要（学生側）の視点を積極的に受け入れるというものです（詳細は別の機会に譲ります）。

改革に対する評価や結果は様々で、例えば偏差値が上昇し早・慶・上智に次ぐランクとなりました。他大学からは「コース制の成功の状況を知りたい」と訪問を受けました。他方、学園評議員会等では「応用発展演習」の選択制の是非について議論しました（学生と教師のミスマッチ対策として選択制にしましたが、学生の参加率は現在9割超）。

今後も改革は続きますが、情報の整理や把握、必要なものを見極め等を大切に、成蹊学園の更なる発展を願って

います。35年間、本当にお世話になり、ありがとうございます。

## 星霜移り人は去り

経済学部 渡辺健一

「星霜移り人は去り」、この年になってようやく実感している。単に私がよく知らないためかもしれないが、ある先生の退職後位から、少なくともわが学部には教育者タイプの人がほぼ皆無となったように思われる。むしろ教育者のタイプそのものが変化しているとも考えられるが。この先生は遅刻する学生の入室を許さないといった潔癖さと共に、学生によく著つたりもした。

思想史が専門のためか、昭和天皇の戦争責任や、大家といわれる人の業績の正当性を論難していた。しかし家政婦を雇うなど生活の維持のため、貯蓄などないという話を聞くと、伝え聞く戦前の大学教授の面影を見る思いがした。独身でもなく、また今時の大学教授の給料でお手伝いさんを雇うとは、社会的地位・体面を意識しているためなのか、率直に言って理解し難かつたからである。さる人がこの先生を評して、時間が止まっている、と書いていたが、単に奥さんが病身だったのかもしれない

い。しかし信念と一種気迫といったものを持った人であるためか、私にはそのようなものの無く、どこか魅かれていた。レンタカーを借り引越しを手伝った日々などが時折思い出させる。まだ話したいエピソードもあるのだが、別の機会に譲りたい。

## 新入生との懇親旅行

理工学部 須藤真樹

31年前の昭和51年4月に成蹊大学工学部一般教養に数学担当教員として就職しました。当時、工学部では4月の中旬に学科ごとに新入生と教員で懇親の一泊旅行をすることを行事としてやっていました。着任早々のわたしは電気工学科の新入生と一緒に箱根に旅行しました。教員の参加者はわたしの他に桐沢助教と助手の野垣さんともう一人助手の方がいたように思います。昼は恩賜公園を訪ねたり、駒ヶ岳にケールで登つたりなどの観光をし、夜は芦の湖畔にある成蹊学園の寮に泊まりました。夕食は懇親会を兼ねていて、ご馳走とビールなどが座敷に置かれた机の上に並べられていました。型どりの挨拶と乾杯が済み、雑談しながら料理を食べたりビールを飲んだりして少し経つたころ、余興をするとかで新入生の一人がギターを手に登場し、ギターをかき鳴らしながら、当時はやっていた山本リンダの困つちゃうなの替

え歌の狼歌を朗々と歌い始めました。部屋に響き渡るギターの迫力ある演奏に乗つた困つちゃうなの調子の良いメロディーに身をゆだね、歌詞の狼雑ではあるけれどユーモラスでもある巧妙に並べられた言葉に思わずニヤリとしながら、工学部の学生もなかなかやるなと思えました。

その後5年間この行事に参加しましたが、泊りがけで懇親旅行に行かなくても学内で懇親会をすればいいではないかという先生方が増えてきて、この行事は取りやめになってしまいました。多数の学生と一緒に泊旅行は結構大変だったので中止になったときはほっとしましたが、最近、4月になり新入生が入学してくるころになりますと、大して広くない和室にあぐらをかいてすわり、神妙な面持ちで聴いた、困つちゃうなの替え歌と部屋を揺るがして響きわたっていたギターのとどろきを懐かしく思い出します。

## 停年退職いたします

中学・高校 吉田弘一

他の高校で四年間経験を積んだ後で期待に胸を膨らませて成蹊中学高等学校に勤務しました。高度経済成長の終りの時で、私は二十九歳でした。私が期待した以上の職場でした。多くの生徒に自立心や向上心が見られ活気に満ち溢れていました。体育大会では生徒



と教師のソフトボールやバスケットの試合が必ず組まれていました。それとは別に教員にはサッカーチームがあり、休日などにはユニフォームを着用して対外試合が行われていました。よく汗を流した後は、よく飲んで談笑しました。教員同志の情報交換の場がその様な形で十二分に確保されてきました。中学所属で過した三十歳台は自分でもよく体が動き仕事で幸福な充実感を味わいました。

近年は高校生を相手に過しました。私の時代と異なり、多くの高校生は屈託無い顔で頻りに職員室を訪ねて来ました。

成蹊での三十三年間を多くの方々に支えられて勤め上げることができて幸せでした。これまでの厚情に対して心からお礼申し上げます。

## 子どもと共に歩んだ35年

小学校 石根要二

広島で五年間の公立校に勤務した後、縁あって昭和四十七年の四月、成蹊小学校に着任しました。校舎は新築二年目で教室も広く、すばらしい設計に目を見張りました。その校舎と永く生活を一緒にしましたが、平成十九年三月をもって取り壊されようとしています。振り返ってみますと、成蹊小学校では、十三組の学級を担任し、卒業学級七組、一年生の学級六組のお世話をさ

せていただきました。三十五年間の勤務のうち欠席は、発熱による一日だけで済ませることができました。これは、毎日元氣激刺の子ども達と学び合うことができ、そのエネルギーを貰ったおかげと喜んでいきます。

私は、成蹊小学校の学校生活の中では、「ネツシー」「ネツシー先生」と、ニツクネームで呼ばれることが多かったようです。その命名のいきさつには、当時イギリスのネス湖の恐竜発見のニュースが新聞やテレビで報道されていることに興味を示した子ども達が、「いしね」「ねしい」「ねっしい」「ネツシー」と逆に読んでつけたという説があります。親しくニツクネームで声をかけられ、仲良く、楽しく交流ができた点はよかったと思っています。

また、中村春二先生の成蹊教育から多くのことを学びました。中村春二研究を仲間と一緒にし、自学自修など学習に主体的に取り組む子どもを育てる教育を実践していったつもりです。その中で子どもや保護者や教員仲間にも恵まれ、私自身共に学ぶことが多くあり、ありがたく感謝しています。

職員 池田秀治

私が成蹊学園に就職したのは1968年で、政治経済学部が経済学部と法学部に発展的に改組された年であ

ります。当時は学生運動が各大学で頻発しており、本学でも翌年の1969年に本館二階の学長室等役員室が一時学生に占拠されるという一幕がありました。

また、この年に他大学の活動家が正門前に集結して校内突入を図ろうとしましたが、正門の内側では、本学の学生が大同団結して「帰れ、帰れ」の大合唱で校内突入を阻止するという出来事がありました。このときの光景が今でも強く印象に残り、成蹊は「自分達の学校は自分達で守る」という意識が非常に強い学校だといたく感激したのを覚えております。これも成蹊教育の素晴らしい一面かと思えます。

最近の動向では、少子化にもかかわらず規制緩和による学校・学部の新設・増設がなされる一方で学校の閉鎖、大学間の併合、連携などの話題が多くなっております。こうした状況下においても成蹊学園は、100周年、200周年に向けてこれまでの伝統に、更なる伝統を積み重ねて、益々多くの志願者が集う学校であって欲しいと願っております。

職員 伊藤暉夫

在職中の一番の思い出は、大学が発足してまもない昭和26年に信州の小都市(飯田、天竜峡、諏訪、岡谷)でス

タートした成蹊夏期大学との関わりです。今でこそ生涯学習が叫ばれ、あちこちで市民大学を見かけることができますが、高等教育に触れる機会がほとんどなかった昭和20年代の地方都市での夏期大学は、他大学にもあまり例がない画期的な試みだったと言えるでしょう。私がこの事実が付いたのは「資料と年表—成蹊大学の40年—」の編集に携わった時でした。30周年史の年表に実施された記録はあるものの関連資料がほとんど整理されていない状況を憂い、40周年を機に記録を整理すべきであるとの強い思いから、2度にわたって現地調査を実施しました。各市と長野県の図書館の書庫に入って黄ばんだ古新聞と格闘したことが昨日のことのように思い出されます。夏期大学を覚えていた老図書館員が昔話をしながら記事を探してくれたり、市の職員から夏期大学に関する小冊子をいただいたりしたお陰で貴重な記録をまとめることができました。こんな些細なことが退職にあたってのよき思い出となりました。これも、成蹊での後半を市民大学「武蔵野地域自由大学」の発足に参画するなど生涯学習・地域連携に力を注いだためでしょうか。

残念ながら、夏期大学は昭和55年に幕を閉じてしまいました。せつかく信州の地に咲きはじめた「桃李の花」が、いつの日か、ふたたび咲き誇ることを祈りつつ、成蹊学園での39年間に感謝申し上げます。

# 成蹊会学術教育助成事業 研究助成報告の要旨

## Recent Media Studies in the UK

理工学部 秋松 雅子

今回、英国の大学でそれぞれの視点でメディアを研究している学者による論文を『The SAGE Handbook of Media Studies』と『The Handbook of New Media』の二編を選べば、その研究方法を調べる『メディア言語分析』(英語は分析言語の中心として扱えるという立場)への応用を考察した『メディアの概観』を記す。

The SAGE Handbook of Media Studies, ed. by John D. H. Downing et al.

1. SOCIETY, CULTURE, AND MEDIA - Thinking Comparatively by Annabelle Strebeyn (a Visiting Professor of Global Media and Communication Studies in the new Media and Film Studies Programme at

SOAS, University of London)

\*この論文では、社会、文化、メディアが互いにどのように関係しているかを、米国、英国、イランという国単位のコンテキストを通時的に比較しながら分析している。比較する上で、あるコンテキスト内の現象が別のコンテキストでは別の構造をもつことをすくみだすことができるからである。#この社会的なメディア研究は、メディアの「ことば」をCritical Linguistics (言語表現の背後に潜むイデオロギーに注目する言語分析)の視点から分析する際に役立つ。同時に、比較分析の手法は、メディア言語の分析にも応用できる。例えば、ある一つのトピックに関して、英語、日本語、中国語で書かれた記事を社会的行為としての言語として比較分析することができる。複数の研究者による共同研究も可能である。

2. AUDIENCE AND READERSHIP RESEARCH by Jenny Kitzinger (Professor of Communication and Media Studies at Cardiff University)

\*この論文では、様々なaudienceが、どのメディアについてのように反応するかを4つの観点：消費者、商品としてのaudience、道徳、性と暴力に関する懸念、技術的発達 (new media)、文化、政治、アイデンティティに関する問題)から検討する。その多様なデータ収集術は、単なる視聴率と違い、すべてアンケートやインタビューなどaudienceの「ことば」による取りに依存している。そのひとつは、TVの番組などに関して編集者に送られた投書(電子メールも含む)や、オンラインによる意見交換やWebサイトを介してaudienceを研究する方法がある。#メディア技術の進歩に伴い、audienceが電子文字という形で顕在化し始めている。weblogで意見が交わされ、ついには、その社会で売られている粗悪商品の販売を止めることもある(The Timesのonline拒否権の論)。

また、audienceが、単なるメッセージの受け手ではなく、社会や国家の活動を変える力を持つ。このような状況で、新聞社などが設けているweblogの内容は、双方向デジタル時代におけるメディアと個人、社会、国家、そして世界との関係を探るひとつの手がかりとして分析に値する。使用言語は、ますます国際化する傾向にある。

The Handbook of New Media, ed. by Leah A. Lievrouw and Sonia Livingstone

3. Children and New Media by David Buckingham (Professor of Education at the Institute of Education, London University, Director of the Centre for the Study of Children, Youth and Media)

\*この論文では、子供のnew media、特に「computer games」や「online culture」の関わりを扱う。ゲームやネットのテキスト分析(テレビの場合も含めて)に関する先行研究を詳細に比較分析している。その結果、表面的な二項対立(violent/non-violent, negative/positive effects, male/femaleなど)にまどく内容分析、ゲームが悪い効果をもたらすという調査などが、不確実で、因果関係を示すには実証性に乏しいことを指摘する。

ゲームをする主体、および、「social context」を考慮に入れる必要がある。日々変貌する「new media」と子供達のかかわりを的確に把握するためには、既存のメディア理論を借用してもぐまぐまかかない。しかし、「ゲーム」の「representational」とか「judic」といったdimensional体を無視するわけではない。同時に、「narratology」、「visual iconography」や「semiotics」といった分野から派生する分析方法もゲームテキストの分析と密接な関係がある。

#ゲームのテキスト分析をするにあたり、既成の概念、一般化にとらわれず、研究対象に応じて実証可能な結果を得るために、多様なアプローチを試みようとしている。これは、従来の言語テキストの分析に関しても言えることかもしれない。コンピュータゲームのテキスト分析、また、効果的な「edutainment」

教材の開発など、研究すれば、研究方法そのものの開発にも結びつきそうだ。

4. The Information Society Revisited by Frank Webster (Professor of Sociology at University of London)

\*この論文では、1995年に出版されたTheories of Information Societyをアップデートすべく、最新の情報社会の‘conceptions’を再検討する。情報という定義が曖昧で、情報量が増せば社会の質が変わるといって支持できない仮説のおかげで、一般の人々は、本当は何が起きているのか理解していない。そこで、次の6つの局面から特定された情報社会の定義を分析する：1. Technology, 2. Occupational Change, 3. Economy (経済価値), 4. Space (情報の流れ), 5. Culture (象徴化の拡大), 6. Theoretical Knowledge。結果として、この場合にも定義の基準が不明瞭で支持できないとする。‘information’には、様々な分野、文化で400もの捉え方(‘non-semiotic’ と ‘semantic’ に大別される)があり、単なる数値化に基づく情

報社会の定義の危うさを指摘する。#既存の理論や定義はその時代においてさえも本当にそうなのか、再検討が必要なのが多い。時代や場所が変われば、当然、再検討されるべきで、この論文はそもそも情報社会とは何なのかを再検討しているところに意義がある。一般人のみならず、TofflerやGiddensといった学者にも、彼らの気付かない思い込みがあることも良く分かる。「情報」あるいは‘information’というすでに分

かりきつているような概念からまず問い直してみる、その上でオリジナルな理論を展開できるような研究が待たれる。付記：メディア(英語) 研究の目標の確認：文化が異なっても、人々が共通して望むのは、Srebenny教授の言葉を私なりに解釈すると、言論の自由が助長され、子供達が早熟にならず、そして過度に暴力的にならずに育ち、個人としてグループが、性別、人種、宗教などにかかわらず、何の抑制力も受けることなくすべての表現形式に接することが奨励されるような社会であろう。メデ

ィアは社会の構築に大きな影響力を持つので、メディア(言語) 研究の最終目標は、人々が望むような社会と共存できるメディア活動を実現することにあることであろう。英国滞在報告(2007.3.17 16:30 HRW 着) 2007.3.27 12:30 (TKY 着)：#ロンドン郊外から40分ほどかけて、ロンドン市内へ通勤し、車内で人々の新聞、携帯電話・コンピュータ(インターネット) などのかかわりを観察。(かなりの人が、フリーペーパーを読み、周囲に聞こえるような声ですつと携帯で話をしている。隣席で静かにメールを読んでいたある女性乗客に聞くと、公共乗り物での携帯の使用は、特に規制されていないと言う。) #朝日新聞ヨーロッパ総局訪問フリーペーパーの現状に関する説明を担当者から受ける。#平日(3.19)は、ロンドン市内のホテルにも泊(20日と22日)し、その間、地下鉄や市内(パブや公園、大学構内)で、一般市民にインタビュー。地下鉄駅周辺で、フリーペーパー(London Lite & the Londonpaper)の配布状況を観察。

地下鉄駅構内でタブロイド版の販売者達にインタビュー。#ロンドン市内のホテルの通信設備、インターネットカフェの観察。

#BBCのツアーに参加、The Guardian Newsroom訪問。#The Times (News International in Wapping) で、関係者3名をインタビュー。そのうち1名は、The Timesの調査部門(Strategic Planning)のリサーチチャール。2名は、Times Onlineの編集長とその後継者。#英国友人家庭に週末滞在し、メディア活動(TV、ラジオ、新聞、インターネットなど)を共にする。友人のご主人は英国政府で、首相付きのコンピューター技師をしていた人なので通信関連では、一般家庭よりも進んでいたかもしれない。#今回、時間と費用の関係で、大学の研究者と会う機会を逸してしまつたので、機会があれば、今回は英国の大学で調査したい。(サバティカルはないので、春・夏休みを予定)。

韓国における映像産業振興政策 文学部 奥野 昌宏 この数年來韓国のテレビドラマや映画が日本国内でも人気を博し、いわゆる「韓流」がブーム化した。その大きな起爆剤となったのが、『冬のソナタ』であることは言をまたない。韓国KBSで二〇〇二年に放送されたこのドラマは、その翌々年にNHKが放送すると、たちまちのうちに中高年の女性を中心とする多くの日本の視聴者の心をつかみ、大量の「ソナチアン」を生み出した。「チャングムの誓い」等の後続番組の人気もその延長線上にある、と言ってよい。もとよりテレビドラマだけが「韓流」を構成するわけではない。『冬のソナタ』の放送以前に、『ジュリ』(一九九九年)や『JSA』(二〇〇〇年)などの韓国映画が日本でも話題となつたし、また『風の丘を越えて』(西便制) (一九九三年)や『八月のクリスマス』(一九九八年)などもそれに先んじて映画ファン

の心を揺さぶつた。さらにこうした映像作品だけでなく、韓国ポップスも若者を中心にブ

アン層を開拓してきた。すなわち、一九九〇年代以降、韓国の大衆文化が着実に成長し、韓国内のみならず、日本をはじめとする東アジアの各国、各地域に受容の輪を広げてきたのである。そして、この広がりはたんに自然発生的・偶発的に生じたのではなく、政策的な後押しを基盤として産み出されたものなのである。

一九九八年二月に政権に就いた金大中大統領は、前年の金融危機の結果として強いられたIMF体制から早期に脱却するため様ざまな施策を講じたが、その政策の柱の一つが映像産業の振興であった。映画産業については、一九九九年にそれまでの映画振興公社に替わって新たに誕生した映画振興委員会が、振興資金の管理・運営を所管し映画製作の活性化を図ってきた。同委員会は映画の製作や海外進出等を積極的に支援し、調査・研究や教育・研修等も推進している。また放送産業の支援機関としては韓国放送映像産業振興院が一九九八年に設立され、放送番組の制作・流通・輸出等の支援事業を進めている。独立プロダクションの制作インフラの

整備や人材の育成も同機関の重要な役割であるが、これと平行して放送政策の検討や放送産業の実態分析等の調査・研究活動も行なっている。二〇〇三年から「放送映像産業振興五カ年計画」が実施され、総額五三〇〇億ウォンが投じられた。また新たな大衆文化領域をカバーする機関として韓国文化コンテンツ振興院が二〇〇一年に設立され

漫画、アニメーション、キャラクター、音楽、インターネット等の産業振興を図っている。同機関は国内企業の育成のみならず外国の事業者との共同制作や相互交流の支援も進めている。関連分野には韓国ゲーム産業開発院があり、ゲーム産業の振興・技術開発、海外進出等の支援事業を展開する。これらはいずれも韓国政府文化観光部文化政策局の関連機関として、韓国における映像産業の振興を支援しており、映像産業を中心とする同国の大衆文化産業の発展を支え、同時に「韓流」の産業的基盤を固めている、といつてよいだろう。

## 環形動物門多毛綱ツバサゴカイ科 Mesochaetopterus 属の摂餌と生息場所への適応

中学・高校 荒井 晴志  
環形動物門多毛綱 Mesochaetopterus 属は少なくとも

13種が記載され、うち、日本では、体幅1mmの小型種であるスナタバムシ Mesochaetopterus minutus と体幅10mmの大型種 Japonicus が出現する。前者は、本州中部以南の砂質底に高密度なコロニーを形成する集団と、岩などの基質に付着してコロニーを形成し群居する八丈島固有集団の存在が知られている(荒井・上野, 2003)。M. japonicus は河口域や干潟に出現する。本属は世界的にみると、少なくとも13種が存在し、日本産のものと同様に、小型で群居型の種群と、大型で単独生活型の種群が存在する(荒井・上野, 未発表)。砂質棲管を建造し、摂餌は、懸濁物粒子を主に1対の副感器手で捉え棲管内に取り込み、摂餌する場合と(EAU, CHALD & JUMARES, 1979)、体節の腹足肢をつかり、シニールカスバッグをつくり、棲

管内に取り込んだ餌粒子をその内部へ集め、カップ状の器官で固めフードボールを作る場合がある(Barnes, 1965)。本報告では、13種のうち、試料の得られた10種について、生息場所への適応と、さらには摂餌戦略を理解することを目的とした。

Mesochaetopterus 属 10種の体幅サイズと副感器手長の関係をみると、体幅が大きくなるにつれて副感器手長も均等に長くなるタイプの種群と体幅が大きくなっても副感器手長はあまり長くない種群が認められた。また、前者は中部剛毛節に存在するミット状摂餌器官数が2つ以上備わっている種群で、後者はそれが1から2個以内の種群であった。Mesochaetopterus 属10種の体幅とミット状摂餌器官数の関係は、体幅が大きくなるとミット状摂餌器官の幅も広くなる傾向が認められた。また、小型でミット状器官幅の小さい種はミット状器官数が1個であり、体幅もミット状器官幅も大きい種は、ミット状器官数が1から2個であり、この両種グループの間隙をミット状器官数4個以上の種群が占めていた。Mesochaetopterus 属の種

副感器手長とミット状器官幅の関係を見ると、副感器手長が長くなるとミット状摂餌器官幅も広くなるが、さらにミット状摂餌器官幅が広くなると副感器手長が短いものとなった。Mesochaetopterus 属9種の体幅に対する副感器手長の割合とミット状器官幅の関係を求めた結果、ミット状器官幅が大きくなるにつれて、体幅に対する副感器手長が短くなる傾向が認められた。体幅に対する副感器手長の割合と個体のもつ全ミット状器官の総表面積の関係を見ると、全ミット状器官の総面積が広くなるにつれて、体幅に対する副感器手長が短くなる傾向が認められた。小型のものほど摂餌を副感器手にたより、大型種ほどミット状器官にたよることが明らかとなった。また、これらの結果に各種の生息場所を比較すると、小型のものほど砂質底で群居し、大型のものほど河口域や干潟に出現しているため、大型種群は生息環境上豊富な有機物を効率的に集め捕食し大型となるが単独生活型となり、小型種群は期待できない集餌効果のため大型とはならず、一個体の個体サイズを小型化し、個体数を増やし

包括的適応度を増加させる戦略を選択していることが示唆された。

## 日本列島における動物地理的分布境界線の研究

中学・高校 石塚 小太郎

日本列島における動物の地理的分布の境界線としては九州の種子島から琉球列島間に三宅線(昆虫)、渡瀬線(哺乳類・爬虫類・両生類)、蜂須賀線(鳥類)等がある。本研究は土壤動物を代表する貧毛類(ミミズ)を指標として土壤動物地理的分布境界線の解明の研究に着手したものである。本年度調査は平成15、16年度に引き続くものである。本研究はまだ調査不足ではあるが一応の成果を報告致します。

ミミズの分布で北海道から九州大隅・薩摩半島までに普通に分布する5種に着目し、その5種の分布を3年にわたり種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島で調査した。その結果は、種子島で4種、屋久島で3種、口永良部島で2種、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島で0種とい

う結果となった。したがって、奄美大島と屋久島・口永良部島でその土壤動物地理的分布の境界線があると判断できる。

しかし、さらに琉球列島、トカラ列島での今後の調査を必要とする。

## 少人数制の効果的な外国語教授法

中学・高校 柿本 理沙

このたびは成蹊会学術教育助成を賜り、その成果報告とあわせて深く御礼を申し上げます。

外国語教育に關しまして、成蹊では新しい試みが積極的に展開されており、小学校から大学までの大きな枠組みで国際教育を考えております。成蹊学園ですが、その成果があつて生徒もさまざまな場面で刺激をうけることができるようになっていきます。生徒のための国際教育プログラムが次々と考え出されて、動き出している一方で、それに参加する生徒の興味関心をあげていくことはとても大切なことです。そしてそれが普段の授業の中で行われることが望ましいと思っております。成蹊高校の英語の授業も教師のさまざまな

工夫によりそれは実現されております。そしてその工夫の一つとして少人数でこそできる授業を受け、このたびは成蹊会のご支援を受け、実現させることができたことをうれしく思います。

はじめから国際関係や外国語に興味のある生徒は積極的に自ら行動できますが、興味関心の低い生徒に対してはさまざまな工夫が必要です。普段の授業の中で刺激を多く受けさせることが大切です。「刺激」という言葉を使っていたきましたが、この一年間で生徒に対してはできる限り多種多様な刺激を与えました。英語では「聞く・話す・読む・書く」という4つの技能があります。その4つの能力を刺激することで学習の発達を目指しました。生徒を取りまくあらゆるものを題材として活用し、学習の道具としました。具体的には生徒にインプットさせるものとしては音楽、映画、新聞、インターネット、書籍などを効果的に活用しました。そして自ら調査をして考える手段として英語を使うことも多く体験させました。道具として英語を活用し、ある情報をアウトプットした際に情報発信の成果を

省みる手段として、ビデオ撮影やレコーディングも行いました。

少人数クラスで行うことで個々の興味関心から授業を生徒主体のものにすることができました。外国語に關心の低かった生徒に対して行った授業はあらゆる「刺激」の成果もあり、生徒の表情や学習の仕方から英語に対する意識の変化を感じられました。そして少人数制だからこそ一人ひとりに適した情報の提供と道具の活用が可能でした。このような豊富な情報提供と道具の活用は成蹊会のご支援がなければ十分に満足できるものにはならず、今後の指導の助けにもなりましたことをご報告し、今後も成蹊の英語教育のさらなる発展のために貢献していきたい意思をもって御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 佐藤春夫のポストコロニアル意識

中学・高校 河原 功

一九二〇年の夏、佐藤春夫は台湾へ旅行した。当時の日本国民の感情としては、台湾は伝染病の蔓延と台湾住民の武力抵抗の絶えない、不衛生で危険な土

地というイメージが強かった。そのイメージをなんとか払拭して投資や移住、観光を促そうとしていた台湾総督府では、佐藤春夫の予期せぬ突然の来台は願ってもないチャンスだった。これを機に台湾宣伝に一役かかってもらおうと、下村民政長官は全島の役所に佐藤春夫を手厚くもてなすようにと通知した。佐藤春夫には列車等の無料パスが与えられ、山地では護衛が、平地では案内人や車まで用意された。そして彼は、三ヶ月に及ぶ台湾体験をもとにして、一〇編近くの優れた作品を発表した。

ところが、佐藤春夫は必ずしも総督府の期待に沿った作品を発表したわけではなかった。「殖民地の旅」では台湾人に同情を寄せるいつぼうで、総督府の植民政策を批判したため、掲載誌「中央公論」は台湾で発禁となった。「霧社」「魔鳥」では原任民政策を痛烈に批判した。近代日本が殖民地を手にして先進国の仲間入りを遂げることが出来たと嬉々としているなか、佐藤春夫は冷静に植民政策の実態を分析し、早くも批判を下したのだった。当時にあつて彼の台湾理解の秀でていたことは、



こうした作品から窺い知ることが出来る。にもかかわらず、台湾旅行に触れた佐藤春夫作品の研究は著しく立ち遅れている。

今回成蹊会芸術教育研究助成金を頂戴したことで周縁をかなり固めることが出来た。

しかし、新たな疑問点も生じた。その一つに、「女誠扇綺譚」に登場する「私」を、台南の安平港に案内する友人「世外民」の件がある。この「世外民」のモデル説は諸説あるのだが、未だに推測の域を出ていない。ところが、「世外民」のモデルは自分だと「西口紫漢」が名乗っていることを今回初めて知った。確かに「西口紫漢」は、一九一八年に台湾新聞社編集局に入社

二年には台湾新報の社会部長に就いている。この間彼は台湾で、文芸誌『人形』を創刊、また歌集『南の国の歌』、随筆集『南国物語』を上梓している。

従って、「西口紫漢」が佐藤春夫に出会った可能性も考えられる。しかし、「世外民」は、若い台湾人で、「台南から汽車で

一時間行程の亀山の麓の豪家の出」家は代々秀才を出したといふので知られてゐた」とある。決して日本人ではないのである。

その真偽を確かめるために、

彼が戦後長い期間にわたって発行人をつとめた雑誌『博多余情』、また著作に当たることに

した。それらは福岡にのみその一部があることがわかった。幸いにして九州大学、福岡県立図書館、福岡市立総合図書館で確

認が得られた。

また新たな謎が生じた。『博多余情』の中で「西口紫漢」は、佐藤春夫と共に「阿里山へも行った」と記しているのだった。

ところが実際には台風の影響で交通遮断となり、佐藤春夫の阿里山行きは実現していないのだ。いったいどうなっているのだろうか。

表題に沿った論文を発表するにはまだまだ調査が必要だ。

今回成蹊会芸術教育研究助成金を頂戴したことに感謝申し上げる次第である。

## 「英語表現」における視聴覚教具の活用 法開発

中学・高校

アンドリュウ・ブラフ

成蹊高等学校では、新課程に伴い「英語表現」という科目を

設置した。これは、口頭英語に

重点をおいた「言語活動」を中心に授業を展開するものである。

本研究者は、「スピーチ」「ドラマ」の言語活動を中心に年間指導計画を立てた。授業では、生徒の活動をビデオカメラで撮影し、さらにそれをコンピュータの映像編集ソフトで整理した。

その効用は次のようにまとめられる。

1、生徒は、自己の言語活動を事後に観察することができ、質の高いフィードバックを得ることが出来る。

2、教師は、事後に生徒の活動を時間をかけて評価することが出来る。その上で、質の高いフィードバックを与えることができる。

3、編集した画像は、時間のロスがなく、さまざまな場面で活用できる。たとえば、翌年の受講希望者に見せることにより、より動機の明確な受講生を集めることができる。

今回の成蹊会芸術教育研究助成金をいただき、必要な視聴覚教具を整えることができた。ここに深謝の意を表したい。

## スローラーナーに対する動機づけと定着

中学・高校 山戸 眞子

2006年度は高2、高3ともに英語の習熟度別クラスで基礎クラスを担当した。英語に対する苦手意識が強い生徒達もいるので、「生徒が授業に参加しやすい、学習内容が定着しやすい授業をする」という目標を立てた。授業ではペア活動などを入れてできるだけ参加型の授業にする、音読や歌、ダイクテーションなどの音声の活動を入れる、中学校で定着していない基本的文構造を再確認する、単語の繰り返しをして定着を図る、生徒が理解していない中学校の内容はそこに遡って学習する、などに留意した。

音読指導については、現在ではさまざまなバリエーションの授業実践が行われている。生徒が教員の後についてリピートする基礎的方法の他、生徒が自分のペースで読むバズリーディング、秒数を計る・四方読み（起立して前・右・後・左と向きを変えて4回読む）などできるだけ早く音読するスピードリーディング、英文を見ないで顔を上げてリピートする Read & Look &、同時通訳の練習にもなっているシャドーイング（影ふみのようにテープや教師の音を聞いて0・1秒ほど遅れてモデルの音声そっくりに読む）などである。またペアで行う音読活動としては、ペアで相手を追いかけて早く読むチェイス読み、相手が日本語で言った部分を英語で読む交互読み、ペアの片方が空欄の入った英文を読み相手がそれをチェックする虫食い読み、そしてペアのシャドーイングなどがある。シャドーイングはかなりハイレベルな活動であるが、この訓練をしていると、聞きとった英文を一端頭の中でストックし再生できるようになるので、ダイクテーション（聞いた英文を聞き取って書く）もかなりできるようになる。実際練習により生徒達はかなり聞き取り書きができるようになってきた。音読の評価としては、視聴覚教室に個々の録音機能があるのでそれを使って生徒が各自の声を録音し、教員が後で生徒の声を一人ずつ聞いて評価をした。

中学の内容理解の復習については、中学校の先生の授業実践

成蹊高等学校では、新課程に伴い「英語表現」という科目を

設置した。これは、口頭英語に

重点をおいた「言語活動」を中心に授業を展開するものである。

本研究者は、「スピーチ」「ドラマ」の言語活動を中心に年間指導計画を立てた。授業では、生徒の活動をビデオカメラで撮影し、さらにそれをコンピュータの映像編集ソフトで整理した。

その効用は次のようにまとめられる。

1、生徒は、自己の言語活動を事後に観察することができ、質の高いフィードバックを得ることが出来る。

2、教師は、事後に生徒の活動を時間をかけて評価することが出来る。その上で、質の高いフィードバックを与えることができる。

3、編集した画像は、時間のロスがなく、さまざまな場面で活用できる。たとえば、翌年の受講希望者に見せることにより、より動機の明確な受講生を集めることができる。

今回の成蹊会芸術教育研究助成金をいただき、必要な視聴覚教具を整えることができた。ここに深謝の意を表したい。

成蹊高等学校では、新課程に伴い「英語表現」という科目を

設置した。これは、口頭英語に

やワークショップを参考にしたりある研究会の先生によると、中学段階の英語学習では、1)動詞の時制(現在・過去・未来・現在完了などの動詞の変化)、2)語順(主語・動詞・目的語などの英語の文の順序)、3)品詞の区別(名詞・動詞・前置詞など)4)フォニックス(音と文字のリンク)、がポイントで特に中学1年と2年の学習がカギとなることだった。生徒の定着を図るため、パターン練習をいかに生徒を飽きさせないようバリエーションを変えて活動させ定着させているか、の段階指導について、中学校の先生方の実践はとても参考になった。授業ではこれらを参考に、教科書の各単元とリンクして復習をしていった。

今年度成蹊会の研究助成を頂き、実践研究をサポートしていただき大変感謝しております。ありがとうございました。来年度以降も今回の実践をさらに発展させて行きたいと思えます。

## 学ぶ力を育てる一年生の指導について

小学校 石根 要二

平成18年4月、成蹊小学校に勤務してから6回目の1年生の担任となりました。

そこで年度当初の4月に、一人ひとりを大切にして「こんな子どもに育てたい」というめあてを考えました。

- ① 健康な子ども  
・元気で学校に来る  
・しっかりと食べる(好き嫌いをしていない)
- ② やさしい心が持てる子ども  
・やさしい心とがんばりを発揮する  
・自然とのふれあいをもち(心の豊かさ)
- ③ 一生懸命に取り組む子ども  
・先生や友達の話がよく聞ける  
・自主的に取り組んで学力をつける  
・本に親しみ、考える力をつける  
・自学する力をつける(自学自修)  
・よく見、よく考え、日記を

しつかり書く  
・自分の意見が、みんなの前で発表できる

① ② ③ の3つの柱が融合していくような教育  
研究目的及び方法の概要としては、

- ・一人ひとりを大切にした「成蹊教育」の研究
- ・1年生の学級経営と学年経営についての研究
- ・男子14名女子14名計28名の少人数教育の実践的教育の探求
- ・学習に主体的に取り組める子どもの育成
- ・日々の実践内容は、ノートや学級通信などにまとめ、今後の指導の参考資料になるように記録する
- ・一年間の教育実践の記録をまとめ、印刷し製本する

創立当時の主筆、小瀬松次郎先生の手になる「成蹊小学校の一年間」が、大正6年に刊行されています。創立者中村春二先生と共に、草創期の教育に心魂を傾けられた小瀬先生がその教育思想と教育実践とを具さに書き残された貴重な文献です。1年間の教育実践がまとめられています。

私の成蹊小学校の1年生の担任としては、今回が最終となると思いますので「学ぶ力を育てる一年生の指導について」まとめておきたいと思えました。

平成18年4月5日〜平成19年3月20日までの教育実践に取り組み、そのことについて記録しました。特に4月の入学当初は、

時間的にもどのように取り組んだかについて具体的に記述し、遠足や運動会や夏の学校、文化祭、音楽会などの学校行事については、計画案や子どもの日記なども記述していきました。

そして、一年間の教育実践のまとめを製本したものは、1冊成蹊会の方に届けます。

1年生の指導内容について具体的に知りたいと思われる方は、読んで参考にさせていただければ幸いです。

## 「読み」の授業を考える

小学校 中田 聡子

「読書が嫌い」という子はほとんどいません。自習級の子どもたちに、年度始めにアンケートを行って見たところ、「あなたは本を読むことが好きです

か。」という問いに対して、「はい」が22名、「どちらでもない」が3名、「きらい」が3名という結果でした。週に一度の図書館での読書の時間を楽しみにしている子どもも多くいます。しかし、一人ひとりの子の読書傾向を見ても、ジャンルに偏りがあったり、読み応えのある本になかなか手が伸びなかつたりといった課題が見られます。また小学校の図書館の利用状況をみると、学年が上がるにつれて、利用率が下がってきているのが現状です。そこで、本研究では、

授業での「読み」の授業を子ども読書の読書活動につなげていくための指導について考え、実践していくことにしました。

国語の授業の中では、物語文や説明文など様々な文章を扱います。教科書教材だけを扱っていきくと、物語を読んだ後は、まったたく内容のちがう説明文を読む、というような、一つひとつの単元のつながりがなく進んでしまいがちです。ある作品の読みをきっかけに子どもがさらにその世界を広げていこうと思っても、その意欲を断ち、まったく別の学習に移ってしまうことがあります。そこで、例えば、

詩の授業を行ったときには、同じ作者の他の作品を紹介したり、学級文庫に詩の本を置いたりというように、子どもの興味、関心が自然な形で広がっていくよう考慮しました。また、詩にリズムをつけて音読したり、動作化を取り入れたりといった表現活動にもつなげていきました。

また、行事について書かれた説明文の読みをきっかけとし、各地の様々な行事について図書館で調べ、それを発表するといった実践も行いました。

子どもの読書活動を豊かなものとするためには、「読みなさい。」と声かけするだけではその成果が上がらないの言うまでもありません。学校図書館や学級文庫の整備といった環境づくりと併せて、読書のきっかけとなるような授業の在り方について今後も模索していきたいと思っています。

## 小学校植物の授業への活用

小学校 林田 真治

6年生の植物のつくりと光合成のところを改めて知っている植物を聞いてみると、チューリ

ップ、アサガオ、サクラ、ウメ、タンポポなどが多く、植物の名前がなかなか定着していないことがわかります。特に雑草とよばれている植物たちは子ども達にとつては役に立たない植物と捕えられていて、雑草には名前がないのではと考えている子どももいました。これでは身近に植物が多くあっても、なかなか植物への興味にはつながりません。そこで6年生の「植物のつくりと光合成」の単元で、多くの身近な植物を取り入れ、子ども達の身近な植物への興味・関心を高めたいと考えました。

まずは、根のつくりの学習ではドクダミやスズメノカタビラなどを使い、様々な形態の根があることを知らせました。普段は目にすることの少ない根をみせることで、地上部の形態と根のつながりがわかり、他の植物でも根はどのような形になっているのかを考えられるようになつていったようでした。

くきのつくりでは中のつくりをみせる場合はホウセンカなどを使いますが、理科室脇に生えているアレチチコグサやアキノキリンソウのくきなどを使用しました。次にくきのタイプを知

る学習では、体高が低いオオバコ、直立するアレチチコグサ、つる植物のヤブガラシを見せてどの植物が日に当たりやすいか、また日に当たりにくい植物はどのような工夫をして日に当たるようにしているのかを実際に行つて確かめたり考えさせたりしました。特にヤブガラシはそのつるの長さが印象的で、実際に木にからみつきながら上へ登つていく姿を見て、子ども達の記憶にも残つたと思います。

葉のつくりでは、定番のムラサキツユクサの他に、葉が厚いアカンサスやアジサイなどを使い実験しました。早く観察が終わつた子ども達はいくつかの種類の葉をとつてきて観察を楽しんでいました。

## 低学年における「音を聴くこと」の学習を深める

小学校 倉内 祐子

子どもを取り巻く音環境は時代と共に非常に悪くなつてきている。街中では、拡声器からの様々な美しいとはいえないアナウンスや音楽が絶え間なく流れ、家では余程意識をしている家庭でなければテレビやCDなどを流し続けているのが普通となつてしまつている。子ども達は、「静かな環境にいろ」ことや「静かに又は静かな音を聴く」ことの経験が必要なのに、それが阻害されているのが現代である。周囲の意味のわからない騒音に常に晒されていると「聞かないように」する耳を作ってしまう。これは学習が「先生の

話を聞いて理解する」事を基本にしている以上、由々しき問題だと考えている。

音楽では、演奏実現の前に必ず沈黙が必要である。沈黙の中で、これから演奏する音楽のイメージを準備して心を合わせるのである。しかし、音を刺激としか感じられない状態では大声で「いつせーのーせ」といつてとりあえずタイミングを合わせることしかできない。それでも合つていれば音楽として聞けるのであるが、子どもの内面を耕す経験にはなりえていない。中学年、高学年になつて、自分のパートを正しく演奏できはしても周りを聴くことが出来ずにアンサンブルにならない子どもを何人も見るにつけ、音楽での基本となる「音を聴く」ということにもつと焦点づけた学習を低学年の間に十分に行う必要を強く感じていた。

助成金で、響きを大切にする楽器を買わせて戴き、授業で活用している。子どもは短い歌の始まりと終りに、それらのフィンガーシンバルやペンタアングル(五角形のトライアングル)、ゴングの音を聴く。鳴らす子どもは学級の子ども達も耳を澄ま

していることを確かめてから一度だけその音を響かせる。集団全員がその音に集中しているとそこには無音の時よりも深い沈黙の状態が現れる。この経験や折々に小さい音を聴く経験、聴き取る経験を続けていくと、「静かに耳を澄ませる」ことの意味が体の中に入っていく。それにより、楽器でアンサンブルをした時に明らかになるのであるが、合わせる事に必要な耳と心が出来てくるのである。そして、それは「他者を認める」という心の状態も育てていく事にもならない。音と音の間を聴くことで、人と人の間にあるものも感じられ、認めることができるようになるのである。「音を聴く」学習は、ただ聴覚を鍛えることなのではなく、広く子どもとの心と体に染み込み、成蹊の伝統である「心力」に通じる大切な学習であると位置付け、これからも深めていきたい。



●ここに謹んで哀悼の意を表します●

物故会員

(平成18年11月1日〜平成19年4月30日迄に「連絡のあった方を掲載いたしました。」逝去の年月日が不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。)

原孝一郎(特別賞)平成18年10月28日	井村和朗(旧高13)平成18年11月18日	佐々木勝久(フ)	10)
富水大雄(特別賞)平成19年1月18日	福田富重(高3)平成18年11月19日	長谷川潤(経)	36)
和田弘(特別賞)平成19年2月8日	多田修(旧高23)平成18年11月22日	角田智彦(工)	12)
富田重時(実専4)昭和59年10月8日	菊池隆(工1)平成18年11月23日	福沢美穂(文)	9)
牛島邦彦(政経16)平成10年6月15日	小黒勝利(旧高8)平成18年12月3日	杉林高(法)	5)
高橋雅一(政経12)平成17年7月28日	千葉一実(工17)平成18年12月10日	石井靖久(法)	8)
書上慎(旧高6)平成17年10月8日	中村映(旧高20)平成18年12月17日	鶴克郎(法)	8)
田角隆司(高4)平成17年10月30日	河田隆一(旧高14)平成19年1月1日	中村信介(法)	8)
堀口宏(経3)平成17年12月29日	長尾透(旧高11)平成19年1月2日	斎範明(法)	9)
名井透(旧高20)平成18年2月16日	三田達三(政経16)平成19年1月5日		
柳田句子(文7)平成18年3月4日	川島一郎(旧高9)平成19年1月9日		
河野哲也(工13)平成18年3月9日	藤岡久子(女18)平成19年1月14日		
高見沢三郎(旧高4)平成18年5月22日	鈴木達生(高4)平成19年1月19日		
武内卓也(高11)平成18年5月22日	定野満(政経9)平成19年1月29日		
中村皓(旧高21)平成18年7月12日	東島武夫(旧高22)平成19年2月19日		
田中克尚(政経6)平成18年8月24日	谷澤淳三(小51)平成19年2月20日		
石川文夫(フ2)平成18年9月8日	内田清一郎(旧高16)平成19年3月3日		
小林基悦(旧高23)平成18年9月12日	小林恭治(高2)平成19年3月8日		
上村亮肇(高8)平成18年9月28日	柳川俊一(旧高20)平成19年3月16日		
小笠原紘三(政経14)平成18年10月10日	尾崎昌之(政経14)平成19年3月31日		
羽成兆民(政経14)平成18年10月15日	浅野順二郎(高9)平成19年4月1日		
志村宏(工7)平成18年10月26日	家村修(旧高21)平成19年4月11日		
岡田三三子(女11)平成18年10月28日	神谷常規(高8)		
増田裕(旧高17)平成18年11月2日	グルプリツヒ逸子(政経6)		
林貞一(政経8)平成18年11月13日	小川正(政経6)		

# 成蹊会の母校への後援事業にご協力を

本会は成蹊学園創立(1912年)以来の卒業生団体であり、昭和30年社団(公益)法人に組織を変更して、従来の親睦団体活動のほかに下記のとおり幾多の有意義な事業を行っております。何卒ご後援のほどお願い申し上げます。

- 1. 育英奨学事業** (基金22,148万円・18年度実施額1,776万円)  
昭和31年以降、育英奨学制度を設け、主として成蹊大学生・高校生を対象に毎年奨学金を貸与しております。社会の要請に対応したより良い奨学金制度を目指しながら、この事業の拡充に努めております。(貸与額累計30,603万円・貸与者合計720名)
- 2. 学術・教育助成事業** (基金5,257万円・18年度実施額290万円)  
昭和49年以降、学術・教育助成制度を設け、小学・中学・高校・大学の教員に研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しております。また、平成2年度より成蹊会学術賞を設け、学術研究上顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に対して賞状と副賞(賞金)を贈呈しております。(助成額累計8,125万円・293件)
- 3. 国際交流事業** (基金2,803万円・18年度実施額90万円)  
昭和50年以降、国際交流基金を設け、成蹊高校と米国・濠州の高校との交換留学生交流諸費に充てております。日本の国際的地位の向上とともに、真に国際的に通用する人物の育成に寄与したいと考えております。(助成額累計1,935万円)
- 4. スポーツ振興事業** (基金2,794万円・18年度実施額171万円)  
平成2年度より新たにスポーツ振興基金を設け、小学・中学・高校にスポーツ振興助成金を贈呈、成蹊学園のスポーツ団体及び個人に後援金を助成しております。この奨励金により母校のスポーツ興隆を期待しております。(助成額累計2,609万円)
- 5. 文化振興事業** (基金4,203万円・18年度実施額515万円)  
平成12年度に旧「谷岡基金」の全額を移して新たに文化振興基金を設け、「成蹊桜祭」及び成蹊学園の文化団体に後援金を助成しております。その他、社会的に有益な文化事業を支援するため、必要な助成を行っております。(助成額累計3,264万円)

上記の各事業はご寄付金及び各基金から生じる運用収益金により賄われております。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のうちいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)指定いただければ当該基金に繰入れさせていただきます。
- 巻末の払込用紙(ご寄付金用)をご利用下さい。
- ご寄付金に対する税法上の優遇措置はございませんのでご了承下さい。
- 本件につきましてのおたずねは成蹊会で承ります。

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244

社団法人 成蹊会



# 平成18年度 寄付金芳名録

※ ご寄付金を寄せられた個人・団体・法人の皆様に厚く御礼申し上げます。 ※  
(敬称略)

**寄付金総額 1,382,326円** (平成18年4月1日～19年3月31日)

◇**基金別寄付金明細** (個人41名・6団体・5法人)

**育英奨学基金** 270,000円 (12名・1法人)

10万円 山本 孝一(経 19)  
 3万円 河目 堯介(旧高20)  
 2万円 訖摩 武英(高 2) 松嶋左右次(高 26) 三好 聰(政経9)  
 1万円 (株)三球電機製作所 井上 安代(女 23) 岩澤 浩一(経 23) 柏原 一之(高 8)  
 小林 慎也(経 18) 清水 英紀(政経8) 竹内カヨ子(政経14) 中嶋 庄亮(高 4)

**学術・教育助成基金** 66,000円 (6名・1法人)

2万円 飯口 威一(工 18)  
 1万円 (株)三球電機製作所 清水 英紀(政経8) 竹内カヨ子(政経14) 田宮 貞和(高 4)  
 1万円以下 伊藤 是衛(プ 3) 今井寅二郎(特別会員)

**国際交流基金** 230,000円 (10名・1法人)

10万円 匿名  
 3万円 矢野 岳(旧高24)  
 2万円 百瀬 卓(高 32)  
 1万円 (株)三球電機製作所 釜谷 徹(政経18) 小林 慎也(経 18) 清水 英紀(政経8)  
 鈴木 直志(工 35) 谷原 裕美(文 31) 長久保省三(工 4) 三戸部扶美(高 40)

**スポーツ振興基金** 240,000円 (7名・1法人)

10万円 武居 弘泰(高 9)  
 6万円 五来 純(経 10)  
 3万円 小田部 裕(経 3)  
 1万円 (株)三球電機製作所 小田切賢太郎(経 33) 清水 英紀(政経8) 松浦 隆三(政経16)  
 水谷 一郎(工 5)

**文化振興基金** 50,000円 (3名・1法人)

2万円 川田 恵三(旧高24)  
 1万円 (株)三球電機製作所 岡田 博史(文 1) 清水 英紀(政経8)

**一般寄付** 526,326円 (個人3名・6団体)

故赤沼 孝一(法 2)	6,000円
故朝倉 孝吉(旧高16)	100,000円
高校卒業50周年同窓会	85,350円
高校卒業40周年同窓会	50,000円
大学卒業30周年同窓会	150,819円
大学卒業20周年同窓会	50,000円
法学部黒沼ゼミ	60,000円
高校第55回二十歳の会	21,157円
水原 武彦(政経16)	3,000円

## 1. 育英奨学事業 1,776万円 (基金 22,148 万円)

○育英奨学貸与金 1,776 万円 (大学学部生 24 名・大学院生 4 名・高校生 2 名)

育英奨学金制度を設け、昭和 31 年以降、主として成蹊大学生・高校生を対象に、毎年奨学金を貸与しています。平成 18 年度までの貸与総額は 30,603 万円(720 名)、返済総額は 20,629 万円です。〈現在の貸与金額は、大学生は年額 60 万円/名、高校生は年額 48 万円/名〉

## 2. 学術・教育助成事業 290万円 (基金 5,257 万円)

○学術・教育研究助成金 250 万円 ○教育振興助成金 40 万円

学術・教育研究助成制度を設け、昭和 49 年以降、成蹊学園に勤務する小学・中学・高校・大学の教員を対象に毎年教育研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しています。平成 18 年度までの贈呈総額は 8,125 万円 (293 件) です。また、成蹊会学術表彰制度を設け、平成 2 年度より、学術研究上特に顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に「成蹊会学術賞」を贈呈 (隔年実施) しています。平成 18 年度までの贈呈総額は 475 万円 (19 件) です。

## 3. 国際交流事業 90万円 (基金 2,803 万円)

○交換留学生助成金 90 万円

国際交流基金を設け、昭和 50 年以降、毎年成蹊高校と米国・豪州の高校との交換留学生の諸費用を助成しています。平成 18 年度までの贈呈総額は 1,935 万円です。

## 4. スポーツ振興事業 171万円 (基金 2,794 万円)

○スポーツ振興助成金 110 万円 ○スポーツ振興金 61 万円

スポーツ振興基金を設け、平成 2 年度以降、成蹊学園の大学体育会・中学・高校・小学校にスポーツ振興助成金を、大学の学内スポーツ大会 (陸上・レガッタ) 及び全国大会の地方予選等で好成績をあげた学生・生徒 (団体及び個人) にスポーツ振興金を贈呈しています。平成 18 年度までの贈呈総額は 2,609 万円です。

## 5. 文化振興事業 515万円 (基金 4,203 万円)

○文化振興助成金 50 万円 ○文化振興費 465 万円

文化振興基金を設け、平成 12 年度以降、「成蹊桜祭」に文化振興費を後援し、「櫻祭」(大学)「蹊祭」(中高)及び大学文化会・新聞会に文化振興助成金を贈呈しています。平成 18 年度までの贈呈総額は 3,264 万円です。

	育英奨学事業	学術・教育助成事業	国際交流事業	スポーツ振興事業	文化振興事業
13年度以前	21,951	6,585	1,485	1,395	932
14 年度	1,860	280	90	156	430
15 年度	1,788	340	90	159	443
16 年度	1,788	290	90	171	458
17 年度	1,440	340	90	557	486
18 年度	1,776	290	90	171	515
合 計	30,603	8,125	1,935	2,609	3,264

単位…万円

# 成蹊会報告

（自）成18年11月1日  
（至）成19年4月30日

## 一、会議

### ■ 理事会

第166回（平成19年2月6日）

（1）成蹊会常務理事の互選の件

（2）平成19年度事業計画及び予算  
第167回（平成19年3月19日）

（1）特別委員会委員（補充）選任の件

（2）平成19年度事業計画及び予算（案）

（3）成蹊会役員・委員選出ルールの一部改定（案）

（4）成蹊会謝恩顕彰の実施（案）

（5）第52回成蹊会通常総会日程（案）

### ■ 特別委員会

総務企画委員会（18・11・1/12・1/19・1・1・30/2・26/3・29/4・16）

桜祭委員会（18・11・9/11・28/19・1・15/2・23/3・3/3・12）

WEB委員会（19・3・24）

広報委員会（19・1・30）

育英奨学委員会（19・4・19）

推薦委員会（18・12・21/19・2・23/3・27/4・13）

スポーツ振興委員会（19・1・17）

学術・教育助成委員会（19・4・19）

### ■ 同窓会

小学校同窓会委員会（18・12・5）

旧制高校同窓会委員会（18・11・19/19・2・19/3・16）

高等学校同窓会委員会（19・2・9）

政治経済学部同窓会委員会（18・11・27/19・2・2・19）

プレメ同窓会委員会（19・4・7）

経済学部同窓会委員会（19・1・25/3・8）

法学部同窓会委員会（19・3・8）

工学部同窓会委員会（18・11・26）

文学部同窓会委員会（18・11・26/19・3・8）

### ■ 支部会・地方成蹊会

静岡東部成蹊会（18・11・10）

広島成蹊会、中国支部成蹊会（18・11・11）

長野成蹊会（18・11・12）

岐阜成蹊会（18・11・11）

秋田成蹊会（18・11・17）

千代田成蹊会（18・11・20）

長崎成蹊会（18・11・25）

三重成蹊会（18・12・1）

京滋成蹊会（18・12・2）

渋谷成蹊会（19・2・9）

北海道支部「枯林忌の集い」（19・2・21）

兵庫成蹊会（19・4・19）

## 二、催事

安倍晋三さん内閣総理大臣就任を祝う会（18・11・22）

第八十四回枯林忌（19・2・17）

成蹊桜祭（19・4・1）

## 三、その他

育英奨学返還説明会（18・12・18）

成蹊会誌104号発行（18・12・25）

平成19年7月1日

発行所 社団法人 成蹊会

発行人 瀧 秀彦

企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局

印刷・製本 株式会社 光邦

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

電話 0422-51-2244

FAX 0422-54-6766

メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp

ホームページ <http://alumnnet.ne.jp/>